

# 学生による授業評価 と大学教育

大東文化大学授業評価報告書 I (全学データ)

2016年度

大東文化大学







## はじめに

ファカルティ・ディベロップメント委員会  
委員長 小松 義明

ファカルティ・ディベロップメント（以下、FD とする）委員会は、2016 年度「学生による授業評価アンケート」を実施しました。東松山校舎の電波の環境整備状況や学生、教員及び職員の負担を考慮した結果、マークシート方式のみで 2016 年 11 月 28 日から 12 月 3 日まで（翌週の予備実施期間も入れると 12 月 10 日まで）専任教員 2 科目、非常勤講師 1 科目を原則として実施しました。今年度は、2014 年度と 2015 年度と 2 年続けて前期に実施したことから、偏りを防ぐため後期に実施しました。

FD 委員会は、アンケート結果のフィードバックを組織的に実施することを FD 活動における大きな課題と受け止め、同時に各学部・学科の独自の観点から授業評価の結果を分析し、FD 活動を活性化していただくことに大きな意義があると考えています。そのため、2015 年度のアンケート結果の分析を各学部・学科へ依頼しました。授業評価アンケート報告書の記載項目は次のとおりです。

1. 「各設問の数値に関する検証」：分析に際しては、20 の設問のうち注目すべき数値に加えて 2014 年度と比較して特筆すべき事項の指摘をお願いしました。
2. 「学生の自由記述及び教員所見について」：昨年度と同様に、「授業改善に繋がる教員のコメント」をできるだけ多く紹介くださるようお願いしました。
3. 「2015 年度の検証を踏まえ、2016 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について」：前年度との比較を通して、進捗状況と更なる改善点・展望を明らかにしていただきました。

ここ数年、各学部・学科において、前年度との比較および全学の平均値との比較に関する分析の記述が増え、FD 活動の取組み状況の紹介や施設の充実の提案なども記述され、内容が豊富になってきていることに注目したいと思います。このことから、授業評価アンケートは、これまで先生方個々の授業改善のみにおちいりがちな側面がありましたが、組織的なフィードバックとして進展していると考えられます。本学の授業評価アンケートは新たな展開期に入ったと言えるでしょう。

今後の課題として検討すべきこともあります。授業評価アンケートの効果をさらに高めるため、FD 委員会はワーキング・グループを設けて設問項目の見直しや実施方法の改善についてなど、多くの課題を抱えていると考えます。

毎年度、学生にアンケートをすることは、授業の内容や方法の改善を図る上できわめて重要であると考えられます。今後も本学の魅力的な授業や教育改善の成果をより高めるため、FD 委員会で十分に議論し、本学の教育の質の向上を図っていくことが期待されます。

最後に、本年度授業評価アンケート実施にあたりご協力いただきました多くの学生、教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

以上

# 第1章 授業評価アンケートの目的と実施方法

## 第1節 アンケートの目的と実施の経緯

### (概要)

2016年11月28日から12月3日（翌週予備実施期間）に実施された「学生による授業評価アンケート」について報告する。アンケートの実施目的は、授業に対する学生の率直な意見を聴取して本学の授業内容及び教育方法の改善に資することにある。併せて、自己点検・評価活動の一環として行っており、本年度で15回目を数える。

アンケート結果に関する集計方針は、学生の授業への評価を統計的に、学年・学部・学科・授業別に提示することである。加えて、個々の教員・授業に関して学生がどのような感想・意見を持つかを個別に収集することにも工夫し、各教員に授業改善の取組みに着手するための判断材料を提供することを目指してきた。

また、（公財）大学基準協会（本学が2010年度に受審した認証評価機関）の方針を踏まえ、2011年度に本委員会が掲げた以下の姿勢を維持している。

（公財）大学基準協会による大学評価（認証評価）は2010年度で第一期が終了し、2011年度からの第二期大学評価（認証評価）では評価の基準が見直された。「全ての授業について統一した項目で授業評価が実施されていること」が、評価の際に留意すべき事項から外れ、その代わりに、達成度評価として「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる。」（『「大学評価」ハンドブック』（公財）大学基準協会）という留意すべき事項が設けられている。これに準拠した形で、大学は授業評価アンケートの継続又はそれに替わる制度を導入し、社会に対して教育の品質保証をしなければならない。これについては本委員会において、中・長期的な課題として検討していく必要がある。

（2011年度版大東文化大学授業評価報告書『学生による授業評価と大学教育』より）

### (認証評価結果を受けての本学の姿勢)

本学は2010年度に（公財）大学基準協会の認証評価を受審し、以下のような指摘（「助言」）を受けた。

「全学部において、授業評価アンケートが専任教員は年間2科目、兼任教員は年間1科目の実施にとどまっており、結果のフィードバックも主として個々の教員に委ねられているので、改善が望まれる。」（2010年度「大東文化大学に対する大学評価（認証評価）結果」（公財）大学基準協会）

この結果に対して、本委員会では2011年度から議論を重ね、2013年度には以下の方向を定めた。

- ①本学では2004年度までの4回にわたる授業評価アンケートでは全科目について実施してきた。しかしながら、「同じ教員が担当する授業で評価が極端に異なるこ

とは考えにくい」こと、「対象科目を絞り込むことによって教員・学生双方の負担を軽減」し「教員にはきめ細やかな改善策を策定するための労力を割いてもらいたい」（2006年度版授業評価報告書『学生による授業評価と大学教育』）との理由により、2006年度からは専任2科目、非常勤1科目体制に変更した経緯がある。2013年度に再度2004年度の結果を調査（3教員を無作為で抽出）したところ、同一教員により「極端に異なった」結果が出ているとは言い難かった。この確認に基づいて、アンケート科目数を絞っても十分に信頼できるデータがとれると判断し、専任2科目・非常勤1科目とした。

②アンケート結果のフィードバック方法が教員個人に委ねられているという指摘についてはこれを真摯に受け止め、組織的な取り組みが必要と判断した。2011年度まではアンケートの実施母体（現在ではFD委員会）のみが行っていたアンケート結果の分析を、2012年度分からは各学部・学科のFDを担う委員会に依頼して学部・学科単位で行う教育改善を促し、その分析結果を『報告書』へ掲載することとした。

なお、本年度（2016年度）、（公財）大学基準協会による第二期大学評価（認証評価）を受審した。その結果と本学の現状を勘案し、アンケートの今後の方向性について現在、抜本的な検討作業にはいつている。

### （今までの流れ）

近年の本学の「学生による授業評価アンケート」の流れについて、以下に要約しておく。

2009年度のアンケート実施から、設問と集計方法について大幅な見直し作業を行った。設問群の変更を行い、大きな3つのカテゴリー（「Ⅰ. 学生自身への設問」、「Ⅱ. 授業への設問」、「Ⅲ. 総合的な設問」）に分けた。

2008年度にあった「この授業を総合的に評価して下さい」（選択肢は「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」の5択）という一設問を、「Ⅲ. 総合的な設問」として4つの設問を設け、その平均評価値を以ってその授業の「総合評価」と改めた。その結果は全学集計「D. 学年別集計（学部・学科別集計）」にて観察することができることになった。

4つの設問の中にその授業に「とても満足できましたか」との設問をおいた。この満足度を以って授業の「総合評価」とする考えもあり得るだろう。しかし、単に満足したか否かの問いだけで直ちに総合評価とはできない。例えば、「この授業はあまり出席しなくても単位取得ができる」「（授業内容はともかく）先生の雑談が面白かった」など、設問の本意とは異なる動機で「満足」したと回答する可能性がある。逆に、本来ならば評価されてもよいような高水準の授業に対して「出席、授業態度に厳しく単位取得が難しい授業」や「高度な専門性のため授業についていけない」などの理由で「満足度」が低くなる傾向も否定できない。これらの観点を考慮して、「新しい自己発想」「分野への関心」「自分で考える姿勢」と「満足度」という4つの設問の平均値を以って「総合評価」とした。

こうした基準による結果が「総合評価」としてふさわしいかどうかについては慎重な検討が必要である。本委員会において「総合評価」の在り方については何度も議論してきたことを付記しておきたい。

本報告書に掲載されている全学集計表「A～D表」は2009年度に精査された集計法で、現在に至っている。2011年度から全学集計として「E. 学科別集計」を加えることになっ

た。

この学科別集計については、2009年度から報告書への掲載の是非を本委員会内で検討してきた。学科別集計表は各学科の設問ごとの数値がわかりやすい形で比較可能であることが議論を呼び、各学科の「序列」が示されているとの誤解を招きかねないという危惧が上がった。結果についての何らかの評価がないこと自体、アンケート実施の趣旨に反するとして、本委員会は2011年度から「E. 学科別集計」を掲載することにした。

本学が実施している「学生による授業評価アンケート」は授業を数値化して序列化しないことを本委員会は原則としており、学生および教員にアンケート実施を依頼する前提でもあった。実施科目には大規模科目もあれば小規模科目もあり、授業形式においても演習や講義など多様である。また、各学科や分野の性質や教員一人当たりの学生数などの全く異なる状況にある授業に対して同一基準によって一律に数値化することが原理的に不可能である。これらの限界を抱えながらも、アンケートによって個々の授業のアンケート結果を通して「授業改善」そして組織的な「教育改善」につなげることが本学の基本姿勢であることを再度確認しておきたい。

2012年度には携帯及びスマートフォンを使用したWebアンケートを実施した。従前のマークシート方式による膨大なコストと事務の過重負担が限界に達しており、アンケート自体の可能性を探るための試みであった。しかしながら、東松山校舎における携帯電波状況の悪さとサーバーダウンのトラブル等が重なってしまった結果、Webアンケート方式は時期尚早と判断して2013年度からは従前のマークシート方式に戻した。

### **(本年度の実施)**

2006年度以降後期に実施、2014年度及び2015年度は前期に実施した。本年度は実施期間の偏りを防ぐため、後期実施とした。

## **第2節 アンケート実施方法と集計の概要**

アンケート項目は授業形態や内容に関わらず全科目共通で、必要に応じて2項目を上限として質問項目の追加を可能とした。追加項目を実施した科目数は82件であった。

本年度もアンケートは無記名方式（匿名回答）とした。学生の自由な意見を妨げるべきではないこと、回収率が極端に下がる懸念があるなどの観点から今までの方式を踏襲した。

アンケート実施後に提出される教員コメントから、ここ数年、学生が記述する自由記述欄の内容に、根拠のない教員の悪口、重箱の隅をつつくような授業に対する不満などが記載されているとの報告が散見される。それでも、「匿名性」を保ち学生が自由な意見を提言できる環境を堅持することは極めて重要であると委員会は考えている。事実、このような記述をする学生はごく一部であるにもかかわらず、教員は僅かな否定的感想に過敏に反応しがちであることは否定できない。授業水準の維持や授業運営方法にそうした少数意見が大きな影響を与えてしまう可能性の存在は教育の品質と成果に直結する問題を惹起してしまう。常に評価されて続けている学生の多様な意見から授業改善に結びつける教員の冷静な対応を期待したい。

### **1) 実施対象**

前述の通り、原則、専任教員は2科目、非常勤講師は1科目実施とした。

まず、前年度に各学部・学科、東松山キャンパス運営委員会及び国際交流センターにおいて、アンケートに相応しくない科目（オムニバス科目、短期集中科目、演習科目等）の抽出と授業形式等の作業を依頼した。その結果を尊重し、本委員会にて本年度の全学の授業データを整えたうえで、アンケート対象科目の選定基準を「（１）登録受講者数が最も多い科目、（２）登録受講者数が10名以下の科目は原則として対象外とする」とした。

次に、本委員会が上記にしたがって選定したアンケート対象科目を各教員に連絡し、別科目での実施を希望する場合には本委員会へ申請をする方式を採った。その結果、変更希望の申請は計 69 件、主な変更希望理由は、「昨年度とは異なる科目で評価を受けたい」「専門科目での評価を希望したい」「再履修クラスではなく正規クラスで実施したい」等であった。技術的に不可能な場合を除いて、教員の希望通りの科目へ変更した。

実施した教員数と授業科目数等は以下の通りである。

教員数： 889名（専任307名、非常勤582名）  
 授業科目数：1,176科目  
 有効回答数：42,267人（延べ）  
 無効回答数：519人（延べ）  
 回答率：58.3%（無効回答数を含む回答率59.1%、分母は登録受講者総数）

※回収率について

登録受講者数を分母として回収率を算出しているため低い数字となっている。しかしながら、単位習得を断念した学生やアンケート当日に欠席した学生が多くいることを考慮すると、実質的な回収率（授業に出席した学生と回数件数比）は高いと考えられる。

表 実施科目・人数

区 分	専／非	科 目	人 数
実施対象科目	専任	595	308
	非常勤	590	587
	計	1,185	895
当日実施しなかった科目	専任	4	3
	非常勤	5	5
	計	9	8
当日実施科目	専任	591	307
	非常勤	585	582
	計	1,176	889

※1) 原則、専任2科目・非常勤1科目だが、科目選定上の都合で科目数に変動がある。

※2) 実施しなかった専任3名のうち2名については、対象の2科目中1科目は実施した。

## 2) 実施期間と方法

アンケートは、2016年11月28日から12月3日の当該授業時に実施され、実施時間は授業終

了前の15分～20分間であった。この週に実施できなかった科目は、翌週の予備期間に実施された。

アンケート実施に際し、教員はアンケート用紙の配付後に教室から必ず退室することとし、回答後のアンケート用紙は受講生の中から依頼した学生協力者によって回収された。

### 3) 集計方法

回答は5択制を採用し、回答は「非常にそう思う／そう思う／どちらとも言えない／そう思わない／まったくそう思わない」としたが、「Q1」では「100～90％／89～80％／79～70％／69～60％／60％未満」、「Q6」では「100～90点／89～80点／79～70点／69～60点／60点未満」と、設問に合わせて具体的数値の選択肢を設けた。

なお、項目ごとに平均値を出すとともに実数も集計し、エラーデータは除外している。

以 上

## 第2章 授業評価アンケートの集計内容と公表について

### 第1節 集計に際しての基本姿勢と留意点

アンケートの集計に際しては、本学の基本的な姿勢として次のことが継承されている。前回報告書より、当該の文章を以下に再録する。

学生による授業評価は、授業の運営をめぐって学生と教員のあいだの意思疎通を図り、教員が学生の声を受け止めながら今後の授業改善に役立てるための基本資料を提供する目的を持っている。したがって授業評価は、授業改善に取り組む教員を励ます「応援歌」となるべきものであり、この原則を離れて、集計結果に示された数値（評点）のみに基づいて単純に教員ないし授業を序列化することは厳に慎まなければならない。この点は、教員のみならず学生、職員を含め、全学の共通認識としてあらためて確認しておかねばならない。

（2015年度版大東文化大学授業評価報告書『学生による授業評価と大学教育』）

なお、この報告書の集計データは、今後の各学部・学科による組織的な建設的授業改善議論を深めていくためのひとつの素材として活用されることを強く期待している。

### 第2節 結果の分析について

本委員会では、第1回目から第10回目（2011年度）実施のアンケートまで全学集計データをもとに様々な分析を行い、2009年度から2011年度については、統計の専門教員を委員に選出し本格的な分析も実施してきた。

しかし、本委員会が行う分析作業は様々な方法で実施し、すでにやりつくしてきたこと、本委員会のみで各学部・学科を一律的および横断的に分析するには限界があること、また、これ以上の成果が期待できないと判断した。そこで2012年度からは、「FD活動」とは本来、大学全体のみならず各学部・学科レベルでの組織的な教育改善活動として取り組むべきであるとの認証評価機関および全国の大学等の全般的な認識と、各学部・学科への依頼として報告書の本委員会が収集したデータを活用してそれぞれの事情に応じた教育改善が図られるべきだと判断した。

2012年度分の各学部・学科の分析報告書は、初めての試みということもありまずまずの内容であったが、2013年度分の同報告書から内容が充実してきており、各学部・学科のFD活動に対する意識の向上の片鱗がみられる。昨年度、2015年度の同報告書は、本報告書第3章に掲載している。是非ご一読いただきたい。

なお、アンケートの分析業務を各学部・学科へ移行することは本委員会の負担を減らすことを意図したものではなく、分析の質を低下させるものでもないことを強調しておきたい。「学生による授業評価アンケート」はFD活動の一環として大変重要ではあるが、「アンケートの実施イコール大学のFD活動」であるという時代はすでに過ぎていることは周知の通りである。本委員会では、「学生による授業評価アンケート」はFD活動のひとつとして捉え、引き続き大学全体に関わる教育改善を目指す活動組織として役割を全うしていき

たい。

### 第3節 公表について

本報告書（冊子）には、以下の集計データと、その分析が収録されている。

- A：履修登録者数・回答者数レベル別集計（全学・学年・学部別集計）
- B：項目別集計（全学・学年別集計）
- C：項目別集計（学部別集計）
- D：学年別集計（学部・学科別集計）
- E：学科別集計

今回も実施した全科目毎の担当教員にコメントの提出を求めた。その結果、1,176科目中、提出があったものは607科目、提出率は全体で51.5%（専任46.0%、非常勤54.0%）だった。昨年（51.8%）より若干回収率が若干下がった。例年通り、全体的に低い数値、専任教員より非常勤講師の回収率が高い傾向が続いている。

その個々の科目の集計結果とそれに対する担当教員からのコメントは、2006年度より教員のコメントを付して学内に公表されることとなり、公表の方法は、CD-ROM版の報告書を図書館、各学部事務室・学科事務室等に置き、学内者（学生・教職員）のみ閲覧可能としている。

なお、2014年度からホームページでも学内者（学生・教職員）を対象として、認証のうえ閲覧可能とすることを予定していたが、現行システムの仕様上できないことが判明し、現在のところやむを得ず断念している。

### 第4節 今後の「学生による授業評価アンケート」の展望について

数年前から本委員会ではアンケートのあり方について抜本の見直しを含めた改革案について検討を重ねてきた。毎回検討もなく従前と同じ方法で実施を決めず全面的改定も含め検討してきた。しかしながら多くの高く厚い壁が存在し、全学的な抜本的改革の具体案を示せないのが現状である。

事実、本年度（2016年度）は本委員会に授業評価ワーキング・グループを設置し、新しいアンケート制度の抜本的な見直しを目標に検討を行った。委員会内では具体案の合意まで得られたにもかかわらず、委員会活動から全学へ提案への途中段階で廃案となった。

2017年度以降も引き続き検討することになる予定であるが、そもそも本学が抱える教育的課題がどのような状況であるのか、またそれらをどのような形で解決するのか、高いレベルでの指導力の発揮なくして教育改革は不可能である。事実多くの大学においても、平穏順調に教育改革が進んでいる様子はみられない。大いなる決意と巨大なエネルギーを投入して、ようやくその一步を踏み出したというのが、教育改革を軌道に乗せた大学からの声である。

本学においては、授業評価アンケートという教育改革のために1つのトリガーだけでなく、私立大学を取り巻く期美々しい現状を正確に読み解き、多くの課題を一気に正の方向に展開する大胆とも言える施策を断行すべき重大な局面にさしかかっていることを申し述

べておきたい。

本委員会から何回も指摘しているが、学内で抱えている諸問題、例えば8学部2キャンパス制による弊害、科目数・教員数が多く運用が困難な東松山校舎の現状と多大なるコスト、さらには教学を支える事務職員の過剰負荷など本学特有の諸事象はどれも本学の提供する教育品質に直接関わるものであり、授業評価アンケートだけに影響するものではない。

これらの諸問題については、全学的な議論と解決が必要不可欠と思われる。それと並行して本委員会は本学の教育の質を高めるための活動を行っていくべきであろう。引き続き、各学部・学科の本委員会の活動をご理解、ご支援いただくことを伏してお願いしたい。

以 上



### 第3章 昨年度（2015年度）の各学部・学科による分析報告

第1章および第2章でも触れたが、2011年度までは全学集計結果をもとに本委員会が分析作業を行い、アンケート結果をどのように授業改善へ活かすかは教員個人に委ねることに留まっていた。そこで、本委員会では各学部・学科の「組織的」な取り組みが必要と判断し、2012年度のアンケート結果から各学部・学科のFDを担う組織に分析を依頼し、報告をいただくこととした。

前回に引き続き、昨年度（2015年度）のアンケート結果を各学部・学科に分析していただき報告書を提出いただいたので、次頁以降に掲載をする。

今回は4回目の試みとなり、各学部・学科のから報告書が充実してきている。前述の通り2013年度分の報告書から、アンケートとFD活動全般に対する意識の向上がみられる。それまでは、アンケート結果に関する情報と授業改善に関する事項は、本委員会と個々の教員のみのものであった。それがこの制度を導入したことにより、各学部・学科による教育改善活動に繋がる機会になってきた手ごたえがある。アンケート結果による「授業改善」を如何にするかという課題が各学部・学科の教育全体を如何にするかという議論に繋がり、それはまさに「FD活動」という大きなカテゴリーである「教育改善」を行う姿勢が出ていたということである。このことは、次頁以降の各報告書からもよくうかがえる。

この取り組みは引き続き実施していく予定であり、本年度つまり2016年度のアンケート結果について各学部・学科へ分析を依頼し、2017年度版の本報告書に掲載する予定である。

以 上

## 1. 2015 年度各設問に関する検証

- 総合評価（Q17:新しい自己発想、Q18:分野への関心、Q19:自分で考える姿勢、Q20:満足度）において、文学部全体の中では、「肯定的」と「(やや肯定的)」とを合わせた数値において僅かに低く、逆に「(やや否定的)」と「否定的」とを合わせた数値は、その分下位の方に位置している。こうしたことから、期待度と現実との乖離が一部の学生の中で生じていると推測できるかもしれないが、他学科との学習形態などの違い（例えば、希望する演習担当に人数制限からやむを得ず抽選制を取っていること など）もあり、経年の推移を見なくてはならないところだろう。
- Q1～Q20 の項目を個別に見ていくと、Q2 の「予習・復習・練習」と Q6 の「授業姿勢への自己評価」の 2 項目が 19 学科の下から 7 位と 8 位となっており、それ以外の項目は非常に上位に位置していることが判る。評価の低い 2 項目に関しては、かなり主観的な判断を迫る項目であることから、自己評価に対して謙虚な学生が多いため数値とも考えられる。しかし、学科のオリエンテーションなどを通じての促しも必要であろう。
- 「出席率」、「シラバスの熟読」、「教材等の持参頻度」、「授業目的の明確さ」、「シラバスの反映」「理解しやすさ」、「適切な授業進行速度」、「板書などの見やすさ」、「教材の使い方」、「教員の熱意」、「毎週の期待」、「新しい自己発想」、「分野への関心」、そして何より重要な「満足度」といった項目に関しては、かなり高い数値である。このことは、学科としての学習への取り組みが、かなり良く行われている証左と言えるだろう。

## 2. 所属学部・学科の教員コメントについて

- 学生による授業評価アンケートに対する教員のコメントは、主として今後の授業改善のためになされるべきものと思われるので、そうした反応を示しているコメントを以下に提示しておきたい。

「授業に関連する授業外課題などをできるだけ提示して予習や復習する習慣を身につけさせるようにしたい。」

「机間巡視を積極的に取り入れて、受講生と積極的なコミュニケーションを図りたい。」

板書を増やしたり、その見やすさなどの改善とともに、「私語など、授業態度不良の学生にはその都度注意をして授業への集中を促すことなどを積極的におこないたい。」

「学習機会をさらに促すよう、ワークシート教材を配布し、予習・復習に活用できるようにしたい。」

「教職課程履修者が多いので、中学・高校の教科教育に配慮した内容を織り交ぜ、学生の興味・関心をさらに高めたい。」

教員の声が聞き取りにくいということに関しては、「意識して大きな声をだすように心がけたい。」
- 次に、教員がアンケートの指摘で困惑しているコメントを、少し紹介しておきたい。

「自分で考える姿勢」は涵養するのが難しく、苦慮している。

「大学の授業では学生が要点をメモしつつ、帰宅後の復習で要点をまとめた文章を聴講者自身で作るのがいいと思っているが、そういう「思い」が現代の学生には通用しないのだろう。」

「参考書を紹介するようにつとめているのだが、あまり読んでもらえていないのは残念である。」
- 以上が、教員からのコメントの一部であるが、総じて教員は学生の指摘などに対して真摯に、誠実に改善策を考えて、学生の勉学のために努力している姿勢が窺えた。こうした意識が毎年継続されることで、更なる学習向上の展開に繋がっていくものと考えられる。

### 3. 2015年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

- ・昨年度から、日本文学科では新入生セミナーを実施し、先輩学生から新入生に対して、学生生活や学習とアルバイト、教育実習および就職活動などについて、話を聞いたり質問を受けたりして学生相互間の交流を促し、入学時の不安を解消している。さらにレクリエーション活動も導入して、入学後の学内での人間関係のスムーズな構築に役立つよう努めている。こうしたセミナーを継続的に行うことで、風通しの良い学生生活をサポートしていく予定である。
- ・ゼミ活動の中には、毎年ゼミ生による自主的な詩誌を作成し、創造的な想像力や批評性を高める試みを行っているところがある。作成した詩誌を国立国会図書館にも送り、学科の教員や事務員にも配布して、広く公共性のある活動の取り組みにしていこうとする積極的な姿勢を打ち出している。これなど、地域活動とも提携できるようなもので、板橋区の詩歌活動と連携できる可能性もある。こうした地味ながらも、学生の潜在能力を引き出す取り組みは、今後大東文化大学の日本文学科の評価を上げるものになると思われ、他学科にも良い参考例になるのではないかと考えられる。

以 上

# 2015 年度授業評価アンケート分析報告書

文学部中国学科

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

総合評価（新しい自己発想・分野への関心・自分で考える姿勢・満足度）に関して、当学科は「肯定的」26.7%と「やや肯定的」27.7%を合わせると 54.4%で、全学科（日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科・）の 66.6%に届かず、「どちらとも言えない」34.8%は全学科 25.6%より 9.2%も高い。また「やや否定的」6.4%と「否定的」4.4%を合わせると 10.8%で、全学科 7.8%より 3%高く、当学科全体の割余りになる。

各設問の「分野への関心が高まりましたか」について、当学科 3.67 は、全学科 3.95 より 0.28 低く、「出席率」の当学科 4.29 が、全学科 4.49 より 0.2 低いのに連動している。専門分野への関心が低ければ、出席率が低くなるのは当然とも言えよう。

## 2. 所属学科の教員コメントについて

近年来の中国に対する政治的イメージの悪化から、中国古典学を専門分野とする当学科に対するイメージも悪化し、当学科への受験人口の減少にも繋がっている。したがって、専門分野への基礎学力が低い学生や、専門分野に興味を示さない学生もいるため、1年次のカリキュラムに専門分野の基礎学力を付ける入門の科目（必修）を設置している。しかし、既に基礎学力のある学生にとっては興味を感じない科目となり、この点はデメリットとも言えよう。ただ専門分野の基礎科目に興味を示す学生も多く、3年次で評価が高まることから分かるように、3年次で特別演習〔ゼミ〕（必修）を、4年次で卒論（必修）を課し、学生の「分野への関心」「新しい自己発想」「自分で考える姿勢」等の評価を高めることに繋げていきたい。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

当学科は、より高いレベルの教育を施す対策として、2017 年度の新入生から定員を 100 名から 70 名に絞り込み、専門分野への基礎学力を持った者を入学させ、教育の質の向上を目指していく。同時に、既存の学生で、学力の低い学生については、専門分野の知識や教養を身につけさせる方法を、ゼミや卒論の指導の中で考案しながら対処していく。

以 上

# 2015 年度授業評価アンケート報告書

文学部英米文学科

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

- (1) 20 問中、15 の設問において上位 5 位以内であった。中でも高い数値の項目は、「予習・復習・練習」、「授業での集中」、「毎週の期待」、「自分で考える姿勢」である。課題レポートとその発表、個人・グループによるプレゼンテーションなどの取り組みが、学生間の刺激となったと思われる。数値が低い項目は、「出席率」である。これは昨年度も同様な傾向であり、改めて改善の方策を考えなければならない。
- (2) 2014 年度と比較して、「毎週の期待」と「自分で考える姿勢」のポイントが上がっている。リアクションペーパーの活用などから、学生が積極的にコメントを書き、質問や問題点などを教員に投げかける機会が増えてきたことが一要因となっていると思われる。
- (3) 1、2 年次は、専任教員が極力 4・5 限目を担当することになっている。それにより、語学の演習科目や専門の必修科目が入る機会が多い。1 限目から他の演習科目などが連なっていると、学生も疲れが出て 4・5 限目の授業の集中力が下がる要素も出ることが懸念される。

## 2. 所属学部・学科の教員コメントについて

- (1) 発表のあとの質疑応答の時間を大切にしているため、ディスカッションの形に慣れたり、自分の意見をまとめて考えることが伸びた、と感じてもらっている回答が複数あり、本授業の目標達成の感を得た。又、作品を読む作業を基点にして、作品世界の時代・社会背景、風土・文化、民族・宗教・ジェンダーなどの文学研究の考察点を多方面からみていく授業であることから「普通ならスルーしてしまう内容を深く調べていくから、意味がつながった時おもしろいと思うし、映画とかの観方が変わる」、「民族同士の対立や文化が学べる」、「物語を読む上での時代背景を知ることは大切なのだと学びました」、「生徒が色々な作品について考察する授業形式なので、考える力がとてつきます」といった評価には手ごたえを感じた。
- (2)
  - a) 板書に関しては、すべてを板書するのではなく、必要最低限を箇条書きする程度のやり方で行ってきたが、もう少しわかりやすい板書を望む声が多いようであるので、板書の方法を変える形で対応したい。
  - b) 演習授業において、問題を解くことによる反復練習での理解度の向上を狙った際にどうしても問題を解く数を増やしてしまう傾向があった。画像や映像を使ったペア、グループでの問題集で扱った英語表現の発話と確認の活動もバランスよく取り入れて行きたい。
  - c) 学生主体で自由に研究テーマを決め、自分の興味を深めていきながら、研究法はしっかり学ぶ、という形式の授業のため、「学生主体で自由にやりたいことをやらせてくれる」点の好評価が複数あった。「個人を尊重していてよかった」という点も同様だが、逆に教員の専門を超えてテーマが多岐に渡るため、内容指導に格差が生じないよう教員側の準備に労力と時間がかかった。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

- (1) 各教員が持っている学生の情報、授業での問題点や解決方法をもっとオープンに教員同士共有する機会があると望ましい。1 年次の Freshman Seminar ではその試みを始めた。2 年次では F.S. のような授業がないので、ここの連携をどうするか、今後の課題である。3、4 年次においては板橋キャンパスということもあり普段から学生と接する時間が多いので、教員同士の対応は容易ではあるが、さらに強化したいと思う。

以 上

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

- (1) 教育学科は、全体的な印象は肯定的な意見が多く、授業提供側としては決して悲観する結果とはなっていない。項目別にみると、上位に位置していないものとして、予習・復習・練習、シラバスの熟読、シラバスの反映が気になるところではある。シラバスに関しては、次年度以降、この結果を教員に周知させて改善することが必要であろう。予習・復習・練習に関しては、授業ごとの特性があるので、一概には判断できないが、一度確認することは十分に可能である。
- (2) 2014 年度と各項目の学科での順位を比較すると、教育学科は、順位を上げているものが 13 項目もあったことは特筆すべきである。順位を下げた項目が 3 つ、同じ順位が 4 つである。この事実は、授業アンケートの前年度の反省が反映していると言ってもよいのではないだろうか。
- (3) 基本的に高い肯定的回答なので、特性を上げづらいが、例えば、分野への関心が高いのは、学生によって、この問いの捉え方はばらつきがあるとは思われるが、教員志望の学生が多く、教育分野の授業に対してヴィジョンが持ちやすいことが影響している。
- (4) 特になし。

## 2. 所属学科の教員コメントについて

- (1) 教育学科は例年、他の項目に比べ、シラバス関係は低い順位にあるので、シラバス関係の湖面を紹介します。  
「シラバスの熟読」に関し、学生の自己評価が全学平均より 0.5 ほど低かった。これは、本科目が必修科目であることも理由として挙げられよう。
- (2) 「さぼっている先輩達をもう少し厳しくして欲しい。踊らないし、椅子の準備もやらないので、これで単位をもらうのかと思うと頑張りがいがない」

そうですね。指導者としては、このような発言を出してしまったことは本当に残念である。月曜 1 限、確かに遅刻をしやすいことも理解できますが、私のあいまいな態度が裏目に出たと思われる。遅刻をする学生に対しての対処や、また、体調不良で踊れない学生の評価など、今後考えなくてはならない。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

3 月 9 日に、文学部 FD 研究会を行う。各学科から一人ずつ「学習効果を高める一多様な方法の試み」をテーマに、発表をしていただく。

以上

# 2015 年度授業評価アンケート分析報告書

文学部書道学科

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

今年度、すべての項目において、一位となることになった。

国内でも評価の高い「大東書道」という、専門性のある学科なので、入学の時点において、学生はすでに専攻を明確化している。

その期待に応えるためにも、個々の教員が努力をしている結果だと分析する。

## 2. 所属学科の教員コメントについて

### (1) 書写書道教育学概説

学生の実態や教育現場の状況などに対応する教育資料や教育情報の収集が不可欠だと考える。

国の施策や動向を見極め、適切に教育資料や教育情報を提供し実践に役立つよう、自身の研修に努めたいと考える。

### (2) 書道（漢字 I）

毎年のことながら、学生があまりシラバスを見ていないことが気がりである。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

- 学年により、大学院や研究生等への進学希望者の多寡もあるので、就職決定率・就職者比率の低さの原因は一概にはいえない。一般企業志望者には、インターンシップへの参加を積極的に進めている。

また、学科独自の事業として、有職卒業生による講話の会を設け、学生に就職に対する意識を刺激している。

- 授業科目の編成は、非常勤講師の希望を優先とし、曜日時限によっては組みづらいのが現状である。仮に、うまく組めたとしても、同一曜日時限に教職関係の必修などと重なっていることも多々ある。したがって、年度によっても、満足度が異なるのが現状である。今後は、科目の整理統合も考えていかななくてはならないであろう。

以上

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

経済学部は 2014 年度に続き、Q1～Q20 のすべての設問で全学平均値より低くなった。なかでも Q15(教員の授業に対する熱意を感じましたか)、Q16(この授業を毎回楽しみにしていましたか)、Q17(この授業をとおして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか)は、8 学部中最下位である。

また、Q17「新しい自己発想」、Q18「分野への関心」、Q19「自分で考える姿勢」、Q20「満足度」の平均評価値である「総合評価」は 8 学部中 7 位で、これら Q17～Q20 の各設問は、社会経済学科、現代経済学科とも 19 学科中 17～19 位と低くなっている。

この「総合評価」をさらにみると、他学部と異なる傾向がみられる。他学部では履修登録者数が多くなるにつれて「総合評価」平均値が低下する傾向にあるが、経済学部では登録者規模に関わらず、平均値がほぼ一定で、「総合評価」肯定的回答者が 50%前後となっている。学部別の数値を比較してみると、履修登録者数が 200 人以上になると経済学部は全学平均値より高いが、「30 人未満」、「30 人以上 50 人未満」、「50 人以上 100 人未満」では最下位である。とくに「30 人未満」は他学部より低く、肯定的回答者の割合でみると、他学部が 63.5～75.1%であるのに対し、経済学部は 10～20 ポイント低い 54.7%で、小規模クラスの「総合評価」が低いことがわかる。本報告書作成にあたり提供された履修登録者数別の全学集計データは、「総合評価」のみであるため、経済学部が他学部に比べて小規模クラスで評価が低い理由を Q1～Q20 の各設問からも検討するなど、これ以上の分析は今後の課題となる。

## 2. 所属学部・学科の教員コメントについて

前回の授業評価アンケート結果を反映させて授業進行の工夫をこらしたとの記述は多数みられた。

- ・「学生参加の機会」(Q13)に関し、「学生と対話するように心掛けた」、「学生との対話を重視している」、「双方向の授業になるようにと、学生への質問を多くするようにした」、「クイズやアンケートにも積極的に参加してもらおう」ことで、大人数のクラスでもこの項目の改善がみられているようである。また、「ホワイトボードに計算問題を解答」、「授業中に挙手し発言」した場合の加点が好評であったとのコメントもあった。一方、学生参加の機会を促すことで、「(人)前に出て何かやりたくない」、「発表が面倒である」、「質問や感想を強要される」などの学生の意見の紹介が、2014 年度に比べて増えている。
- ・「理解しやすさ」(Q9)については、「説明が丁寧」、「説明が分かりやすい」ことで授業内容の理解度の高さに結びついている科目がある。他方で、「初歩的な数学等の説明をしたことで、十分な基礎学力を備えている学生を幻滅させてしまった」、「もっと難しくしてほしい、数学を使ってほしいという要望も毎年いただくが、バランスをとるのが非常に難しい」、「異なる基礎学力を持つ学生が同一教室内に混在する状況で講義を進めることの難しさを感じる」という意見が今年度も寄せられた。
- ・「予習・復習・練習」(Q2)が低かったとのコメントが多かったが、「事前配布のレジュメ、節目でおこなった小テストによって学生の予習・復習の評価ポイントがやや高かった」、「課題を出すことは復習にもつながっている」というコメント、さらには Q2 に関連して、「自習をすることが必要であることを学生に周知させ実践しないと、ラーニングコモンズやアクティブラーニングは、学生の主体的な学習への取り組みなくして成り立たない」という意見もあった。

他方、授業の「内容」面で工夫をしても、「評価されなかったのは残念」、「授業評価に反映されていないのは残念」とのコメントもあり、そのためか、「講義改善方法について検討する資料としては用いにく

い」との指摘もあった。今後は、授業の質を高める質問項目の検討も必要と思われる。

学生に対しては、「何を学びたいのか、そして何が自分には必要なのかがわかっていない、もしくは考えたことがない学生も多くいる」、「何も板書しなければ学生はただ聴いているだけ。自分でノートできない」、「経済学部に入學してきた学生であっても、社会的事象や問題に関心を持っているわけではない」、「講義履修時にシラバスを読まず」（同様コメント、多数）、「講義の趣旨や意図をあまり理解せずに聴講している学生も多い」、その結果、「理解を欠いたまま、誤解した評価、批評が散見」といった学生の学習意欲低下、主体性の欠如、講義の趣旨への無理解や誤解、そこから生じた批判に苦慮する意見が 2015 年度は目立った。

設備に関し、スクリーンやボードの面積や配置、空調（とくに夏）、地下教室でのマイク利用不可、機材の使用方法に関する説明不備への改善要望があり、とくに東松山校舎科目で多く寄せられた。

なお、経済学部は 131 科目中提出率が 58.0%（専任は 60.3%、非常勤は 55.2%）であった。全学がそれぞれ 51.8%（44.1%、55.9%）であったので、全学平均提出率より高く、とくに専任で高かった。

### 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

- ・上記 1.、2. の内容を学部内で共有し、意見交換を行う。
- ・経済学を理解するために必要な数学の基礎知識が十分でないことから、2010 年度から実施している推薦入学者への入学前教育を、2015 年度入学者から数学に比重をおき、さらに 2016 年度は受講単元を変更している。また、経済学部実施の「新入生調査」で、この入学前教育の効果もたずねている。
- ・経済学部では 2017 年度から新カリキュラムが開始する。このように、主体性の涵養をめざす理念は保持しつつ、経済リテラシー育成、学習困難学生や意欲ある学生への対応などを勘案した改革も経済学部では行われている。

以上

# 2015 年度授業評価アンケート報告書

外国語学部

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

外国語学部の各設問の平均値を全学の平均値と比較すると Q1 (出席率：全学 4.5、外国語学部 4.4) を除くと、他のすべての設問について全学平均と同じか、平均以上であった。全学平均を上回っている設問項目は、Q2(予習・復習・練習へと取り組み)、Q3(授業への集中度)、Q7(授業目的の明確さ)、Q9(授業の理解のしやすさ)、Q11(板書・スクリーンの見やすさ)、Q12(教材・機器使用の適切さ)、Q15(教員の熱意)、Q17(新しい考え・発想)、Q18(分野の関心の高まり)、Q19(自分で調べて考える姿勢)であり、それぞれ全学平均を 0.1 ポイント上回っている。また、特筆すべきは、Q13(学生の積極的授業参加)については全学平均を 0.2 ポイントも上回っている。その他の設問の平均については、全学平均と同じであった。

Q13 の学生の授業へ積極的な参加については、外国語学部では比較的高い平均値 (全学 3.6、外国語学部 3.8) である。一方向の授業ではなく、学生や教員が疑問や自分の考えを出し合い、学びの内容を一緒に深めていく、「学習者を中心とした授業」を、自らも経験している教員が多いこともその要因として考えられるのではないかと思われる。

外国語学部の中国語、英語、日本語の 3 学科についてみると、3 学科とも Q1(学生の平均出席率)については全学平均 (4.5) に届いていない (中国語 4.32、英語 4.46、日本語 4.36)。一方で、英語学科はすべての設問において全学平均を上回っているが、中国語、日本語学科においては、Q5 (教材等の持参頻度)、Q6 (授業姿勢への自己評価)、Q7 (授業目的の明確さ)、Q10(適切な授業進行速度)、Q14 (受講態度への対応) について全学平均を下回っており、さらに中国語学科は Q12 (教材の使い方) において全学平均を下回っている。

Q13 (学生の積極的授業参加) については 3 学科すべてで全学平均 (3.6) を上回っており (中国語 3.76、英語 3.85、日本語 3.84)、外国語学部の一つの特徴と言ってよいかもしれない。

## 2. 所属学部の教員コメントについて

全体的に、学生の肯定的な評価を表すコメントを嬉しく思う一方、さらに工夫を凝らして授業内容を充実しようとしたり、学生の指摘した問題点に真摯に向き合い、改善方法を模索する教員が多いことを示すコメントであった。

- ・全体に問題点が感じられたのは、ひとつは時間内にやることを詰めすぎた点かもしれない。そのために雑になってしまった。また教科書が文法中心に見えて期待度が低くなってしまった。これは一部には物足りないと思えた理由だと思う。
- ・全体として満足度は高かったようなので、ひとまず安心していますが、今後も緊張感をもって一回一回の授業に取り組んでゆきたいと思っています。当授業で重点を置いているのは、将来、観光業界で仕事を得るための、また、就職後も役立つ知識を得ることです。この目標はよく理解していただけていることが分かりました。また、「グループワーク」や「スピーチ発表」といった参加型の授業も肯定的に受け止める意見が多く、後期も改善しつつ積極的に取り入れていこうと思います。当授業で改善すべき点として多くあった意見は、受講態度への対応でした。今後はもっと配慮していきます。

また、入試形態が多様化する中、クラスの中の学生間の習熟度の違いに戸惑う教員もいる。

- ・春学期は、基礎固めの段階で、よくできる学生には、進度が遅いと感じられるだろう。秋学期には、説明と正解の提示の両方に気を配りつつ、より多くの授業内容を展開させていく。時間に厳しすぎ

るという意見はあったが、授業秩序を守るために、きちんと時間を守ってほしいというのが教員の注文である。

授業評価アンケートについて、普段、授業で学生がどのように考えたり、感じているかを知ることは難しいが、授業評価アンケートによりそれがよくわかり、授業改善の貴重な機会となっていることがわかる。

・おおむね好評のようで良かったと思います。普段でも時々学生の声を聞いたりしますが、アンケートのように、全体像、細部までも見えて、とても良かったと思います。

### 3. 2015年度の検証を踏まえ、2012～2014年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

外国語学部として今後、さらなる授業の充実を図るには、教員一人ひとりが学生の評価に向き合うことで、自分の授業を振り返る機会を持ち続けることが重要と思われる。そのことこそ、授業評価アンケートを実施している大きな意味であろう。どの教員も肯定的なコメントは嬉しい一方、否定的コメントには多少の落胆を感じてしまうことが多いが、授業評価アンケート結果を知ることが、教員にとって授業の改善につながる貴重な機会となっている。

全学の平均値を2014年度と2015年度と比較してみると、0.1ポイントずつ上がっている設問が多くみられる(Q1, Q2, Q6, Q10, Q14, Q16, Q19, Q20)。これはとりもなおさず、教員一人ひとりが学生のコメントを真摯に受け止め、改善を図った結果だと思われる。

外国語学部の学生のコメントから窺われるのは、学生の出席をより高める工夫をする必要があること、学生の私語に適切に対応するなど快適な学習環境を整えること、自分で進んで調べたり、考えるといったアクティブ・ラーニングを醸成するような試みを普段の授業でも進めていく必要があることである。

以 上

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

法律学科についていえば、大半の解答項目について全学平均よりもやや低い数値で推移している。

予習・復習・練習に関する設問の数値が低いのは、実技や実習、作品の制作等のある学部・学科と比較して、大教室での講義(座学)が中心となる法律学科の開講形式によるものであると考えられる。

しかし、大教室での講義が中心となりながらも、学生の授業への出席、板書等の見やすさといった項目では全学で中位の数値を示し、法律学科の学生がまじめに授業に取り組んでいること、教員側も授業内容や教え方についてそれぞれが工夫をこらしていることがうかがわれる。

シラバスの熟読について低い数値を示しているのは、特に旧カリキュラム適用の上級生について、必修科目やクラス指定科目が多いために、科目選択のためにシラバスを読む必要性をあまり感じていない可能性も否定できないが、教員が初回授業時に丁寧なガイダンスを実施している例が多いために、選択科目については初回授業に出席してみても受講するか否かを決める学生が少なからずいるものと推察される。

## 2. 所属学科の教員コメントについて

授業評価アンケートの対象科目の大半が大教室での講義科目であって、受講生が多いためか、同一の科目について、授業の進行スピードが速すぎるとする学生と、ゆっくりしすぎであるという学生が混在し、レジュメ等の分量についても、多すぎるとする学生もいればもっと情報量を多くしてほしいという要望もあるという状況である。多様な学生が混在する多人数科目については、このような同時に達成することが難しい要望が出てしまうことは避けられないが、教員は学習効果の高い教授方法を日々模索している様子がアンケートへのコメントからうかがい知ることができる。

学生の自由記述でやや気になるものとしては、(おそらくは試験の答案にそのまま使えるような)模範解答的なものを授業で示してほしいという意見である。これに対して、学説の対立や判例とそれに対する学説の批判など、一つの問題・論点にも様々な見方があることを伝えたいというのが教員からのコメントであり、正論である。複数の異なる見解を総合的に検討して論理的に結論を導くことを、法律という道具を使って行う知的訓練が法律学科での学びであることを学生にも理解してもらえるように、一層努めていきたいものである。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

大教室での講義形式が法律学科の授業科目の大半を占めるためか、学生が大学での学びに対してやや受け身の姿勢でいる点が気がかりな点ではある。ただし、この点については、演習科目がアンケートの実施対象外となっていることが多いことを併せ考えると、学生の実像を正確に反映したものとはいえない可能性がある。

2015 年度から、学生の科目選択の幅を広げるカリキュラム改正が実施されているため、シラバスの熟読についての数値の改善や、卒業のために必要であるといった消極的な科目選択ではなく、自らの興味・関心を深めるための科目選択を行うようになっていくことが期待される。

最後に、大教室におけるアクティブ・ラーニングに関する実践的研究プロジェクトが、学長予算の配分を受けて 2016 年度より開始されている。学生のより積極的な学びへとつながる成果を期待したい。

以上

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

政治学科の授業評価における各項目の平均値は、ほとんどが全学平均値のあたりにある。平均値を上回るのは、「シラバスの熟読」と「教材等の持参頻度」という項目である。2014 年度の数値と比較して大きな変化は見られないが、「出席率」、「予習・復習・練習」、「授業参加への自己評価」、「板書などの見やすさ」、「教材の使い方」、「学生参加の機会」などの項目がやや低下したほかは、「授業への集中」、「授業目的の明確さ」、「シラバスの反映」、「理解しやすさ」、「適切な授業進行速度」、「受講態度への対応」、「教員の熱意」、「毎週の期待」、「新しい自己発想」、「分野への関心」、「自分で考える姿勢」、「満足度」などの評価項目では「どちらともいえない」という回答が多い。各項目で特別高い数値を示す実技系学科に比べて、政治学科ならではの特徴がまだ十分に発揮できていないということもできる。

## 2. 所属学科の教員コメントについて

- ・講義の進行ペースについては、配布する資料やデータを更に厳選して、分かりやすくしていきたい。また学生参加の機会を設けるように工夫し、報告なり討論なりを適宜、実施していきたい。
- ・大教室での講義のために板書が見えにくくなりますが、パワーポイントなどを駆使することでそれを補っていく予定です。
- ・もうすこし学生の参加の機会を作りたいと思います。今教科書を書いているのでそれが出来上がればもう少し授業にも余裕がもてると思います。
- ・授業内容、授業の進め方についての意見は肯定的なものが多かったが、予習・復習・練習の有無と学生参加の機会について否定的なものが多かった。特に課題・宿題などは出していないためそのような結果になったものと思われるが、この点について必要かどうか検討したい。
- ・本年度から AB 化されたために、昨年度よりも講義のスピードを落とすことができなかった。結果として、例年以上に早すぎるというコメントをいただいた。また、詳細なレジメを配布して講義をしているが、授業への学生参加や黒板を書き移すことへの要求が思いのほか多かった。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

政治学科では、すでに、2015 年 4 月から新入生にはセメスター制をとる新カリキュラムを開始している。初年次教育の「入門演習」では、大学生としての自学自習能力養成のために、パソコンや図書館の使い方、レポート作成法などのアカデミックスキルを学び、参加型授業のゼミで活躍する知的体力を初年次から訓練する。また、基幹選択必修科目、展開選択科目、他系列選択科目などの選択科目を設定して、学生の学びの選択肢を広げた。これらの改革によって、学生が主体的に学び、問題意識をもって授業に出席できるような客観的環境を整備した。「授業改善」のために、政治学科教員は夏休みに F D 合宿に全員参加し、アクティヴ・ラーニングを含めた授業研究をしている。特に、初年次の「政治学 A・B」と「入門演習」は、授業への学生の反応を詳細に観察・報告している。

以上

# 2015 年度授業評価アンケート報告書

国際関係学部

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

本学部では、すべてのゼミと大半の講義科目で国際関係学科、国際文化学科の双方の学生が履修可能であるため従来通り学部単位で記述する。

例年と比べてのアンケート結果の変化は今年度に関しても顕著なものは見られない。本学部の特徴として挙げられるのは Q7 以下の教員自身への評価につながる項目の評価が全体的に高い点である。特に Q7 の「授業目的の明確さ」、Q12 の「教材の使い方」、Q15 の「教員の熱意」はいずれも平均点が 4 点台となっており、教員と学生間の意思疎通が的確に行われ満足度も関係学科 3.91、文化学科 3.86 という高水準である事を裏づけている。同様の傾向はスポーツ科学科にも見られ 4 年間同校舎の利点が生きているといえよう。その反面、Q1 から Q3 に及ぶ学生自身に関する設問では評価が低くなっているが Q4 から Q6 では関係学科が文化学科よりも高めになっており関係学科の学生の方が、やや意欲的とみなし得る傾向があるように思われる。

## 2. 所属学部の教員コメントについて

昨年度につづいて映像を駆使しアジア、ヨーロッパでの現地体験等による授業展開は概ね好評であり本学部の特性が生かされているといえる。また芸術作品の紹介によって美術館や劇場での鑑賞の楽しさがわかったという意見も多く教員たちにとっても張り合いのある反応となっている。また言語科目では「前回授業の復習」で言語が身につくネイティブの教員の「余談」で未知の国への関心が湧くという評には生の情報で具体的に親しませるという教員の意図が伝わったという達成感を生じさせている。その一方で「教室に来るのが遅い」、「進み方が速すぎる(遅い)」、「板書がよみづらい」、「内容や用語が難しい」、「声が聞き取りにくい」、「わかりやすいがメリハリが無い」、「私語への注意が不徹底」といったお馴染みの不満も相変わらず多い。各教員とも十分に自覚しながら頻繁な交通機関の乱れや器械の不具合といった、やむをえない要素にも悩みつつ改善の努力を試みていることは教員コメントからもわかる。いずれにしても多くの教員が授業内のリアクションペーパーを通して学生の反応を窺いかつ次回以降に反映させることで学生達にとっても授業への参加感を得る貴重な要素が生まれている。教員によっては「前回アンケート時」あるいは「前学期授業時」からの改善状態を受講生に尋ねる場合もあり相互理解への工夫が様々に試みられている。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

全学あげて授業アンケートの見直しが推進されている状況を踏まえ、本学部では本年度は学部独自のアンケートを行わず学部内の FD 委員会で新たな活動のあり方を検討した。しかしながら学生達の直な反応を知るために授業評価が極めて重要であることは変わりなく全学的な検討が必要であることはいうまでもない。スマホ等の媒体を使用するといった方法の工夫もさることながら本年度の全学アンケートを概観しても「板書」や「授業速度」をはじめとする基本的な事項への注文が未だに多い点にも着目する事が肝要に思われる。これは従来の初年次教育(チュートリアル)さらに、このチュートリアルに今年度後期から導入されたキャリア教育にも関わる事で学生らが求める本質を探って行かなければならない。将来のカリキュラム改定に向けても初年次教育は極めて重要であり、その支えとしての FD 活動の役割は甚大である。当面は講演会やワークショップ等によって新たな模索をはかることになりそうだが、学部独自のアンケートのあり方も同時に検討して行く必要性は大いにあるといえよう。

以上

## 1. 所属学部・学科の教員コメントについて

経営学部ではアンケート結果および十分な配慮の上での各教員からのコメントも精査しました。全体的傾向として非専任教員からの教員コメントが目立っていました。教員コメント内容の多くは学生の自由記述意見についての応答として書かれており、アンケートに協力した学生がこの結果を読んでもらうことを願っています。

教育コメントの1つ1つにはそれぞれの授業に対する真摯な取り組み姿勢が窺われ、授業方法の改善や工夫姿勢を確認することができました。しかし同時に、授業する側から教室環境の不備の指摘もなされており、以下でも触れるように大規模授業（目安として150人以上）については個別教員の工夫限界を超えていることがわかりました。

また、授業評価アンケート結果は、学部・学科が設定しているディプロマポリシーでの学習成果（到達目標）を測定し、カリキュラム全体の課題を浮上させる大学教育改善の装置開発が急務であることを強く示唆しています。

以下では、アンケート結果に対する学部としての分析、そこから得られる組織的課題および今後の方針などについて報告いたします。

## 2. 2015 年度各設問の数値に関する検証

毎年観察されることですが、経年変動や精度上の問題はあるとしても、他学部・他学科との相対比較では経営学部は両学科共に他学部・他学科と比べて、授業への集中、授業目的の明確さ、理解し易さ、新しい自己発想、分野への関心などの項目について相対的に下位に位置しています。また、教員の熱意についての評価も高くありません（経営学部と同様な状態にある他学部でも同等な傾向が見て取れます）。

この「事実」が学部組織・構成員のFD的取り組みについての致命的欠損に起因、あるいは各授業科目内容および教授法が不十分であれば直ちに改善する必要があります。検証作業において浮上したのは次の3点です（互いに連動しています）。

- 1) 経営・経済など社会科学の特質
- 2) 基礎教育との連結
- 3) 授業規模と教室環境の問題

最近では米国 NIH が発表した戦略計画で触れられているように、社会科学は政策や企業運営に大きな影響力を維持し続けているにもかかわらず、用語の定義が曖昧で研究の再現性も高くない（むしろ結果説明的でさえあり、計測性と予測性に富む自然科学とは対極にある）という指摘が上記 1) の社会科学の特質（同時に欠点）の問題です。このことが社会科学の「学びにくさ」としてアンケート結果に現れたと見なることが可能です（評価数値の向上をはかるべく個々の教員が継続的努力を傾注することを前提であることは言うまでもありません）。

授業の「わかりやすさ」の誤った追求が低俗化をもたらす危険性があるように、高等教育の場としての大学では持続的な学びを可能とする厚く深い基盤を前提としなければなりません。これを学生自身が自前で整えておくのではなく、専門教育に至る重要な教育過程とすること（これを基礎教育と呼んでいます）がむしろ大学教育の主要部分として求められています。上記 2) の問題は学部専門教育における基礎教育の整備が十全に整備されているかについて学部全体の（実は大学全体なのですが）現在認識すべき最大の

課題であり、個別の授業における教員の課題としてすり替えることはできないと考えています。学部の努力だけではどうにもならない大学全体の課題であることを強調しておきます。

社会科学系大学ではおおむね授業規模は大きく、結果として出席学生の集中度を維持することは教員の高い練度を要求します。そもそも、元来「曖昧な」である社会科学系大学に入学してくる学生の学習意識も鮮明であるとは言い難いのが実情です、加えて、大東文化大学では残念ながら出欠を確認しない選択＋大規模授業に対する出席は高くはないことも指摘しておくべきでしょう。板書、声の通りやすさ、資料提示の見やすさなどは、クラス全体の集中度維持に決定的要素であることはいまでもありませんが、履修者を全員収容する大教室での大規模授業（100人から150人あたりに臨界点がありそうです）では、高い品質の授業を維持することは、教師の努力を容易に越えてしまいます。これが上記の3)の問題です。これも2)と同様に学部の努力ではどうにもならない課題です。

### 3. 2014年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2013年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

先に触れたように、授業アンケートでは学部が設定したディプロマポリシーの一部を学習成果として達成したかを評価・判定することができません。学生の反応や意見を傾聴することが重要であり続けることは当然だとしても、FD活動としては大学教育や学部・学科教育を個々の授業活動に還元分解して、それによしとしてきたこと、大学教育成果の検証の仕組みが圧倒的に不足・欠如していることなどを認めざるをえません。個別の課題は山積していますが、これに怯まず前向きに今後の展望を考えてみました。

教育品質の向上のために抜本的改革が必要であることは言を待ちませんが、現状から一步を踏み出す具体的な手立ては幾つも考えることができます。

#### 書かせる教育

高校関係者から学生の書く力の壊滅的衰弱が指摘されているように、ライティングは大学教育のコアの一つです。担当する科目ごとに半期で2つのレポート課題を課すことを教員に求めるだけで、学生の書く力の向上が確実に期待できます。

#### 授業内容の共有

担当者だけに丸投げする従来方式から転換し、個々の科目においても教育内容の子細を学部全体で検討し共有するような教育内容の透明化に向けた継続的努力が必要になります。このために、授業で頒布したプリント、試験問題とその模範解答、各種の課題などを教員間で共有し、授業参観を通じて互いにアドバイスを求められる環境を整えることです。

これら「直ちに可能である」はずの取り組みの成否は、個別の授業を学部大学全体で運用できるかにかかってきます。学部・学科全体（複数の教員）の連携・協働によって一人一人の学生に寄り添った教育をおこなうということにより、授業水準の維持、科目間の連携と確認、カリキュラム設計など多くの課題を同時に解決できる道筋がつかます。具体的には可能な部分から段階的に取り組みを模索することになるでしょう。

同様のことは大学全体にまで及びます。学部における基礎教育と専門教育とを単なる学年の受け渡しでなく、有機的に重層連結した学生教育システムの開発にむけた学部内の取り組みに加えて、大学全体のシステムとして以下の観点に立って一貫した教育体制を稼働させることが必要です。

全学で協働し特質ある共通教育を設計する  
教育を社会に公開し、優れた人材を集める  
教職員の資源を有効活用する

以 上

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

- (1) Q. 16 (授業を楽しみにしているのか?)、Q. 17 (分野への関心が高まったか) などの設問に対して、他学部と比較して評価が低く、授業全体がつまらない、もしくは関心もたれていないことが非常に気になった。
- (2) 上記の Q. 16、Q. 17 はいずれも昨年度(2014 年度)より上昇傾向にあり、他学部に比べて低いながら、改善の兆しにあることがわかる。
- (3) 総合的な満足度 Q. 20 を見ると、全学的に最低の水準であり極めて遺憾に思うが、この数値も昨年より向上しており、改善の兆しが見られる。しかし、授業の満足度は重要な指標であり、今後とも、改善に努める必要がある。

## 2. 所属学部・学科の教員コメントについて

- (1) 非専任の教員が授業評価を意識して、授業の工夫を凝らしていることがわかるコメントが多くみられた。そのようなコメントを紹介すると「パワーポイントの使い方についてより工夫を重ねていきたいと考えました。また、毎回の授業に出席するための動機づけも工夫する必要があると考えました。上記 2 点、次年度の運営に生かしていきたいと思います。」

また、具体的にはスライドや映像の導入、などの工夫を凝らしているコメントとして、「スライドや映像、レジュメなどの準備で苦勞してきたので、授業の理解しやすさや教材、板書などの項目で、全額平均より高い評価になっているのはうれしく思う。意外なのは受講態度への対応で、不気味なほど静まりかえっていると感じるものがよくあったのに、平均より低い。播り鉢状の階段教室の後方に座っている学生が多いため、こちらには私語などが聞こえてこないのだろうか。講義形式で、しかも大教室であることで、学生参加の機会が作りにくいのは仕方がないが、民族衣装を着てもらったり、民具や書籍などを回覧させたりしても、積極的な反応が返ってこないことも少なくない。このあたりは来期への課題と言える。」これも非常勤の先生からの前向きなコメントです。

それに比べると専任の教員はコメントも少ないのは残念に思った。

- (2) 遅刻の多さ、参加型授業では非協力的な学生に対する苦情が多くみられる。たとえば、「学生参加の機会については平均的な評価をいただいています。毎回、質疑応答の時間を設けたり、授業中もクイズなどで質問をしていますが、反応や意見・質問がほとんどないことが多いです。ぜひ学生の皆さん自身が積極的に参加していただきたいとともに、当方も皆さんが参加しやすい仕掛けをできるだけしていこうと思います。」(非常勤講師コメント) このコメントのように、確かに協力的でない学生が多くみられるが、これを学生のせいにするのではなく、教員全体で学生の意識を高める工夫を凝らしていくようにしていきたい。

## 3. 2015 年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014 年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

- (1) 2014 年度の授業評価アンケート報告書では、授業目的の明確さ、理解しやすさ、分野への関心、満足度等が全学部で最下位となっていることが問題とされている。今回の報告書でも、最下位を脱しきれていない状況にある。しかし、数値自体は改善の兆しが見られる。今後とも、教員 1 人 1 人が向上の意識をもって FD に取り組んでいきたい。

以 上

## 1. 2015 年度各設問の数値に関する検証

### (1) 学部における高値、低値にあたる項目の分析

#### 1-1. スポーツ・健康科学部における平均値の分析

出席率 (Q1) が高く、100-90%出席率においては全学部内最高値を示した。また授業への集中 (Q3) において、肯定的、やや肯定的の合計値 65.9%は全学部内最高値示した。授業へ真剣に取り組む姿勢 (Q6) に関して、肯定的、やや肯定的の合計値は 69.3%で全学部内最高値を示した。学生の不適切な授業態度に対する教員の対応 (Q14) において肯定的、やや肯定的の合計値は 67.7%と全学部で文学部に次ぐ 2 番目の高値を示した。予習・復習・練習の項目では平均的な結果を示した。シラバスの熟読 (Q4) については肯定的、やや肯定的の合計値 39.1%であり、全学部内最低値を示した。上記の項目で高値をしめした事は実技、実習が多い授業特性もあるものの、講義科目においても同様の傾向があり、授業における進行への工夫、学生に対する配慮が十分になされていることが示唆された。

#### 1-2. スポーツ科学科における平均値の分析

全体で 2 位の高値を示した項目は授業への集中、授業姿勢への自己評価、授業目的の明確さであった。全体で 3 位の高値を示した項目は、理解のしやすさ、適切な授業進行速度、受講態度への対応、新しい自己発想、分野への関心、満足度であった。全体で 3 位以内の低値を示した項目はシラバスの熟読で最低値であった。そのほかの項目に関してはいずれも平均的であった。

#### 1-3. 健康科学科における平均値の分析

出席率が全体で 2 位の高値を示し、シラバスの熟読が 3 位の低値を示した。その他の項目で 3 位以内の項目はなく平均的な値であった。

### (2) 2014 年度との比較 (学科別)

#### 2-1. スポーツ科学科における平均値の分析

出席に関して変化は見られず、3 位を維持した。予習・復習に関して、3 位から 5 位に下降した。授業への集中において変化は見られず 2 位を維持した。シラバスの熟読において 17 位から最下位に下降した。授業への自己評価において変化は見られず 2 位を維持した。授業の目的の明確さにおいて変化は見られず 2 位を維持した。理解のしやすさにおいて、2 位から 3 位に下降した。適切な授業進行速度において変化は見られず 2 位を維持した。教材の使い方において 3 位から 6 位に下降した。学生の参加の機会において 3 位から 6 位に下降した。授業態度への対応において 2 位から 3 位に下降した。教員の熱意において 2 位から 4 位に下降した。毎週の期待において 2 位から 11 位に下降した。新しい自己発想において変化はみられず 3 位を維持した。分野への関心が 2 位から 3 位へ下降した。自分で考える姿勢が 2 位から 4 位へ下降した。満足度が 2 位から 3 位へ下降した。いくつかの項目で下降する傾向が見られたことは大きな懸念材料であると言える。詳しく細分化してみると、必修科目の講義系科目で低値が示されていた。学生にとって単位取得について大きなプレッシャーがかかる科目で低値が示される傾向にあることが予想される。今後はそれらの科目について、工夫と配慮が必要であると考えられる。

#### 2-2. 健康科学科における平均値の分析

出席率において、健康科学科が全体 1 位から 2 位に下がった、ただしポイントは 0.04 上昇した。シラバスの熟読が 19 位から 17 位に上昇した。シラバスの反映が 17 位から 12 位に上昇した。適正な授業進行速度が 18 位から 12 位に上昇した。そのほかの顕著な変化は認められなかった。臨床検査技師の資格試験からドロップアウトした学生や、他の道を志す学生への配慮、指導方法については常々、議論が交わされている。それらの一定の成果が今回のアンケート調査の順位上昇に繋がったものと考えられる。

今後も、学生の選択にあわせた学習、進路へのケアを深めていくことで、満足度も向上していくことが予想される。

### (3) 専門分野の特性から出たと考えられる数値について (学科別)

#### 3-1. スポーツ科学科における分析

シラバスの熟読が毎年低値を示しているが、学生が実技であるということを前提として授業準備を進める関係でシラバスを読む習慣が身につかない可能性が考えられる。改善の方法は初回授業を全てガイダンスとして、シラバスの熟読、授業進行の方法などの周知当てることが考えられるが、授業の進行を考えると良い方法であるとは考えられない。

#### 3-2. 健康科学科における分析

スポーツ科学科と同様にシラバスの熟読が低値を示している。原因は実習を伴う授業の影響があると考えられる。実習を伴う授業の多くは1回の授業で完結する講義の内容とは異なり、技術習得までに反復が必要となる。その場合にシラバスを熟読することが必ずしも授業に役立つとは限らず、学生のシラバス熟読につながらない可能性がある。

## 2. 所属学部・学科の教員コメントについて

### (1) スポーツ科学科について

・全体的に良い評価をいただき、安心しております。学部を超えて学生間の交流も授業の教育の一つと考えていたので、そのことについて「良かった」という感想をいただき、一つの目的は果たしたと思っています。技術的な指導をする時間として授業の終わりに、フリー練習の時間をもうけていますが、そこに学生の積極的な参加があれば良いと思っています。

・回答者 45 名中、選択科目として履修した学生が 37 名であった。また本授業は複数種目の中から希望種目を選択することが可能であるため、受講生の意欲が高かった。そのため肯定的に受講した学生が多く、評価結果に反映されたと考える。「Ⅱ. 授業についての評価」の設問群では「板書などの見やすさ」「教材の使い方」を除くすべての設問で全学平均を大きく上回っていた。しかしながら、選択による受講であることに加え実技科目であることから、授業評価の結果は高くなる傾向にあると考える。したがって本結果をそのまま鵜呑みにすることはせず、今後の授業実践に反映させていきたい。

・評価レーダーチャートを見てみると平均点を下回る項目はないものの毎週の期待が低い値を示していることが見てとれる。このことは、遅刻を厳禁として1分でも遅れれば入室禁止としていること、さらに寝ること(授業中)を禁じていることが大きなプレッシャーとなっていると考えられ、それが低い期待値に反映されたと考えられる。

・この授業では、スポーツマネジメントの入門編として、スポーツ活動を「支える人」に対する想像力を膨らませるとともに、そうしたマネジメントの現場における現状と課題について理解することを目的としました。アンケート結果からは、大半の受講生が「授業目的が明確」と考えているという結果が窺え、本授業の成果の一つを確認することができました。また、パワーポイントや穴埋めの配布資料等の教材に対する評価が高く、今後もそれらの教材を改善しながら使用していきたいと思えます。ただし、「学生参加の機会」に対する評価は高いとはいえない状況ですので、より良い授業をめざし、改善に取り組んでいきます。

・「シラバスの熟読」の結果平均がさほど高くないことが気にかかりました。初回授業時にシラバスを配布し読み合わせと説明を行いました。それでも十分に周知できなかったということになります。それが残念です。

## (2) 健康科学科について

・このアンケート方式（質問の内容？）だと、本当に授業にのみ着目して解答している学生も多いようである。授業には学生自身の予習・復習も大事だということを認識して貰うような質問項目評価法についてなど。にしてはいかがでしょうか。（特に自由記述のコメント）

・「学生参加の機会」の評価が低いのが反省材料ですが、それ以外の全項目で全学の平均値に達していたのは、せめてもの幸いです。毎回最後に授業のまとめや感想を小さい紙に書いてもらい、それを次の授業までに読んで理解の間違っているところは次の授業の最初に指摘するなど、一方的な授業にならぬよう工夫はしているつもりですが、もう少し発問などを工夫し、相互発信型の授業を目指します。私語に対する注意について一定の支持が得られたので今後も徹底していきます。ただ、注意するに当たってはユーモアが必要と考えています。今後も「毅然としつつもユーモアに富んだ注意行為」を心掛けます。

・講義のスピードが速いという意見や、要点がわかりにくいという意見があった。それに関しては、なるべく要点を明示しながら講義をするように心がけたい。教えるべき内容が膨大なため、限られた時間の中でどうしてもある程度のスピードをもって講義をしなければならぬ点も学生諸君も理解してもらいたい。

・今年のアンケート結果の特徴の一つは、上位のクラスにしては、感想のばらつきがとても大きいということでした。例えば授業の進度や難易度に関して、「速い・丁度良い・遅い」、「難しい・このぐらいで良い・簡単」の全ての種類のコメントが得られました。これは大変悩ましい結果でしたが、何とかしなければと思います。またもう一つ特筆すべき特徴として、板書の方法や授業中の学生が主体となる活動に受講生の関心が高かったということがあります。

## 3. 2015年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2014年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について(両学科)

シラバスの熟度について低値を示していることは、両学科を通して認識しており、各教員の工夫により取り組んでいるが、アンケート調査の内容を見ると、高値の評価を得ている教員と極めて低値の評価を得ている教員の二極化が見て取れる。この結果から改善に取り組んでいる教員と行動を起こしていない教員がいることが示唆されており、今後は学部の総意として、この点の改善に取り組んでいく必要があると考えられる。また授業改善活動として、昨年度まで発達障害などのケアに関して進めてきた。真面目だが授業についていけない、あるいは生活の中でコミュニケーションがうまく取れない学生のケアの位置付けとしてFD活動を行ってきたが、今後は、より習熟能力が高い集団にフォーカスした、アクティブラーニング、フィールドワークなどを行い、学生の授業参加や満足度の向上に繋げていく活動を模索していく必要がある。

以上



<参考資料1>

大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、自己点検・評価全学委員会及び学部・大学院と連携をとりつつ、大東文化大学における教育内容及び技法の質の向上を目指すことを目的とする。この目的達成のため、ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 FD委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議検討し、実施することを任務とする。

- (1) 本学の教育システムに対するファカルティ・ディベロップメントの視点からの分析及び提言、並びに教育効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
- (2) ファカルティ・ディベロップメントに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
- (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
- (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援
- (6) その他、FD委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 FD委員会は、次の委員をもつて構成する。

- (1) 学長又は学長が副学長の中から指名した者1名
  - (2) 各学部が選出する者 各1名
  - (3) 各研究科が選出する者 各1名
  - (4) 学長が指名する者 若干名
- 2 FD委員会の委員長は、前項第1号に定める者とする。
- 3 FD委員会に副委員長を1名ないし2名置く。副委員長は委員会の同意を得て委員長が指名する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があつた場合は、委員長の職務を代行する。
- 5 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 委員が欠けたときの後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 FD委員会は必要に応じて委員以外の者に同委員会への出席及び発言を求めることができる。

(運営)

第4条 委員長はFD委員会を招集し、その議長となる。

- 2 FD委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 3 FD委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 FD委員会は、第2条の任務を遂行するにあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会には、委員以外の協力委員を置くことができる。

(事務局)

第6条 FD委員会に関する事務は、学務部学務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、FD委員会の発議に基づき、大学評議会及び大学院評議会の議を経てこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年5月15日から施行する。

附 則（平成21年6月15日）

本規程は、平成21年6月15日から施行する。

附 則（平成22年2月22日）

- 1 この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程の施行に伴い、大東文化大学学生による授業評価実施委員会規程は、平成22年3月31日をもつて廃止する。

## 平成 28 年度 大東文化大学「学生による授業評価アンケート」実施要項

ファカルティ・ディベロップメント委員会

### 1. 実施対象

- (1) 原則としてシラバスに掲載されているすべての学部学科の開講科目を対象とし、非常勤講師を含め全員参加とする。
- (2) 大学院はその性格から対象としない。また、今回は、専任教員・特任教員は2科目、非常勤講師は1科目とする。
- (3) 科目の選定基準は、①1科目は受講者が最も多い科目、②2科目目（専任教員・特任教員）は原則として①と異なる授業形態の中で受講者が最も多い科目、③受講者10名未満の科目は除く、とする。

### 2. 実施主体

大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が行う。

### 3. 調査項目

- (1) 今回のアンケートは、マークシート方式とし、学生が自由に記述できる欄を設ける。
- (2) 個々の教員が重要と判断できる事項について学生の意見を聴取できるようアンケートには、教員が独自の設問を2問追加できるようにする。

### 4. 実施時期

今回は、**平成 28 年 11 月 28 日(月)から 12 月 3 日(土)の 1 週間**を正規実施期間とし、翌週を予備実施期間とする。

### 5. アンケートの実施と回収

- (1) アンケートの実施とその回収は本委員会の責任のもとで行う。
- (2) 各教員は、実施前に配付される実施手順（マニュアル）によりアンケートの実施を行う。
- (3) アンケート用紙は、教員が指定された場所で受け取り、教室で学生に配付する。
- (4) アンケートは授業時間終了前に行うこと。アンケート記入時間の目安は15分程度である。教員は、受講者数、配付時間等を考慮して、記入時間を十分に確保することができるように努めること。
- (5) 教員は、必要事項の説明と板書終了後、アンケート用紙を配り終わった時点で退室する。その後の用紙の回収は、当該教員が事前に委嘱した学生（学生協力者と呼ぶ）が行い、学生協力者が、用紙の回収後、指定された場所に届ける。なお、学生協力者は、事前に当該教員が委嘱しておくものとする。

### 6. 評価と集計の方法

- (1) 評価の方法  
各授業につき、調査項目ごとに5段階評価で行う。
- (2) 集計の方法
  - ①集計は、業者委託とする。
  - ②集計後のアンケート用紙原本は各教員に郵送せず、集計結果及び自由記述欄をデータ化した書類を、当該教員に配付する。なお、希望者のみに読込データ（エクセル・ファイル）をCD-Rで配付する。
  - ③②の配付方法は、専任教員・特任教員には学内で配付し、非常勤講師には上記業者から郵送する。
  - ④本委員会は、全学的な集計結果をまとめ、その分析方法を検討する。

### 7. 結果の取り扱い

「授業評価」の結果を、教員の行政的不利益や教員に対する管理の強化に結びつけることはしない。

### 8. 結果の公表と活用

- (1) 上記の集計結果は『報告書』に掲載し、その『報告書』は、学生を含め学内に公開される。
- (2) 調査項目には、自由記述欄が含まれているが、その部分は『報告書』には記載せず、当該教員が今後の授業の参考資料として活用する。
- (3) 個々の授業科目の評価結果については、教員のコメントを付して学内に公表する。
- (4) 学外への公表は、本委員会の責任において、本学ホームページ等を含め必要に応じて行う。ただし、8の(2)及び(3)の内容は学外へ公表しない。

以 上

## 学生による授業評価アンケートのお願い

授業評価アンケートは、本学の教育をさらに充実させるために実施されるものです。

- 1 名前を書く必要はありません。
- 2 回答内容があなたの成績評価に影響を与えることは決してありません。
- 3 厳正かつ真摯な態度でご回答ください。

大東文化大学 学長

「アンケート・コード」4ケタを、  
教員が板書しますので、数字を  
正確に記入してください。

アンケート・コード

<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="8"/>
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

### 注意事項

- ①回答にはHBの黒鉛筆(シャープペンシルでも可)を用いてください。
- ②訂正する場合には、必ず消しゴムで完全に消してください。
- ③回答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないでください。
- ④余白には何も記入しないでください。

＜数字記入例＞

＜マーク例＞ 良い例  悪い例

### F 1. 在籍学科

- |                                      |                                             |
|--------------------------------------|---------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 文学部 日本文学科   | <input type="checkbox"/> 法学部 法律学科           |
| <input type="checkbox"/> 文学部 中国学科    | <input type="checkbox"/> 法学部 政治学科           |
| <input type="checkbox"/> 文学部 英米文学科   |                                             |
| <input type="checkbox"/> 文学部 教育学科    | <input type="checkbox"/> 国際関係学部 国際関係学科      |
| <input type="checkbox"/> 文学部 書道学科    | <input type="checkbox"/> 国際関係学部 国際文化学科      |
| <input type="checkbox"/> 経済学部 社会経済学科 | <input type="checkbox"/> 経営学部 経営学科          |
| <input type="checkbox"/> 経済学部 現代経済学科 | <input type="checkbox"/> 経営学部 企業システム学科      |
| <input type="checkbox"/> 外国語学部 中国語学科 | <input type="checkbox"/> 環境創造学部 環境創造学科      |
| <input type="checkbox"/> 外国語学部 英語学科  |                                             |
| <input type="checkbox"/> 外国語学部 日本語学科 | <input type="checkbox"/> スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科 |
|                                      | <input type="checkbox"/> スポーツ・健康科学部 健康科学科   |

### F 2. 在籍学年

- 1年生    2年生    3年生    4年生    科目等履修生・交換留学生等

### F 3. この授業の科目区分を教えてください。

- ①  必修科目                      ②  ある程度選択できる科目                      ③  自由に選べる科目  
(選択必修、選択科目・  
コース別選択科目など)

### F 4. あなたは、この授業をどのような目的で受講しましたか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

- 1つ選択 {
- 将来の進路、専門性に役立つと思ったから
  - 時間帯(時間割)の都合が良かったから
  - 内容が興味深いから
  - 教員の評判が良かったから
  - 単位が取りやすそうだったから
  - 友達が受講するから
  - 資格取得に必要なだから
  - 必修科目だから
  - その他

※裏面のアンケートにお答えください。

以下の設問について、あなたにとって5選択肢のどれにあたるか、〔評価欄〕にマークしてください。

〔評価基準〕	肯定的	どちらとも言えない			否定的
	5	4	3	2	1

〔評価欄〕

**I. あなた自身について教えてください**

I	Q 1	5	4	3	2	1	Q 1. この授業への出席率はどのくらいですか。 〔5:100～90%、4:89～80%、3:79～70%、2:69～60%、1:60%未満〕
	Q 2	5	4	3	2	1	Q 2. この授業に関する予習・復習・練習などを行いましたか。
	Q 3	5	4	3	2	1	Q 3. あなたは授業に集中しましたか（私語、携帯電話の使用、勝手に教室の出入り、居眠り等をしなかった）。
	Q 4	5	4	3	2	1	Q 4. この授業のシラバス（授業内容が記載されている教授要項）をよく読みましたか。
	Q 5	5	4	3	2	1	Q 5. シラバスにあらかじめ記載されている物、または授業中に持参するように指示された教材（テキスト、プリント、辞書等）を、忘れずに持参することができましたか。
	Q 6	5	4	3	2	1	Q 6. あなた自身が授業へ真剣に臨む姿勢について、自己評価をするなら何点ですか。 〔5:100～90点、4:89～80点、3:79～70点、2:69～60点、1:60点未満〕

**II. この授業について教えてください**

II	Q 7	5	4	3	2	1	Q 7. この授業の目的やねらいは明確でしたか。
	Q 8	5	4	3	2	1	Q 8. 教員はシラバスを授業に反映させていましたか。
	Q 9	5	4	3	2	1	Q 9. 授業内容は理解しやすかったですか。
	Q 10	5	4	3	2	1	Q 10. 授業進行の速度はちょうどよかったですか。
	Q 11	5	4	3	2	1	Q 11. 板書の文字やスクリーンの画面は見やすかったですか。
	Q 12	5	4	3	2	1	Q 12. 教員の教材（プリント、ビデオ、パワーポイントなど）は分かりやすかったですか。
	Q 13	5	4	3	2	1	Q 13. 質問、発言など、学生の積極的な参加の機会がありましたか。
	Q 14	5	4	3	2	1	Q 14. 学生の私語や悪い受講態度をなくす工夫（注意など）を、教員はしていましたか。
	Q 15	5	4	3	2	1	Q 15. 教員の授業に対する熱意を感じましたか。
	Q 16	5	4	3	2	1	Q 16. 授業を飽きさせない工夫が感じられましたか。
	Q 17	5	4	3	2	1	Q 17. この授業をとおして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。
	Q 18	5	4	3	2	1	Q 18. この授業で教わったことの中で面白い、興味深いと感じたことはありましたか。
	Q 19	5	4	3	2	1	Q 19. この授業をとおして、自分で調べ、考える姿勢が身につきましたか。

**III. この授業を総合的にみて、どう思うか教えてください**

III	Q 20	5	4	3	2	1	Q 20. この授業を総合的にみて、満足できましたか。
-----	------	---	---	---	---	---	-----------------------------

IV		5	4	3	2	1	IV. <u>（この項目は、教員から別途指示された場合のみマークしてください）</u>
----	--	---	---	---	---	---	---------------------------------------------

V		5	4	3	2	1	V. <u>（この項目は、教員から別途指示された場合のみマークしてください）</u>
---	--	---	---	---	---	---	--------------------------------------------

この授業について良かった点を最低1つ、または改善すべき点を最低1つ教えてください。  
（※この欄はデータ化されて教員に渡すため、筆跡で個人を特定することはできません。）

.....

.....

.....

.....



A. 履修登録者数・回答者数レベル別集計  
(全学・学年・学部別集計)

全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

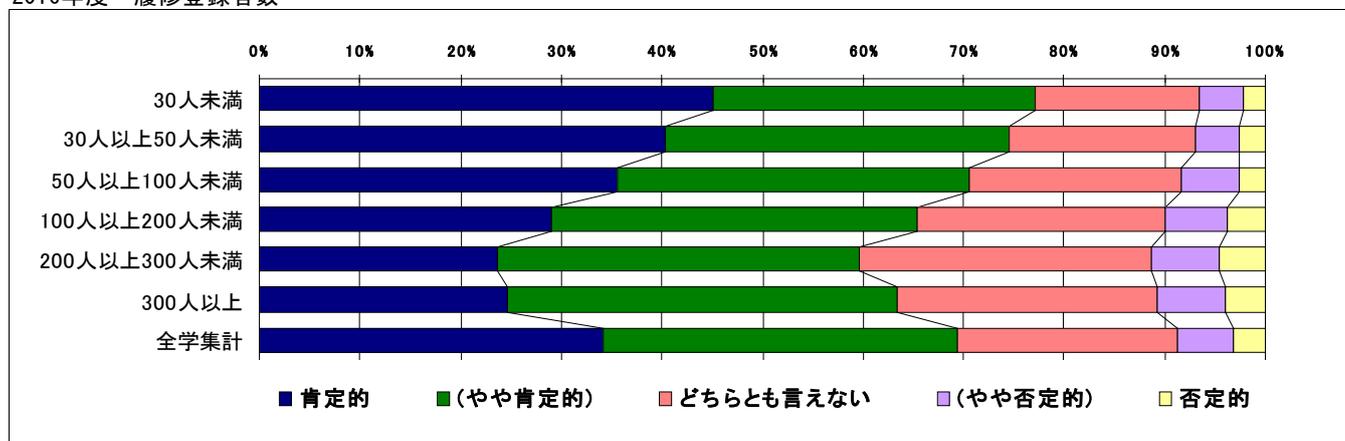
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	2,456 (45.2%)	1,738 (32.0%)	882 (16.2%)	235 (4.3%)	124 (2.3%)	4.1
	30人以上50人未満	3,389 (40.3%)	2,885 (34.3%)	1,553 (18.5%)	372 (4.4%)	210 (2.5%)	4.1
	50人以上100人未満	2,797 (35.5%)	2,759 (35.1%)	1,664 (21.1%)	445 (5.7%)	206 (2.6%)	4.0
	100人以上200人未満	3,347 (29.0%)	4,198 (36.4%)	2,847 (24.7%)	709 (6.1%)	437 (3.8%)	3.8
	200人以上300人未満	1,113 (23.6%)	1,696 (36.0%)	1,369 (29.1%)	323 (6.9%)	211 (4.5%)	3.7
	300人以上	243 (24.7%)	381 (38.7%)	255 (25.9%)	67 (6.8%)	39 (4.0%)	3.7
	全学集計	13,345 (34.3%)	13,657 (35.1%)	8,570 (22.0%)	2,151 (5.5%)	1,227 (3.2%)	3.9
2016年度 回答者	30人未満	4,828 (41.9%)	3,827 (33.2%)	2,068 (18.0%)	509 (4.4%)	279 (2.4%)	4.1
	30人以上50人未満	3,132 (36.5%)	2,961 (34.5%)	1,771 (20.7%)	470 (5.5%)	238 (2.8%)	4.0
	50人以上100人未満	3,215 (29.7%)	3,931 (36.3%)	2,621 (24.2%)	664 (6.1%)	384 (3.6%)	3.8
	100人以上200人未満	2,143 (27.3%)	2,870 (36.6%)	2,043 (26.0%)	483 (6.2%)	310 (3.9%)	3.8
	200人以上300人未満	27 (13.3%)	68 (33.5%)	67 (33.0%)	25 (12.3%)	16 (7.9%)	3.3
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	13,345 (34.3%)	13,657 (35.1%)	8,570 (22.0%)	2,151 (5.5%)	1,227 (3.2%)	3.9

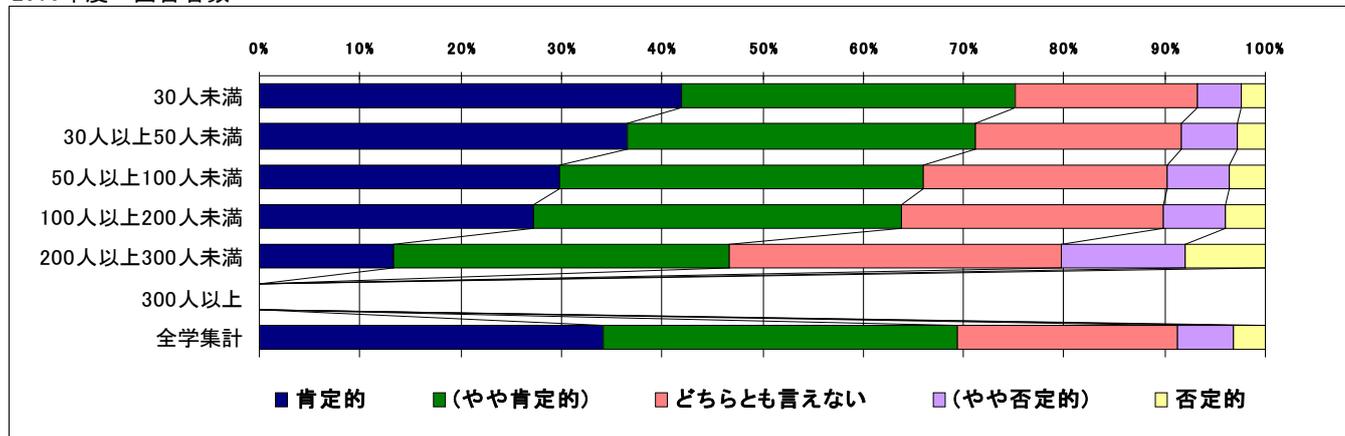
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 1年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

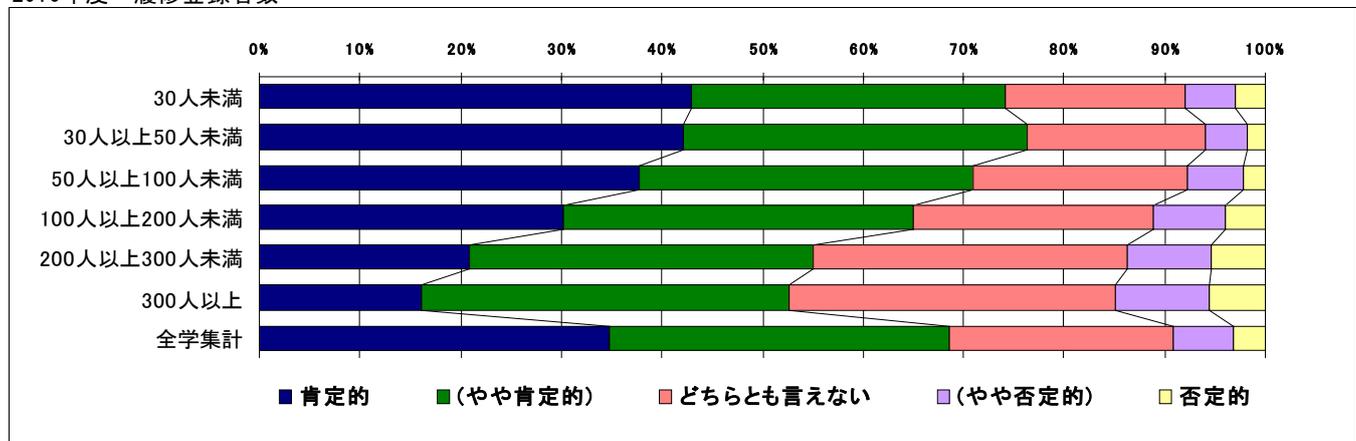
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	1,036 (43.0%)	750 (31.1%)	432 (17.9%)	117 (4.9%)	73 (3.0%)	4.1
	30人以上50人未満	1,530 (42.1%)	1,246 (34.3%)	643 (17.7%)	149 (4.1%)	65 (1.8%)	4.1
	50人以上100人未満	715 (37.8%)	628 (33.2%)	403 (21.3%)	106 (5.6%)	41 (2.2%)	4.0
	100人以上200人未満	1,232 (30.2%)	1,423 (34.8%)	978 (23.9%)	290 (7.1%)	161 (3.9%)	3.8
	200人以上300人未満	386 (20.9%)	631 (34.1%)	578 (31.3%)	153 (8.3%)	100 (5.4%)	3.6
	300人以上	58 (16.0%)	133 (36.7%)	117 (32.3%)	34 (9.4%)	20 (5.5%)	3.5
	全学集計	4,957 (34.8%)	4,811 (33.8%)	3,151 (22.1%)	849 (6.0%)	460 (3.2%)	3.9
2016年度 回答者	30人未満	1,943 (41.8%)	1,512 (32.5%)	861 (18.5%)	221 (4.7%)	116 (2.5%)	4.1
	30人以上50人未満	1,048 (41.1%)	845 (33.2%)	485 (19.0%)	117 (4.6%)	52 (2.0%)	4.1
	50人以上100人未満	1,043 (30.7%)	1,174 (34.6%)	797 (23.5%)	250 (7.4%)	128 (3.8%)	3.8
	100人以上200人未満	905 (25.8%)	1,232 (35.1%)	965 (27.5%)	250 (7.1%)	155 (4.4%)	3.7
	200人以上300人未満	18 (14.0%)	48 (37.2%)	43 (33.3%)	11 (8.5%)	9 (7.0%)	3.4
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	4,957 (34.8%)	4,811 (33.8%)	3,151 (22.1%)	849 (6.0%)	460 (3.2%)	3.9

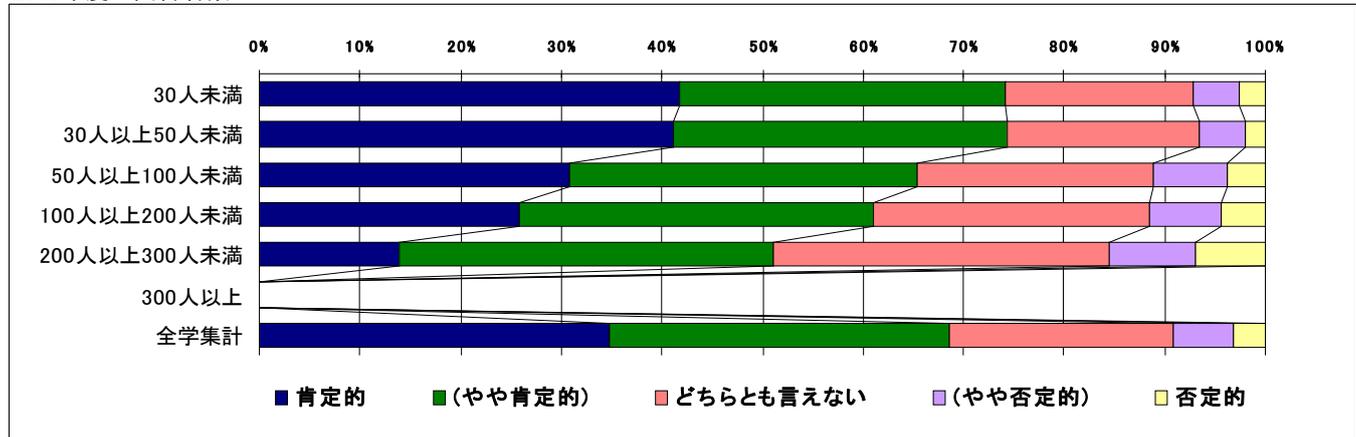
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 2年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

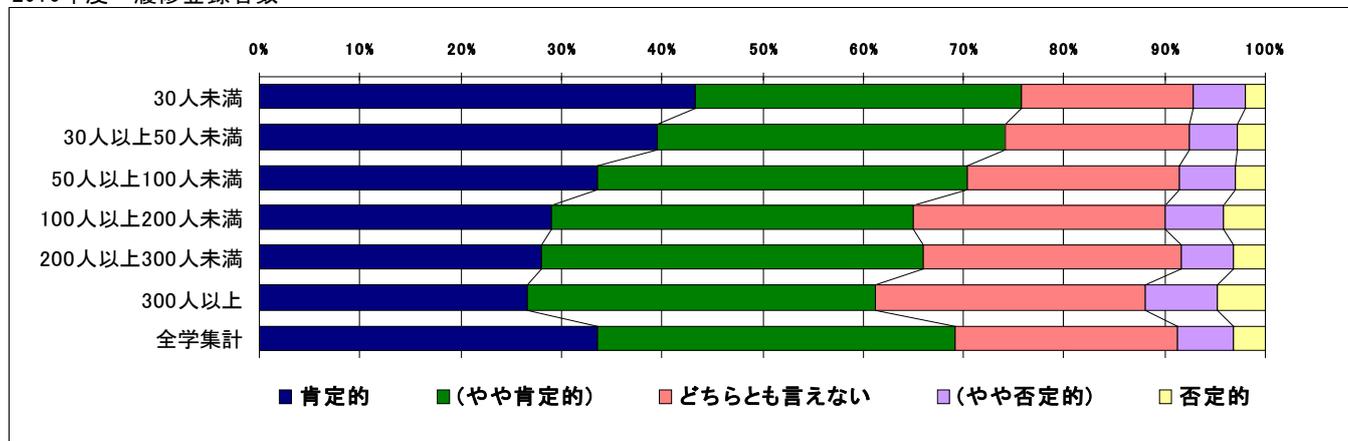
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	693 (43.3%)	521 (32.5%)	273 (17.1%)	83 (5.2%)	31 (1.9%)	4.1
	30人以上50人未満	981 (39.6%)	856 (34.6%)	455 (18.4%)	117 (4.7%)	68 (2.7%)	4.0
	50人以上100人未満	765 (33.7%)	833 (36.7%)	479 (21.1%)	125 (5.5%)	69 (3.0%)	3.9
	100人以上200人未満	1,259 (28.9%)	1,569 (36.1%)	1,092 (25.1%)	251 (5.8%)	180 (4.1%)	3.8
	200人以上300人未満	368 (27.9%)	502 (38.1%)	336 (25.5%)	70 (5.3%)	41 (3.1%)	3.8
	300人以上	78 (26.7%)	101 (34.6%)	78 (26.7%)	21 (7.2%)	14 (4.8%)	3.7
	全学集計	4,144 (33.7%)	4,382 (35.6%)	2,713 (22.0%)	667 (5.4%)	403 (3.3%)	3.9
2016年度 回答者	30人未満	1,295 (41.7%)	1,032 (33.3%)	558 (18.0%)	147 (4.7%)	71 (2.3%)	4.1
	30人以上50人未満	904 (35.8%)	895 (35.4%)	505 (20.0%)	144 (5.7%)	80 (3.2%)	3.9
	50人以上100人未満	1,131 (28.9%)	1,411 (36.1%)	995 (25.4%)	217 (5.5%)	156 (4.0%)	3.8
	100人以上200人未満	805 (29.8%)	1,028 (38.0%)	631 (23.4%)	148 (5.5%)	90 (3.3%)	3.9
	200人以上300人未満	9 (13.6%)	16 (24.2%)	24 (36.4%)	11 (16.7%)	6 (9.1%)	3.2
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	4,144 (33.7%)	4,382 (35.6%)	2,713 (22.0%)	667 (5.4%)	403 (3.3%)	3.9

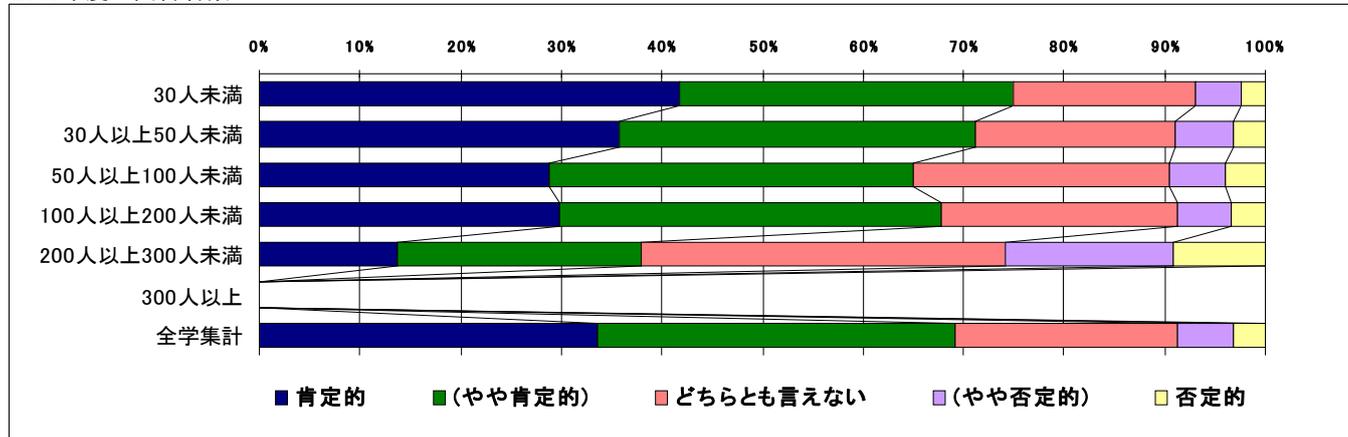
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 3年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

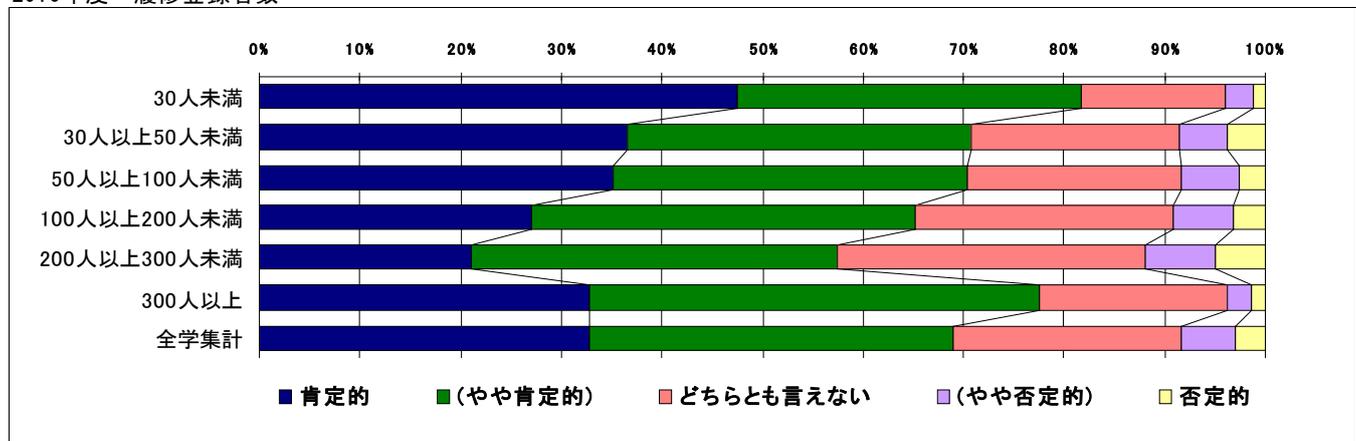
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	483 (47.6%)	346 (34.1%)	145 (14.3%)	28 (2.8%)	13 (1.3%)	4.2
	30人以上50人未満	650 (36.6%)	609 (34.3%)	367 (20.7%)	84 (4.7%)	67 (3.8%)	4.0
	50人以上100人未満	1,030 (35.1%)	1,030 (35.1%)	625 (21.3%)	173 (5.9%)	73 (2.5%)	3.9
	100人以上200人未満	662 (27.1%)	933 (38.2%)	627 (25.7%)	141 (5.8%)	80 (3.3%)	3.8
	200人以上300人未満	260 (21.1%)	448 (36.4%)	376 (30.5%)	87 (7.1%)	61 (5.0%)	3.6
	300人以上	93 (32.7%)	127 (44.7%)	53 (18.7%)	7 (2.5%)	4 (1.4%)	4.0
	全学集計	3,178 (32.8%)	3,493 (36.1%)	2,193 (22.7%)	520 (5.4%)	298 (3.1%)	3.9
2016年度 回答者	30人未満	1,108 (40.2%)	956 (34.7%)	503 (18.3%)	112 (4.1%)	76 (2.8%)	4.1
	30人以上50人未満	931 (33.6%)	967 (34.9%)	633 (22.8%)	163 (5.9%)	77 (2.8%)	3.9
	50人以上100人未満	822 (29.0%)	1,074 (37.9%)	683 (24.1%)	170 (6.0%)	88 (3.1%)	3.8
	100人以上200人未満	317 (24.1%)	493 (37.5%)	374 (28.4%)	74 (5.6%)	57 (4.3%)	3.7
	200人以上300人未満	0 (0%)	3 (75.0%)	0 (0%)	1 (25.0%)	0 (0%)	3.5
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	3,178 (32.8%)	3,493 (36.1%)	2,193 (22.7%)	520 (5.4%)	298 (3.1%)	3.9

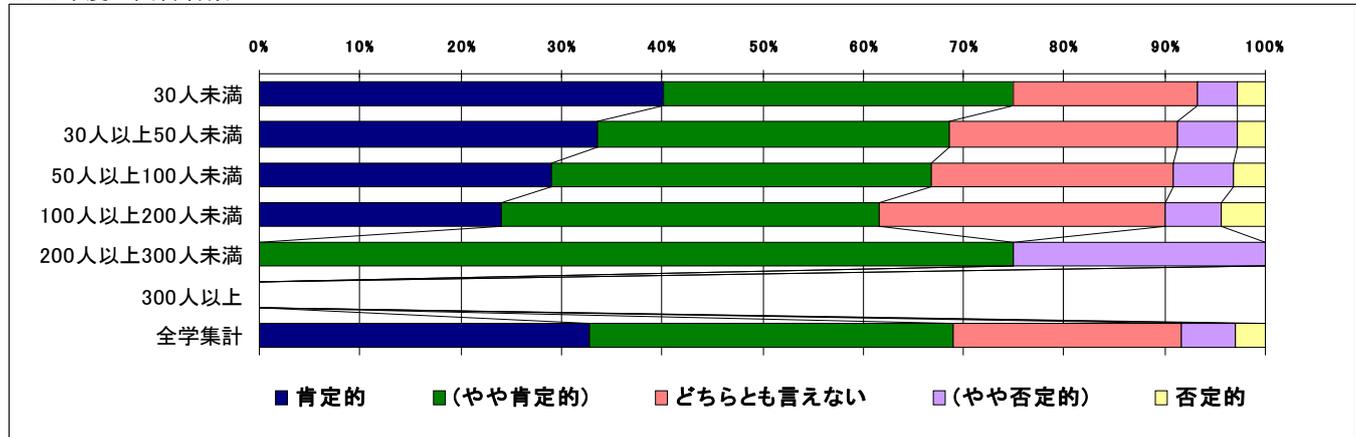
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 4年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

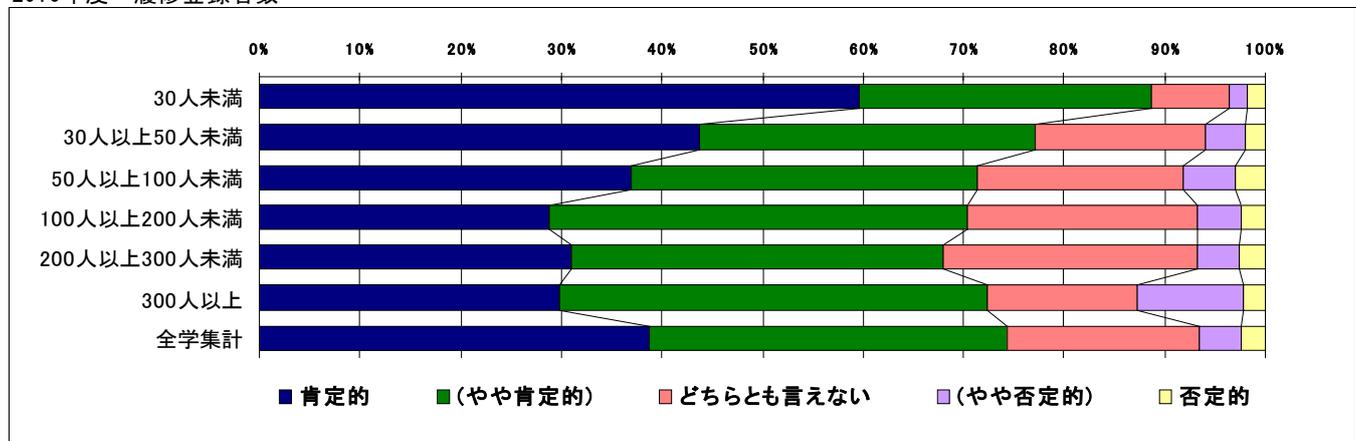
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	237 (59.7%)	115 (29.0%)	31 (7.8%)	7 (1.8%)	7 (1.8%)	4.4
	30人以上50人未満	224 (43.8%)	171 (33.4%)	86 (16.8%)	21 (4.1%)	10 (2.0%)	4.1
	50人以上100人未満	282 (36.9%)	264 (34.6%)	155 (20.3%)	40 (5.2%)	23 (3.0%)	4.0
	100人以上200人未満	186 (28.9%)	267 (41.5%)	148 (23.0%)	27 (4.2%)	16 (2.5%)	3.9
	200人以上300人未満	97 (31.1%)	115 (36.9%)	79 (25.3%)	13 (4.2%)	8 (2.6%)	3.9
	300人以上	14 (29.8%)	20 (42.6%)	7 (14.9%)	5 (10.6%)	1 (2.1%)	3.9
	全学集計	1,040 (38.9%)	952 (35.6%)	506 (18.9%)	113 (4.2%)	65 (2.4%)	4.0
2016年度 回答者	30人未満	471 (48.2%)	317 (32.4%)	144 (14.7%)	29 (3.0%)	16 (1.6%)	4.2
	30人以上50人未満	244 (34.2%)	251 (35.2%)	146 (20.4%)	44 (6.2%)	29 (4.1%)	3.9
	50人以上100人未満	215 (32.4%)	266 (40.1%)	143 (21.6%)	27 (4.1%)	12 (1.8%)	4.0
	100人以上200人未満	110 (34.6%)	117 (36.8%)	73 (23.0%)	11 (3.5%)	7 (2.2%)	4.0
	200人以上300人未満	0 (0%)	1 (25.0%)	0 (0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	2.3
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	1,040 (38.9%)	952 (35.6%)	506 (18.9%)	113 (4.2%)	65 (2.4%)	4.0

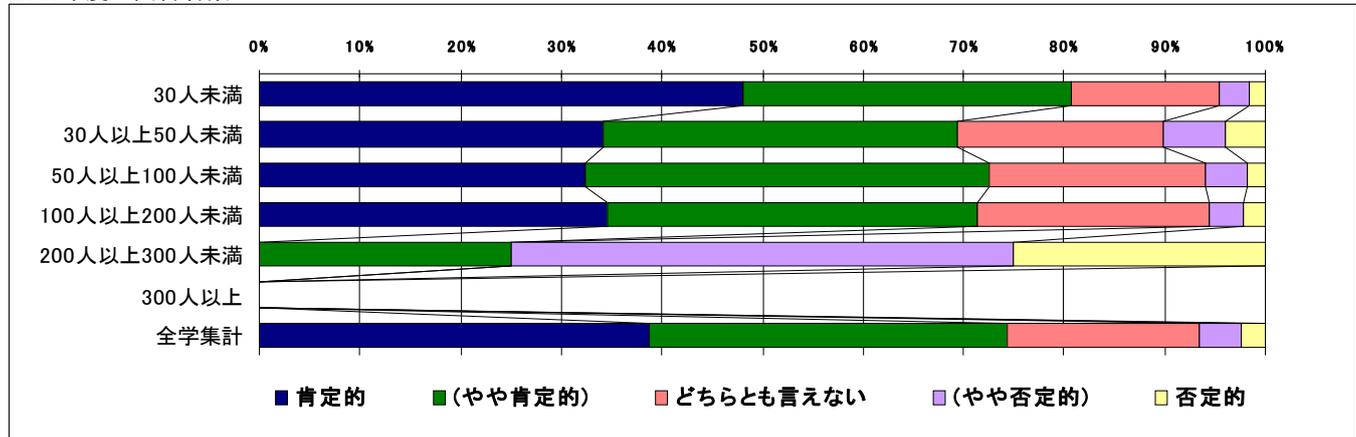
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年

学部： 文学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

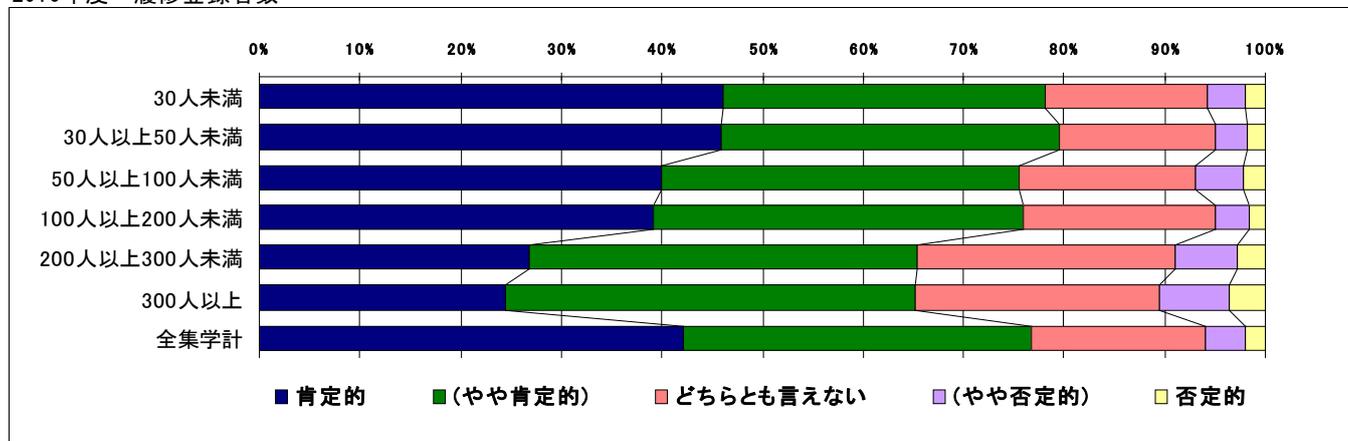
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	852 (46.1%)	592 (32.0%)	297 (16.1%)	72 (3.9%)	36 (1.9%)	4.2
	30人以上50人未満	1,414 (45.9%)	1,039 (33.7%)	474 (15.4%)	101 (3.3%)	55 (1.8%)	4.2
	50人以上100人未満	1,166 (39.9%)	1,043 (35.7%)	513 (17.5%)	138 (4.7%)	64 (2.2%)	4.1
	100人以上200人未満	447 (39.1%)	422 (36.9%)	217 (19.0%)	38 (3.3%)	19 (1.7%)	4.1
	200人以上300人未満	134 (26.7%)	194 (38.7%)	128 (25.5%)	31 (6.2%)	14 (2.8%)	3.8
	300人以上	21 (24.4%)	35 (40.7%)	21 (24.4%)	6 (7.0%)	3 (3.5%)	3.8
	全学集計	4,034 (42.1%)	3,325 (34.7%)	1,650 (17.2%)	386 (4.0%)	191 (2.0%)	4.1
2016年度 回答者	30人未満	1,692 (45.3%)	1,218 (32.6%)	614 (16.4%)	140 (3.7%)	71 (1.9%)	4.2
	30人以上50人未満	1,258 (43.1%)	1,014 (34.8%)	465 (15.9%)	125 (4.3%)	55 (1.9%)	4.1
	50人以上100人未満	883 (38.5%)	847 (36.9%)	429 (18.7%)	84 (3.7%)	50 (2.2%)	4.1
	100人以上200人未満	199 (31.7%)	244 (38.9%)	137 (21.9%)	34 (5.4%)	13 (2.1%)	3.9
	200人以上300人未満	2 (14.3%)	2 (14.3%)	5 (35.7%)	3 (21.4%)	2 (14.3%)	2.9
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	4,034 (42.1%)	3,325 (34.7%)	1,650 (17.2%)	386 (4.0%)	191 (2.0%)	4.1

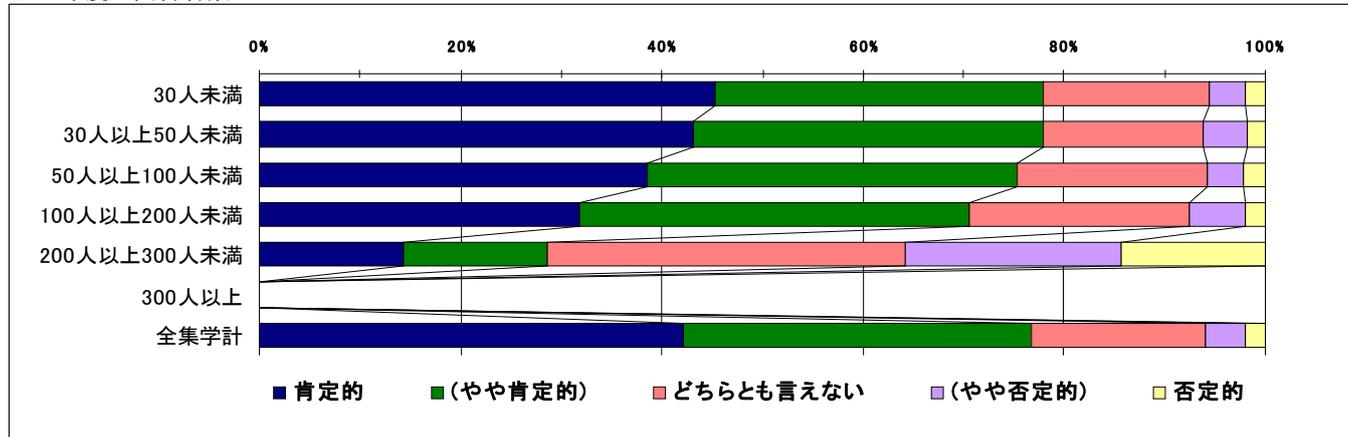
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



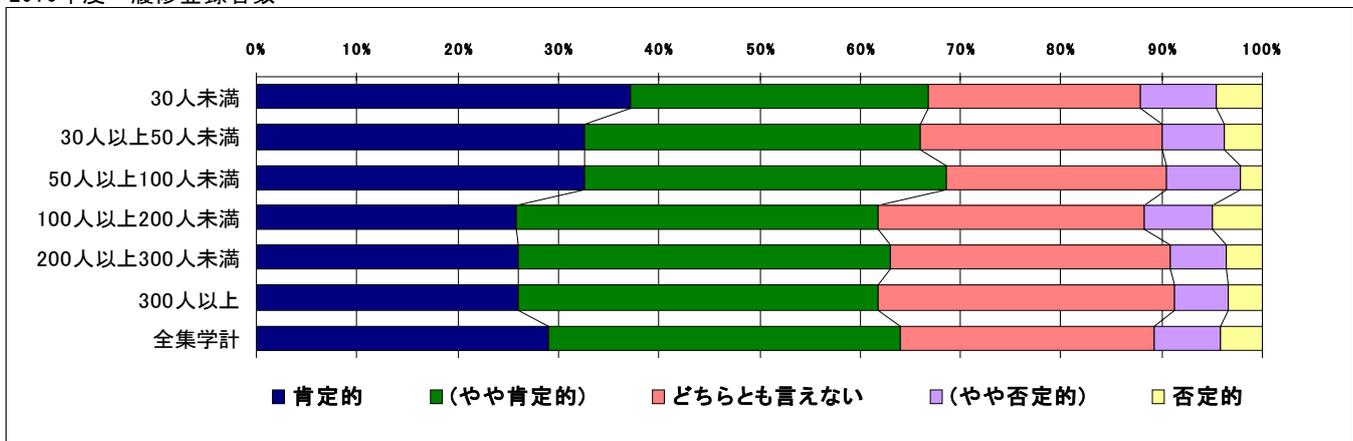
全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年  
 学部： 経済学部  
 総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 [Q20：満足度]

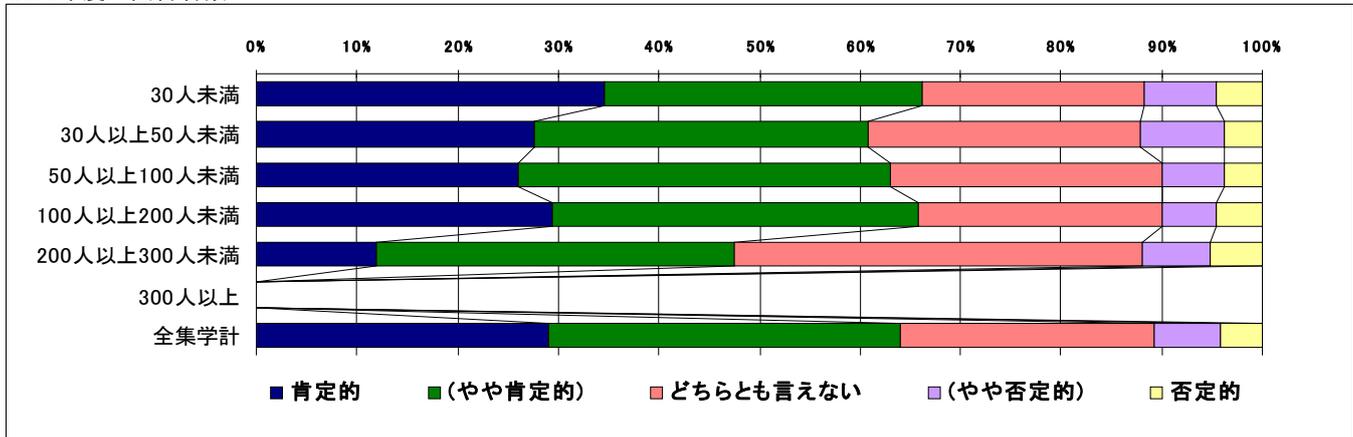
実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	240 (37.1%)	192 (29.7%)	137 (21.2%)	48 (7.4%)	30 (4.6%)	3.9
	30人以上50人未満	211 (32.5%)	218 (33.6%)	155 (23.9%)	40 (6.2%)	25 (3.9%)	3.8
	50人以上100人未満	143 (32.6%)	157 (35.8%)	96 (21.9%)	32 (7.3%)	10 (2.3%)	3.9
	100人以上200人未満	498 (25.9%)	689 (35.8%)	509 (26.5%)	132 (6.9%)	94 (4.9%)	3.7
	200人以上300人未満	214 (26.0%)	306 (37.1%)	228 (27.7%)	46 (5.6%)	30 (3.6%)	3.8
	300人以上	30 (26.1%)	41 (35.7%)	34 (29.6%)	6 (5.2%)	4 (3.5%)	3.8
	全学集計	1,336 (29.1%)	1,603 (34.9%)	1,159 (25.2%)	304 (6.6%)	193 (4.2%)	3.8
2016年度 回答者	30人未満	391 (34.6%)	356 (31.5%)	250 (22.1%)	81 (7.2%)	52 (4.6%)	3.8
	30人以上50人未満	213 (27.6%)	258 (33.4%)	208 (26.9%)	65 (8.4%)	29 (3.8%)	3.7
	50人以上100人未満	391 (26.1%)	553 (37.0%)	403 (26.9%)	92 (6.1%)	57 (3.8%)	3.8
	100人以上200人未満	334 (29.4%)	415 (36.5%)	274 (24.1%)	62 (5.5%)	52 (4.6%)	3.8
	200人以上300人未満	7 (11.9%)	21 (35.6%)	24 (40.7%)	4 (6.8%)	3 (5.1%)	3.4
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	1,336 (29.1%)	1,603 (34.9%)	1,159 (25.2%)	304 (6.6%)	193 (4.2%)	3.8

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年

学部： 外国語学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

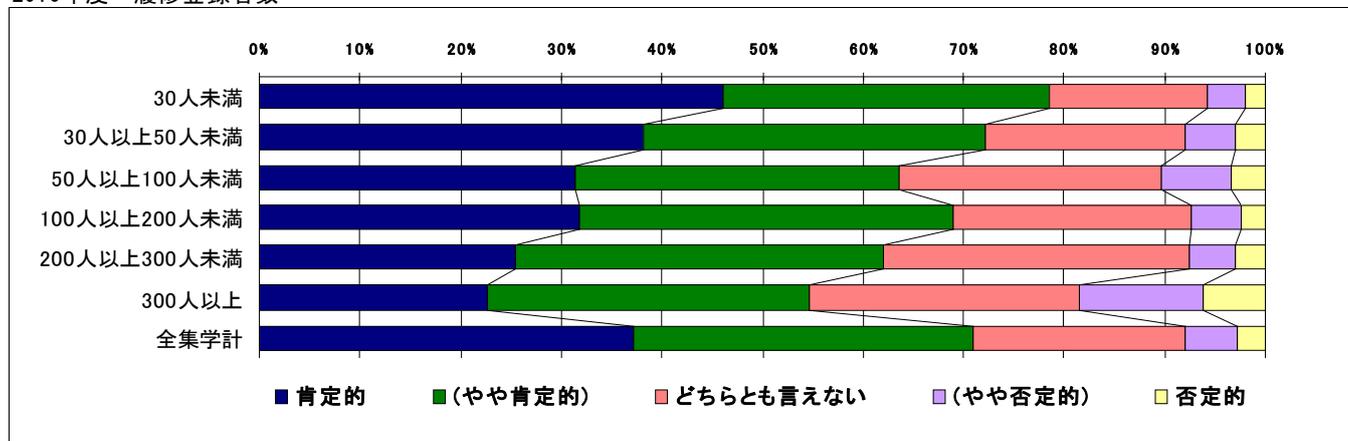
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	760 (46.0%)	538 (32.6%)	257 (15.6%)	64 (3.9%)	32 (1.9%)	4.2
	30人以上50人未満	768 (38.2%)	686 (34.1%)	398 (19.8%)	102 (5.1%)	59 (2.9%)	4.0
	50人以上100人未満	388 (31.4%)	399 (32.3%)	323 (26.1%)	86 (7.0%)	41 (3.3%)	3.8
	100人以上200人未満	236 (31.8%)	275 (37.1%)	175 (23.6%)	37 (5.0%)	18 (2.4%)	3.9
	200人以上300人未満	78 (25.5%)	112 (36.6%)	93 (30.4%)	14 (4.6%)	9 (2.9%)	3.8
	300人以上	22 (22.7%)	31 (32.0%)	26 (26.8%)	12 (12.4%)	6 (6.2%)	3.5
	全学集計	2,252 (37.3%)	2,041 (33.8%)	1,272 (21.0%)	315 (5.2%)	165 (2.7%)	4.0
2016年度 回答者	30人未満	1,367 (41.6%)	1,101 (33.5%)	588 (17.9%)	147 (4.5%)	83 (2.5%)	4.1
	30人以上50人未満	453 (35.2%)	416 (32.3%)	303 (23.5%)	78 (6.1%)	38 (3.0%)	3.9
	50人以上100人未満	319 (30.6%)	367 (35.2%)	262 (25.1%)	66 (6.3%)	30 (2.9%)	3.8
	100人以上200人未満	111 (26.7%)	154 (37.1%)	114 (27.5%)	22 (5.3%)	14 (3.4%)	3.8
	200人以上300人未満	2 (16.7%)	3 (25.0%)	5 (41.7%)	2 (16.7%)	0 (0%)	3.4
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	2,252 (37.3%)	2,041 (33.8%)	1,272 (21.0%)	315 (5.2%)	165 (2.7%)	4.0

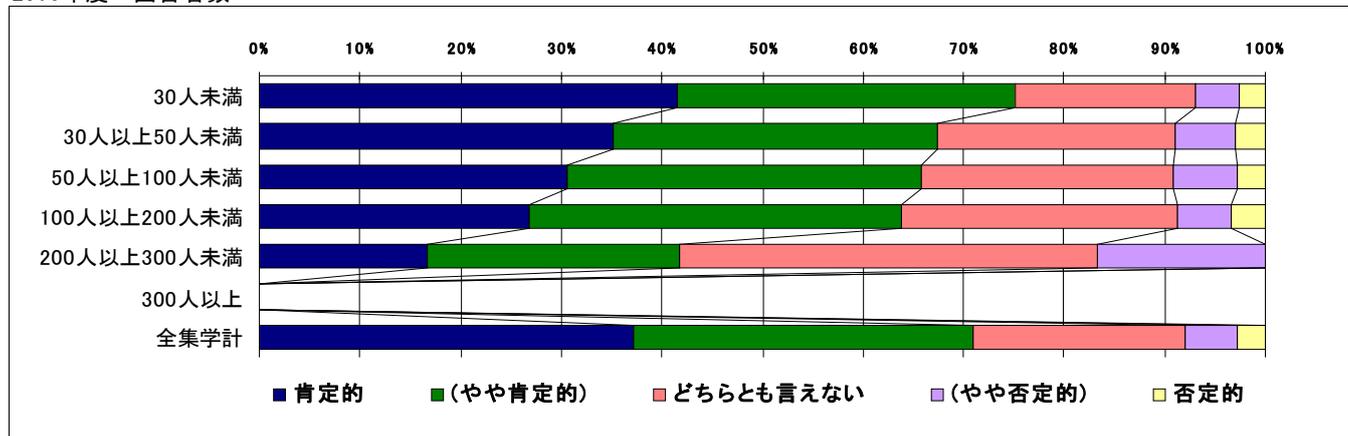
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年

学部： 法学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

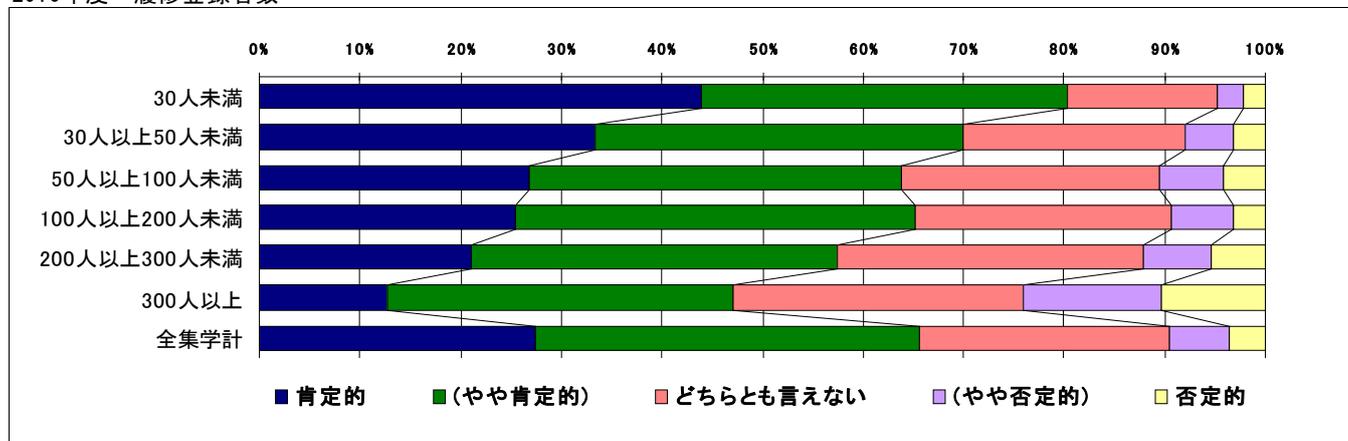
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	193 (44.0%)	160 (36.4%)	65 (14.8%)	11 (2.5%)	10 (2.3%)	4.2
	30人以上50人未満	230 (33.4%)	251 (36.5%)	152 (22.1%)	33 (4.8%)	22 (3.2%)	3.9
	50人以上100人未満	198 (26.8%)	273 (36.9%)	190 (25.7%)	47 (6.4%)	31 (4.2%)	3.8
	100人以上200人未満	673 (25.4%)	1,053 (39.8%)	675 (25.5%)	163 (6.2%)	83 (3.1%)	3.8
	200人以上300人未満	147 (21.1%)	253 (36.4%)	211 (30.3%)	48 (6.9%)	37 (5.3%)	3.6
	300人以上	11 (12.6%)	30 (34.5%)	25 (28.7%)	12 (13.8%)	9 (10.3%)	3.3
	全学集計	1,452 (27.4%)	2,020 (38.1%)	1,318 (24.9%)	314 (5.9%)	192 (3.6%)	3.8
2016年度 回答者	30人未満	388 (38.6%)	386 (38.4%)	183 (18.2%)	31 (3.1%)	17 (1.7%)	4.1
	30人以上50人未満	275 (26.5%)	381 (36.7%)	260 (25.1%)	66 (6.4%)	55 (5.3%)	3.7
	50人以上100人未満	474 (24.5%)	754 (39.0%)	533 (27.6%)	115 (5.9%)	57 (2.9%)	3.8
	100人以上200人未満	310 (24.4%)	482 (37.9%)	325 (25.6%)	96 (7.5%)	59 (4.6%)	3.7
	200人以上300人未満	5 (10.2%)	17 (34.7%)	17 (34.7%)	6 (12.2%)	4 (8.2%)	3.3
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	1,452 (27.4%)	2,020 (38.1%)	1,318 (24.9%)	314 (5.9%)	192 (3.6%)	3.8

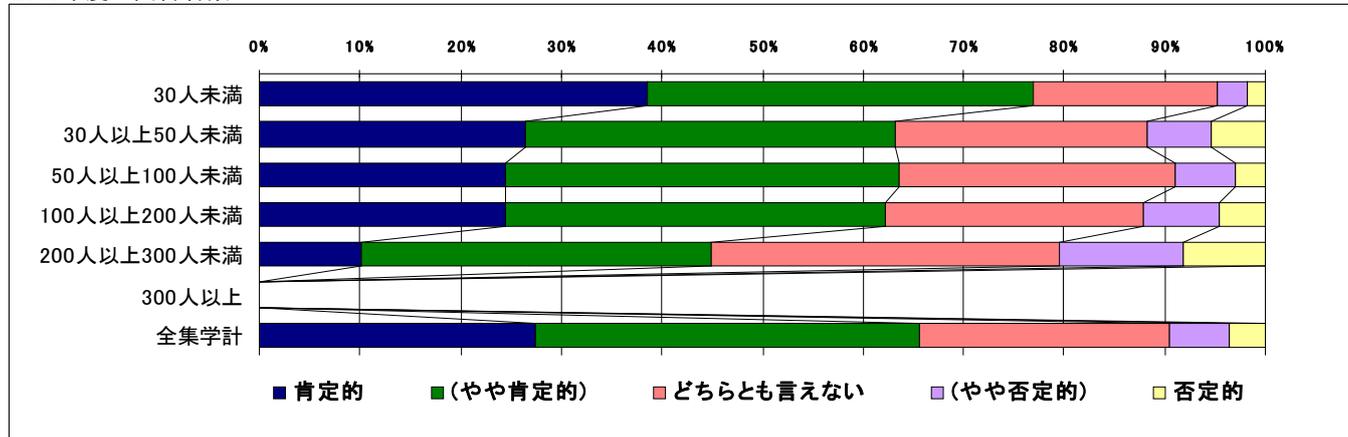
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



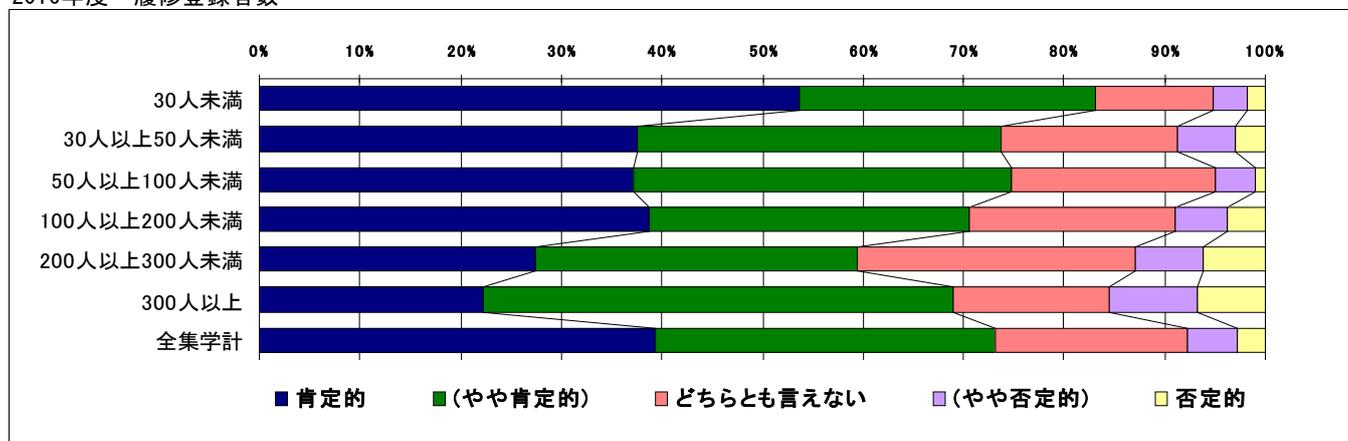
全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年  
 学部： 国際関係学部  
 総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 [Q20：満足度]

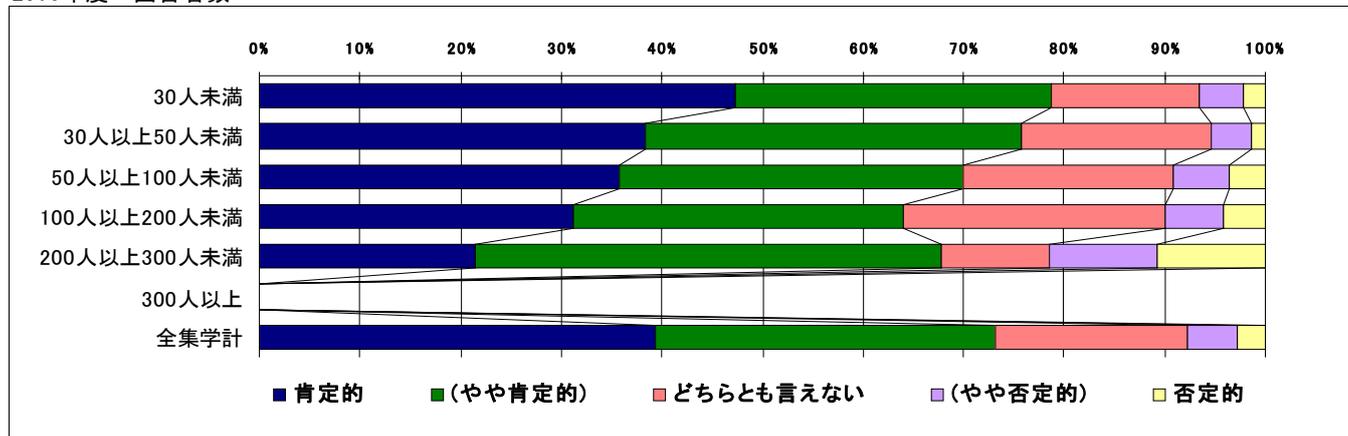
実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	238 (53.6%)	131 (29.5%)	52 (11.7%)	15 (3.4%)	8 (1.8%)	4.3
	30人以上50人未満	165 (37.7%)	158 (36.1%)	77 (17.6%)	25 (5.7%)	13 (3.0%)	4.0
	50人以上100人未満	248 (37.1%)	251 (37.6%)	136 (20.4%)	27 (4.0%)	6 (0.9%)	4.1
	100人以上200人未満	262 (38.8%)	214 (31.7%)	139 (20.6%)	35 (5.2%)	25 (3.7%)	4.0
	200人以上300人未満	70 (27.3%)	82 (32.0%)	71 (27.7%)	17 (6.6%)	16 (6.2%)	3.7
	300人以上	10 (22.2%)	21 (46.7%)	7 (15.6%)	4 (8.9%)	3 (6.7%)	3.7
	全学集計	993 (39.3%)	857 (33.9%)	482 (19.1%)	123 (4.9%)	71 (2.8%)	4.0
2016年度 回答者	30人未満	390 (47.3%)	259 (31.4%)	122 (14.8%)	36 (4.4%)	18 (2.2%)	4.2
	30人以上50人未満	218 (38.4%)	211 (37.2%)	108 (19.0%)	22 (3.9%)	8 (1.4%)	4.1
	50人以上100人未満	265 (35.8%)	254 (34.3%)	154 (20.8%)	41 (5.5%)	27 (3.6%)	3.9
	100人以上200人未満	114 (31.2%)	120 (32.9%)	95 (26.0%)	21 (5.8%)	15 (4.1%)	3.8
	200人以上300人未満	6 (21.4%)	13 (46.4%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)	3.6
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	993 (39.3%)	857 (33.9%)	482 (19.1%)	123 (4.9%)	71 (2.8%)	4.0

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



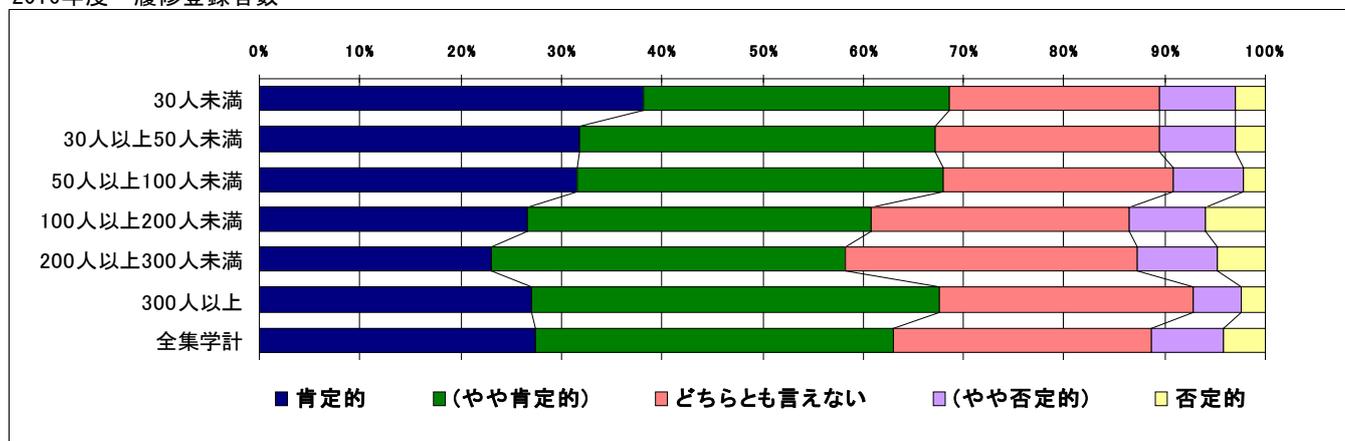
全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年  
 学部： 経営学部  
 総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 [Q20：満足度]

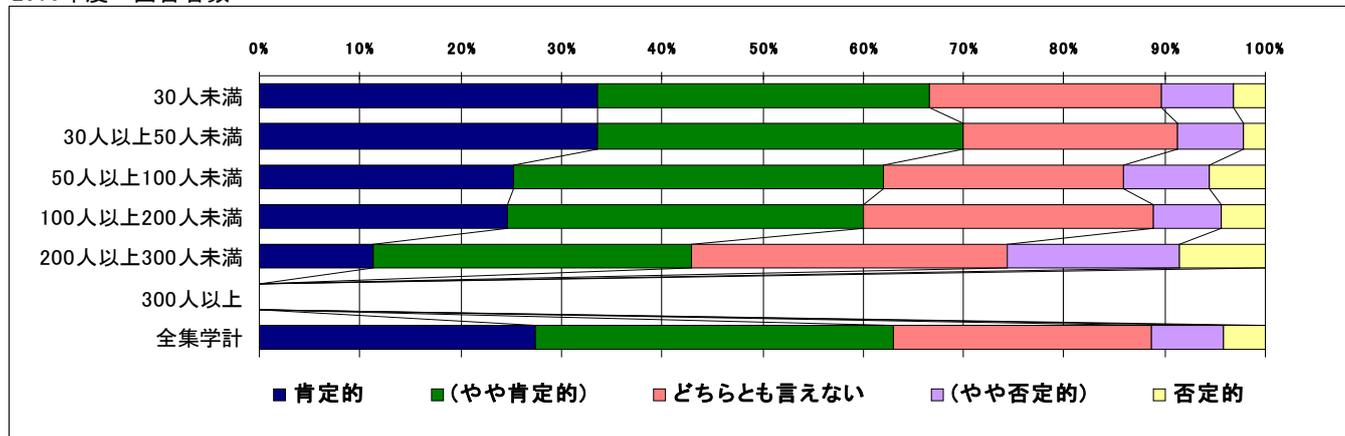
実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	90 (38.1%)	72 (30.5%)	49 (20.8%)	18 (7.6%)	7 (3.0%)	3.9
	30人以上50人未満	166 (31.8%)	185 (35.4%)	116 (22.2%)	39 (7.5%)	16 (3.1%)	3.9
	50人以上100人未満	222 (31.6%)	256 (36.4%)	161 (22.9%)	49 (7.0%)	15 (2.1%)	3.9
	100人以上200人未満	318 (26.6%)	409 (34.3%)	306 (25.6%)	89 (7.5%)	72 (6.0%)	3.7
	200人以上300人未満	353 (23.0%)	542 (35.3%)	445 (29.0%)	122 (7.9%)	74 (4.8%)	3.6
	300人以上	147 (27.1%)	219 (40.4%)	137 (25.3%)	26 (4.8%)	13 (2.4%)	3.9
	全学集計	1,296 (27.4%)	1,683 (35.6%)	1,214 (25.6%)	343 (7.2%)	197 (4.2%)	3.7
2016年度 回答者	30人未満	216 (33.6%)	212 (33.0%)	149 (23.2%)	46 (7.2%)	20 (3.1%)	3.9
	30人以上50人未満	269 (33.5%)	292 (36.4%)	171 (21.3%)	53 (6.6%)	17 (2.1%)	3.9
	50人以上100人未満	290 (25.2%)	424 (36.9%)	274 (23.8%)	97 (8.4%)	65 (5.7%)	3.7
	100人以上200人未満	517 (24.6%)	744 (35.4%)	609 (29.0%)	141 (6.7%)	92 (4.4%)	3.7
	200人以上300人未満	4 (11.4%)	11 (31.4%)	11 (31.4%)	6 (17.1%)	3 (8.6%)	3.2
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	1,296 (27.4%)	1,683 (35.6%)	1,214 (25.6%)	343 (7.2%)	197 (4.2%)	3.7

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



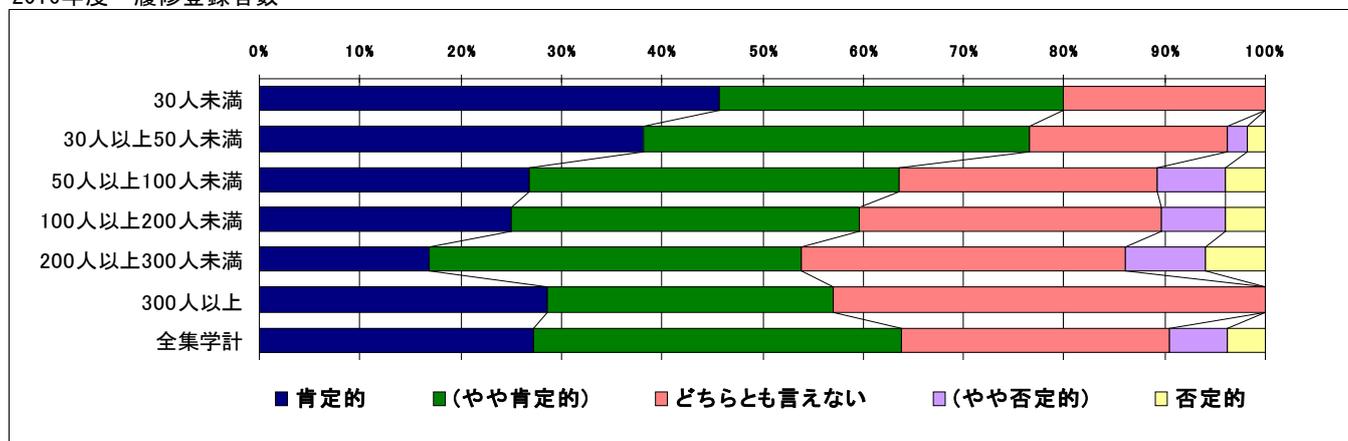
全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年  
 学部： 環境創造学部  
 総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 [Q20：満足度]

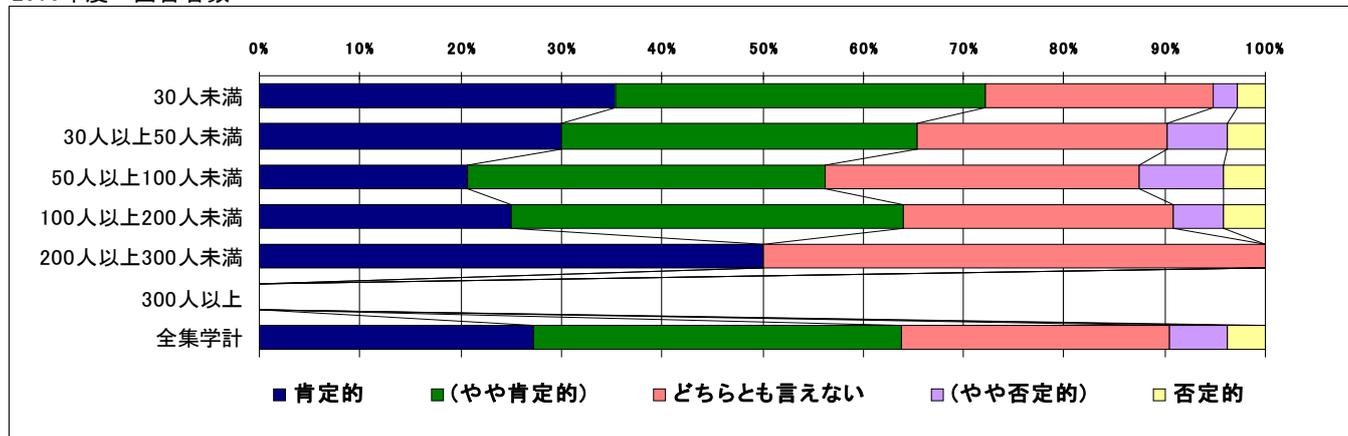
実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	16 (45.7%)	12 (34.3%)	7 (20.0%)	0 (0%)	0 (0%)	4.3
	30人以上50人未満	195 (38.2%)	196 (38.4%)	101 (19.8%)	10 (2.0%)	9 (1.8%)	4.1
	50人以上100人未満	172 (26.9%)	234 (36.6%)	164 (25.7%)	43 (6.7%)	26 (4.1%)	3.8
	100人以上200人未満	148 (25.0%)	205 (34.7%)	177 (29.9%)	38 (6.4%)	23 (3.9%)	3.7
	200人以上300人未満	77 (17.0%)	167 (36.9%)	146 (32.2%)	36 (7.9%)	27 (6.0%)	3.5
	300人以上	2 (28.6%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	0 (0%)	0 (0%)	3.9
	全学集計	610 (27.3%)	816 (36.5%)	598 (26.7%)	127 (5.7%)	85 (3.8%)	3.8
2016年度 回答者	30人未満	172 (35.3%)	179 (36.8%)	111 (22.8%)	11 (2.3%)	14 (2.9%)	4.0
	30人以上50人未満	177 (30.1%)	208 (35.4%)	146 (24.8%)	35 (6.0%)	22 (3.7%)	3.8
	50人以上100人未満	141 (20.6%)	243 (35.6%)	213 (31.2%)	57 (8.3%)	29 (4.2%)	3.6
	100人以上200人未満	119 (25.0%)	186 (39.1%)	127 (26.7%)	24 (5.0%)	20 (4.2%)	3.8
	200人以上300人未満	1 (50.0%)	0 (0%)	1 (50.0%)	0 (0%)	0 (0%)	4.0
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	610 (27.3%)	816 (36.5%)	598 (26.7%)	127 (5.7%)	85 (3.8%)	3.8

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）  
 2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答者数レベル別集計】

学年： 全学年

学部： スポーツ・健康科学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

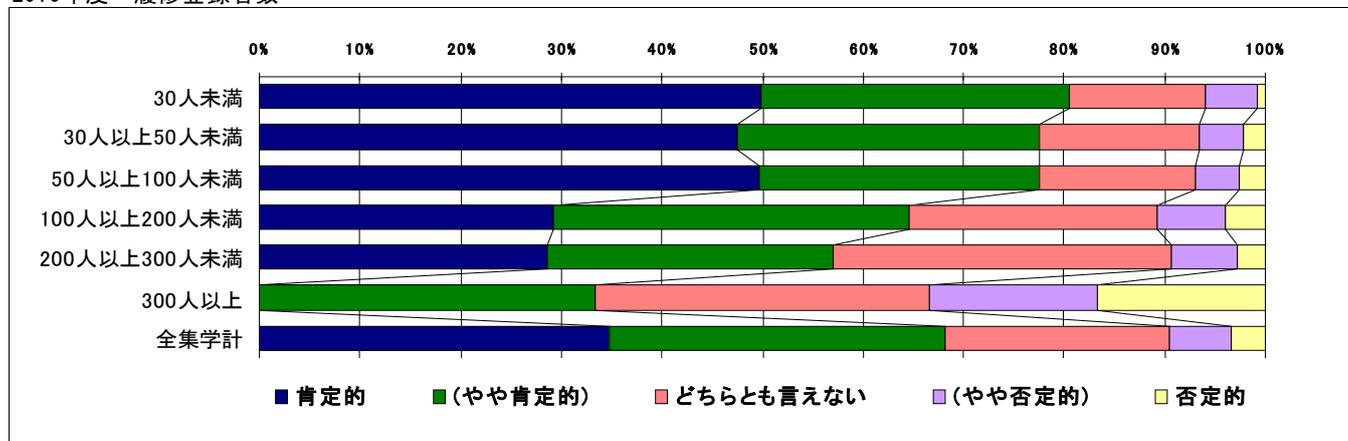
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度 履修者	30人未満	67 (50.0%)	41 (30.6%)	18 (13.4%)	7 (5.2%)	1 (0.7%)	4.2
	30人以上50人未満	240 (47.5%)	152 (30.1%)	80 (15.8%)	22 (4.4%)	11 (2.2%)	4.2
	50人以上100人未満	260 (49.7%)	146 (27.9%)	81 (15.5%)	23 (4.4%)	13 (2.5%)	4.2
	100人以上200人未満	765 (29.1%)	931 (35.5%)	649 (24.7%)	177 (6.7%)	103 (3.9%)	3.8
	200人以上300人未満	40 (28.6%)	40 (28.6%)	47 (33.6%)	9 (6.4%)	4 (2.9%)	3.7
	300人以上	0 (0%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2.8
	全学集計	1,372 (34.9%)	1,312 (33.4%)	877 (22.3%)	239 (6.1%)	133 (3.4%)	3.9
2016年度 回答者	30人未満	212 (53.0%)	116 (29.0%)	51 (12.8%)	17 (4.2%)	4 (1.0%)	4.3
	30人以上50人未満	269 (44.8%)	181 (30.2%)	110 (18.3%)	26 (4.3%)	14 (2.3%)	4.1
	50人以上100人未満	452 (30.6%)	489 (33.2%)	353 (23.9%)	112 (7.6%)	69 (4.7%)	3.8
	100人以上200人未満	439 (30.2%)	525 (36.1%)	362 (24.9%)	83 (5.7%)	45 (3.1%)	3.8
	200人以上300人未満	0 (0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	2.5
	300人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—
	全学集計	1,372 (34.9%)	1,312 (33.4%)	877 (22.3%)	239 (6.1%)	133 (3.4%)	3.9

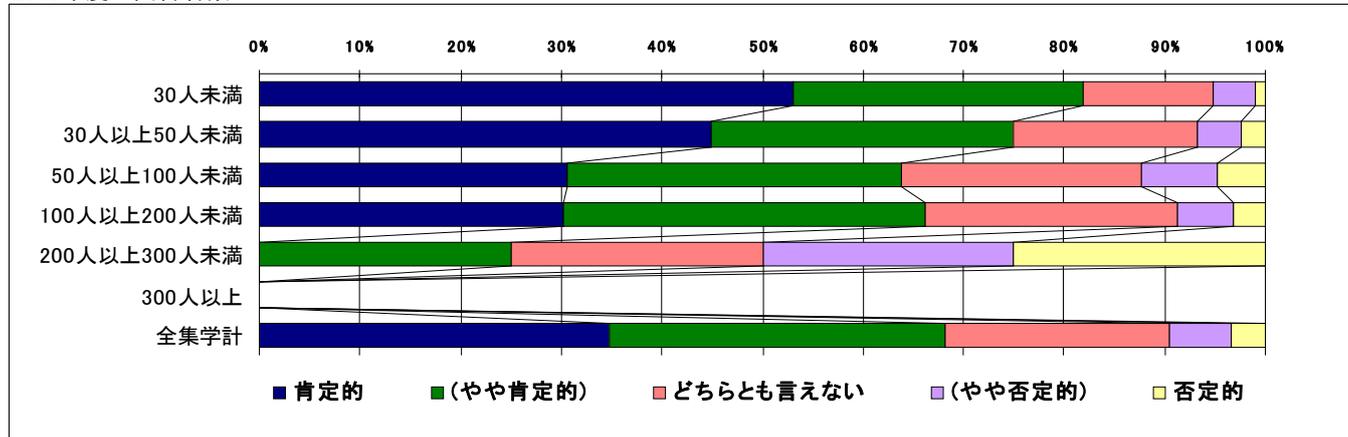
<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度 履修登録者数



2016年度 回答者数



B.項目別集計  
(全学・学年別集計)



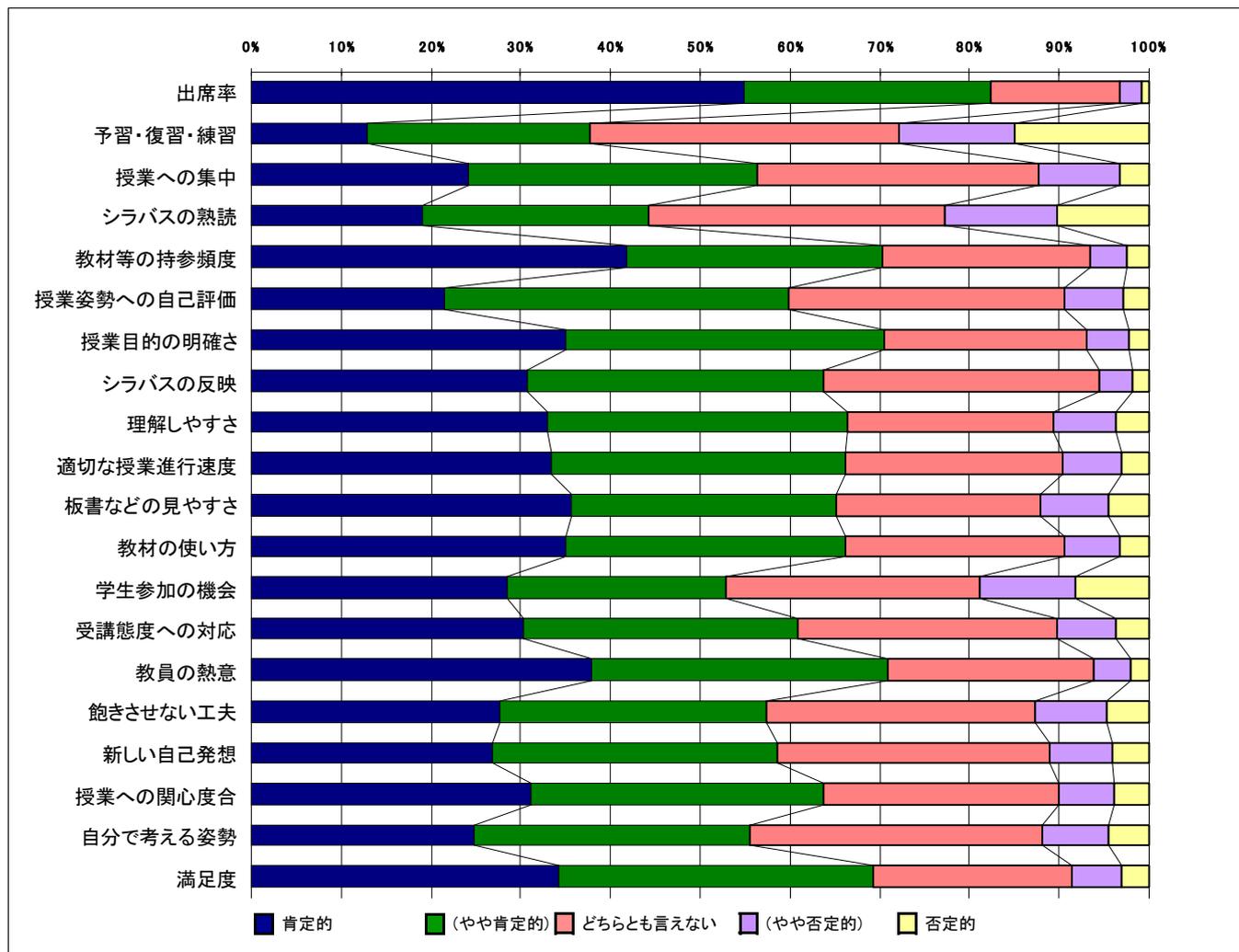
全学集計【項目別集計】

学年： 全学年

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも 言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	I Q1 出席率	22,585 (54.9%)	11,280 (27.4%)	5,909 (14.4%)	1,001 (2.4%)	366 (0.9%)	4.3
	I Q2 予習・復習・練習	5,292 (12.9%)	10,250 (24.9%)	14,147 (34.4%)	5,293 (12.9%)	6,149 (14.9%)	3.1
	I Q3 授業への集中	9,972 (24.3%)	13,169 (32.0%)	12,894 (31.4%)	3,770 (9.2%)	1,316 (3.2%)	3.6
	I Q4 シラバスの熟読	7,794 (19.0%)	10,373 (25.2%)	13,630 (33.2%)	5,065 (12.3%)	4,244 (10.3%)	3.3
	I Q5 教材等の持参頻度	17,188 (41.8%)	11,691 (28.5%)	9,480 (23.1%)	1,698 (4.1%)	1,024 (2.5%)	4.0
	I Q6 授業姿勢への自己評価	8,787 (21.4%)	15,760 (38.4%)	12,608 (30.7%)	2,704 (6.6%)	1,158 (2.8%)	3.7
	II Q7 授業目的の明確さ	14,385 (35.0%)	14,581 (35.4%)	9,331 (22.7%)	1,890 (4.6%)	950 (2.3%)	4.0
	II Q8 シラバスの反映	12,602 (30.7%)	13,575 (33.0%)	12,631 (30.7%)	1,503 (3.7%)	799 (1.9%)	3.9
	II Q9 理解しやすさ	13,610 (33.1%)	13,706 (33.3%)	9,463 (23.0%)	2,788 (6.8%)	1,559 (3.8%)	3.9
	II Q10 適切な授業進行速度	13,727 (33.4%)	13,478 (32.8%)	9,936 (24.2%)	2,682 (6.5%)	1,294 (3.1%)	3.9
	II Q11 板書などの見やすさ	14,650 (35.6%)	12,108 (29.4%)	9,410 (22.9%)	3,097 (7.5%)	1,852 (4.5%)	3.8
	II Q12 教材の使い方	14,403 (35.0%)	12,805 (31.1%)	10,005 (24.3%)	2,549 (6.2%)	1,350 (3.3%)	3.9
	II Q13 学生参加の機会	11,676 (28.4%)	10,098 (24.6%)	11,553 (28.1%)	4,393 (10.7%)	3,388 (8.2%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	12,481 (30.4%)	12,519 (30.5%)	11,856 (28.8%)	2,772 (6.7%)	1,476 (3.6%)	3.8
	II Q15 教員の熱意	15,576 (37.9%)	13,583 (33.0%)	9,422 (22.9%)	1,653 (4.0%)	877 (2.1%)	4.0
	II Q16 飽きさせない工夫	11,398 (27.7%)	12,188 (29.6%)	12,283 (29.9%)	3,276 (8.0%)	1,972 (4.8%)	3.7
	II Q17 新しい自己発想	11,054 (26.9%)	13,008 (31.6%)	12,469 (30.3%)	2,901 (7.1%)	1,689 (4.1%)	3.7
	II Q18 授業への関心度合	12,794 (31.1%)	13,394 (32.6%)	10,777 (26.2%)	2,529 (6.1%)	1,637 (4.0%)	3.8
	II Q19 自分で考える姿勢	10,196 (24.8%)	12,625 (30.8%)	13,305 (32.4%)	3,064 (7.5%)	1,853 (4.5%)	3.6
	III Q20 満足度	13,345 (34.3%)	13,657 (35.1%)	8,570 (22.0%)	2,151 (5.5%)	1,227 (3.2%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



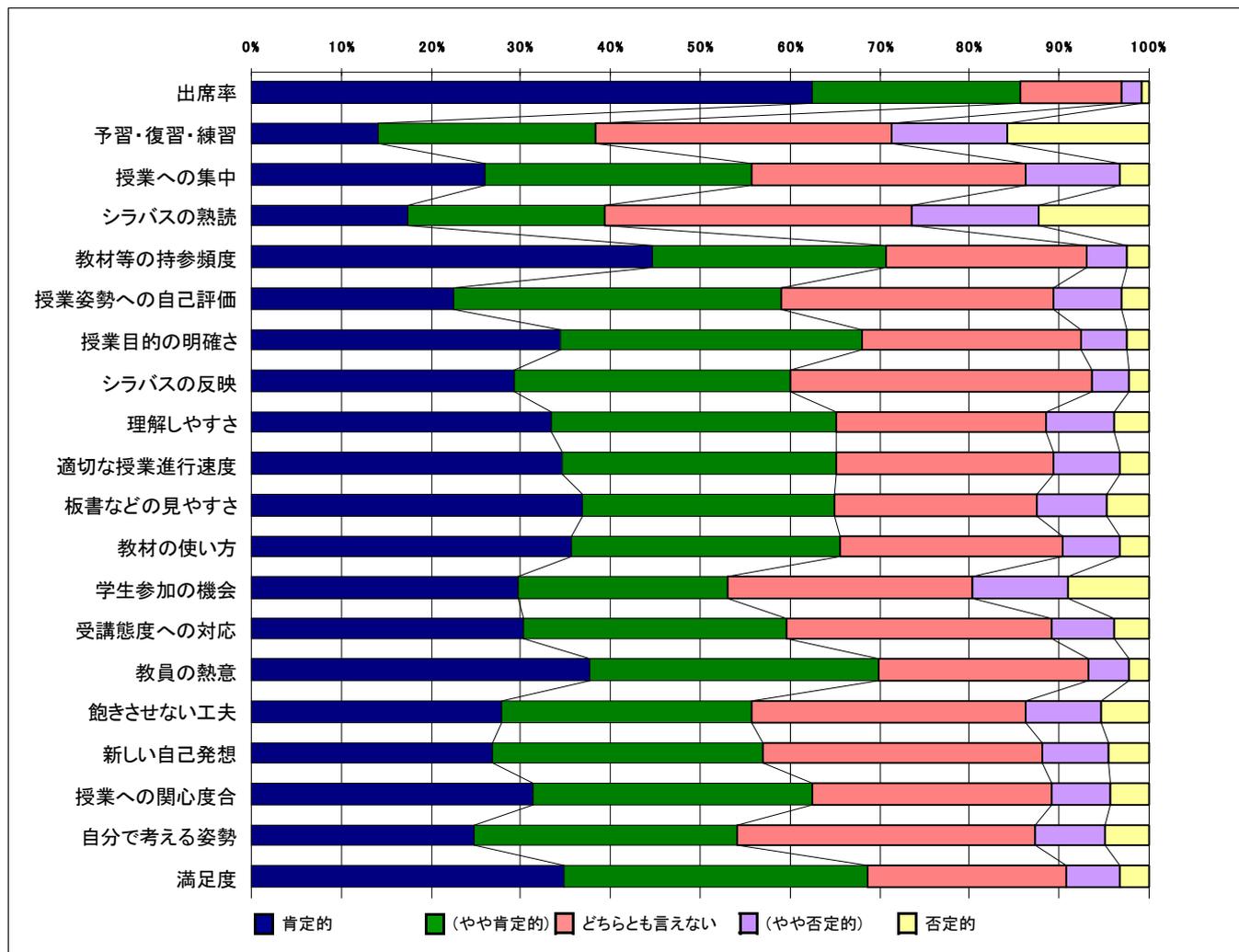
全学集計【項目別集計】

学年： 1年

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも 言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	I Q1 出席率	9,246 (62.6%)	3,404 (23.0%)	1,681 (11.4%)	330 (2.2%)	120 (0.8%)	4.4
	I Q2 予習・復習・練習	2,104 (14.2%)	3,560 (24.1%)	4,862 (32.9%)	1,912 (12.9%)	2,342 (15.8%)	3.1
	I Q3 授業への集中	3,833 (25.9%)	4,412 (29.9%)	4,505 (30.5%)	1,529 (10.3%)	498 (3.4%)	3.6
	I Q4 シラバスの熟読	2,579 (17.5%)	3,236 (21.9%)	5,051 (34.2%)	2,088 (14.1%)	1,814 (12.3%)	3.2
	I Q5 教材等の持参頻度	6,604 (44.8%)	3,834 (26.0%)	3,284 (22.3%)	658 (4.5%)	376 (2.5%)	4.1
	I Q6 授業姿勢への自己評価	3,328 (22.6%)	5,375 (36.5%)	4,470 (30.4%)	1,092 (7.4%)	463 (3.1%)	3.7
	II Q7 授業目的の明確さ	5,101 (34.5%)	4,967 (33.6%)	3,596 (24.3%)	747 (5.1%)	370 (2.5%)	3.9
	II Q8 シラバスの反映	4,339 (29.4%)	4,519 (30.6%)	4,968 (33.6%)	608 (4.1%)	334 (2.3%)	3.8
	II Q9 理解しやすさ	4,939 (33.4%)	4,689 (31.7%)	3,449 (23.3%)	1,115 (7.5%)	588 (4.0%)	3.8
	II Q10 適切な授業進行速度	5,110 (34.6%)	4,529 (30.7%)	3,570 (24.2%)	1,087 (7.4%)	477 (3.2%)	3.9
	II Q11 板書などの見やすさ	5,447 (36.9%)	4,160 (28.2%)	3,319 (22.5%)	1,142 (7.7%)	705 (4.8%)	3.8
	II Q12 教材の使い方	5,281 (35.8%)	4,401 (29.8%)	3,656 (24.7%)	953 (6.5%)	481 (3.3%)	3.9
	II Q13 学生参加の機会	4,392 (29.7%)	3,440 (23.3%)	4,025 (27.3%)	1,573 (10.7%)	1,339 (9.1%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	4,469 (30.3%)	4,349 (29.4%)	4,354 (29.5%)	1,038 (7.0%)	563 (3.8%)	3.8
	II Q15 教員の熱意	5,566 (37.7%)	4,741 (32.1%)	3,465 (23.5%)	652 (4.4%)	346 (2.3%)	4.0
	II Q16 飽きさせない工夫	4,124 (27.9%)	4,107 (27.8%)	4,504 (30.5%)	1,248 (8.4%)	790 (5.3%)	3.6
	II Q17 新しい自己発想	3,963 (26.8%)	4,444 (30.1%)	4,612 (31.2%)	1,098 (7.4%)	659 (4.5%)	3.7
	II Q18 授業への関心度合	4,630 (31.3%)	4,609 (31.2%)	3,929 (26.6%)	978 (6.6%)	632 (4.3%)	3.8
	II Q19 自分で考える姿勢	3,666 (24.8%)	4,309 (29.2%)	4,900 (33.2%)	1,167 (7.9%)	719 (4.9%)	3.6
	III Q20 満足度	4,957 (34.8%)	4,811 (33.8%)	3,151 (22.1%)	849 (6.0%)	460 (3.2%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



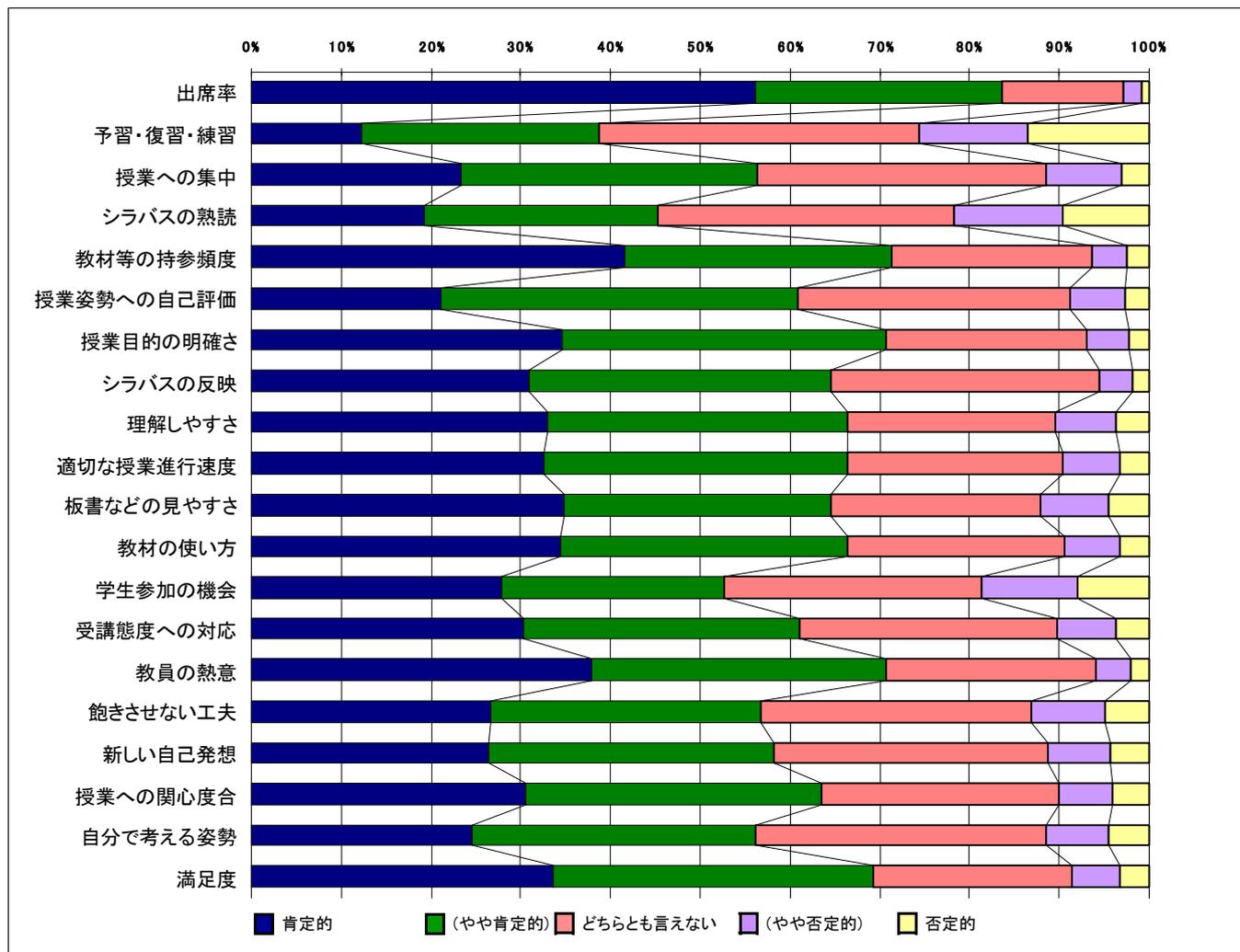
全学集計【項目別集計】

学年： 2年

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも 言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	I Q1 出席率	7,337 (56.2%)	3,576 (27.4%)	1,771 (13.6%)	275 (2.1%)	97 (0.7%)	4.4
	I Q2 予習・復習・練習	1,610 (12.3%)	3,432 (26.3%)	4,673 (35.8%)	1,558 (11.9%)	1,777 (13.6%)	3.1
	I Q3 授業への集中	3,038 (23.3%)	4,320 (33.1%)	4,178 (32.0%)	1,113 (8.5%)	396 (3.0%)	3.7
	I Q4 シラバスの熟読	2,515 (19.3%)	3,402 (26.1%)	4,293 (32.9%)	1,569 (12.0%)	1,266 (9.7%)	3.3
	I Q5 教材等の持参頻度	5,429 (41.7%)	3,879 (29.8%)	2,895 (22.2%)	503 (3.9%)	328 (2.5%)	4.0
	I Q6 授業姿勢への自己評価	2,755 (21.2%)	5,172 (39.7%)	3,939 (30.3%)	792 (6.1%)	359 (2.8%)	3.7
	II Q7 授業目的の明確さ	4,528 (34.7%)	4,712 (36.1%)	2,912 (22.3%)	594 (4.6%)	307 (2.4%)	4.0
	II Q8 シラバスの反映	4,041 (31.0%)	4,383 (33.6%)	3,904 (29.9%)	481 (3.7%)	238 (1.8%)	3.9
	II Q9 理解しやすさ	4,301 (33.0%)	4,372 (33.5%)	3,023 (23.2%)	864 (6.6%)	488 (3.7%)	3.9
	II Q10 適切な授業進行速度	4,247 (32.5%)	4,416 (33.8%)	3,143 (24.1%)	814 (6.2%)	431 (3.3%)	3.9
	II Q11 板書などの見やすさ	4,536 (34.8%)	3,885 (29.8%)	3,049 (23.4%)	1,006 (7.7%)	575 (4.4%)	3.8
	II Q12 教材の使い方	4,501 (34.5%)	4,153 (31.8%)	3,154 (24.2%)	808 (6.2%)	431 (3.3%)	3.9
	II Q13 学生参加の機会	3,643 (27.9%)	3,233 (24.8%)	3,742 (28.7%)	1,397 (10.7%)	1,031 (7.9%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	3,966 (30.4%)	3,997 (30.7%)	3,738 (28.7%)	868 (6.7%)	468 (3.6%)	3.8
	II Q15 教員の熱意	4,957 (38.0%)	4,266 (32.7%)	3,052 (23.4%)	518 (4.0%)	260 (2.0%)	4.0
	II Q16 飽きさせない工夫	3,471 (26.6%)	3,939 (30.2%)	3,935 (30.2%)	1,074 (8.2%)	629 (4.8%)	3.7
	II Q17 新しい自己発想	3,443 (26.4%)	4,163 (31.9%)	3,979 (30.5%)	913 (7.0%)	554 (4.2%)	3.7
	II Q18 授業への関心度合	3,994 (30.6%)	4,308 (33.0%)	3,450 (26.4%)	774 (5.9%)	530 (4.1%)	3.8
	II Q19 自分で考える姿勢	3,191 (24.5%)	4,110 (31.6%)	4,224 (32.4%)	915 (7.0%)	585 (4.5%)	3.6
	III Q20 満足度	4,144 (33.7%)	4,382 (35.6%)	2,713 (22.0%)	667 (5.4%)	403 (3.3%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



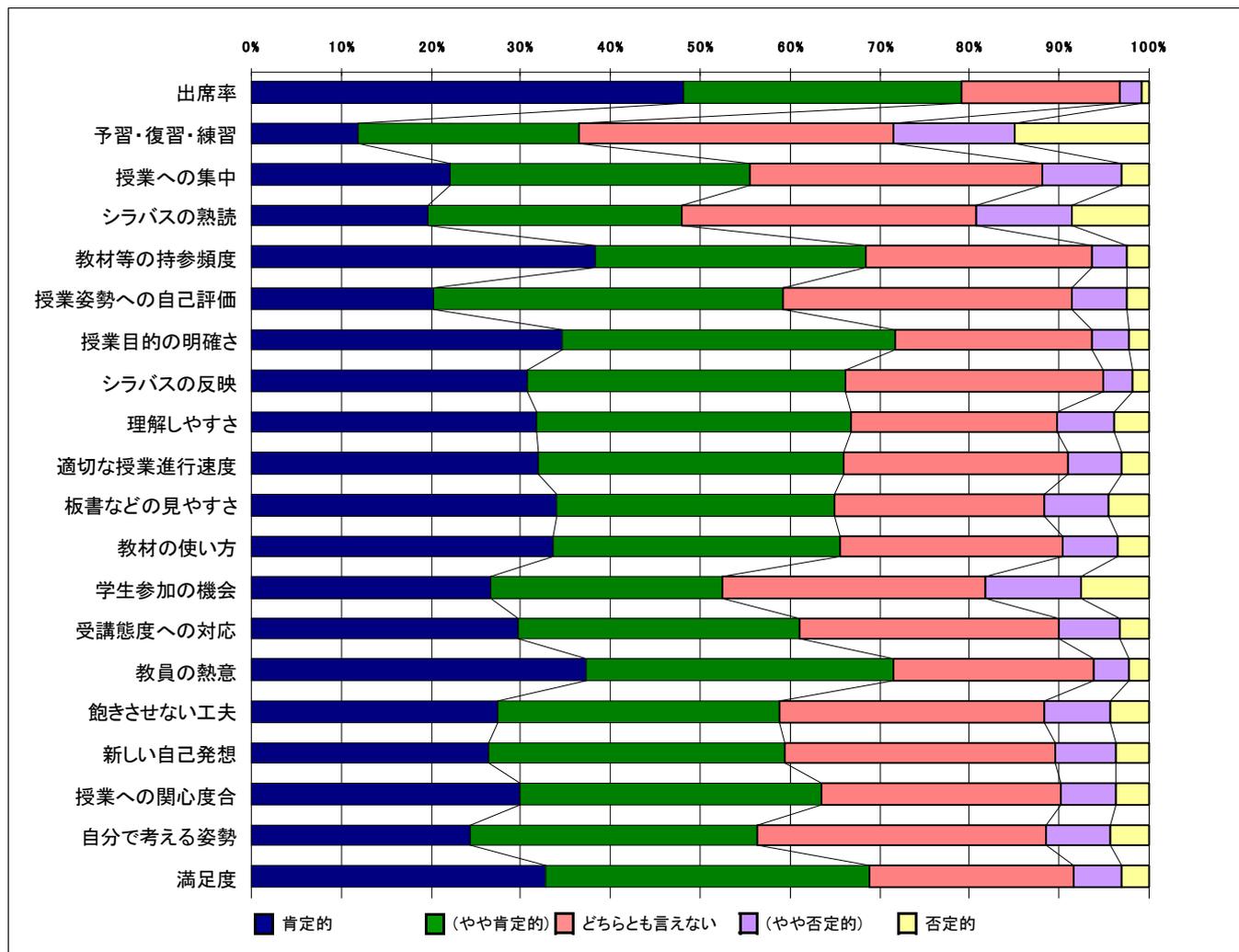
全学集計【項目別集計】

学年： 3年

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも 言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	I Q1 出席率	5,004 (48.1%)	3,227 (31.0%)	1,824 (17.5%)	250 (2.4%)	93 (0.9%)	4.2
	I Q2 予習・復習・練習	1,227 (11.8%)	2,565 (24.7%)	3,652 (35.1%)	1,400 (13.5%)	1,554 (14.9%)	3.0
	I Q3 授業への集中	2,308 (22.2%)	3,464 (33.3%)	3,395 (32.7%)	901 (8.7%)	328 (3.2%)	3.6
	I Q4 シラバスの熟読	2,049 (19.7%)	2,943 (28.3%)	3,406 (32.8%)	1,096 (10.5%)	898 (8.6%)	3.4
	I Q5 教材等の持参頻度	3,982 (38.3%)	3,140 (30.2%)	2,605 (25.1%)	402 (3.9%)	263 (2.5%)	4.0
	I Q6 授業姿勢への自己評価	2,106 (20.3%)	4,032 (38.8%)	3,341 (32.2%)	649 (6.3%)	251 (2.4%)	3.7
	II Q7 授業目的の明確さ	3,600 (34.6%)	3,855 (37.1%)	2,277 (21.9%)	442 (4.3%)	224 (2.2%)	4.0
	II Q8 シラバスの反映	3,195 (30.7%)	3,692 (35.5%)	2,982 (28.7%)	332 (3.2%)	193 (1.9%)	3.9
	II Q9 理解しやすさ	3,298 (31.7%)	3,651 (35.1%)	2,387 (23.0%)	653 (6.3%)	402 (3.9%)	3.8
	II Q10 適切な授業進行速度	3,316 (31.9%)	3,544 (34.1%)	2,588 (24.9%)	625 (6.0%)	317 (3.1%)	3.9
	II Q11 板書などの見やすさ	3,538 (34.0%)	3,216 (30.9%)	2,420 (23.3%)	751 (7.2%)	467 (4.5%)	3.8
	II Q12 教材の使い方	3,493 (33.6%)	3,329 (32.0%)	2,558 (24.6%)	652 (6.3%)	359 (3.5%)	3.9
	II Q13 学生参加の機会	2,759 (26.6%)	2,684 (25.8%)	3,052 (29.4%)	1,104 (10.6%)	790 (7.6%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	3,087 (29.7%)	3,263 (31.4%)	2,998 (28.9%)	698 (6.7%)	344 (3.3%)	3.8
	II Q15 教員の熱意	3,869 (37.3%)	3,562 (34.3%)	2,323 (22.4%)	396 (3.8%)	234 (2.3%)	4.0
	II Q16 飽きさせない工夫	2,860 (27.5%)	3,246 (31.2%)	3,068 (29.5%)	761 (7.3%)	456 (4.4%)	3.7
	II Q17 新しい自己発想	2,741 (26.4%)	3,434 (33.0%)	3,125 (30.1%)	702 (6.8%)	391 (3.8%)	3.7
	II Q18 授業への関心度合	3,111 (29.9%)	3,498 (33.7%)	2,753 (26.5%)	642 (6.2%)	388 (3.7%)	3.8
	II Q19 自分で考える姿勢	2,531 (24.4%)	3,309 (31.9%)	3,330 (32.1%)	752 (7.3%)	439 (4.2%)	3.7
	III Q20 満足度	3,178 (32.8%)	3,493 (36.1%)	2,193 (22.7%)	520 (5.4%)	298 (3.1%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



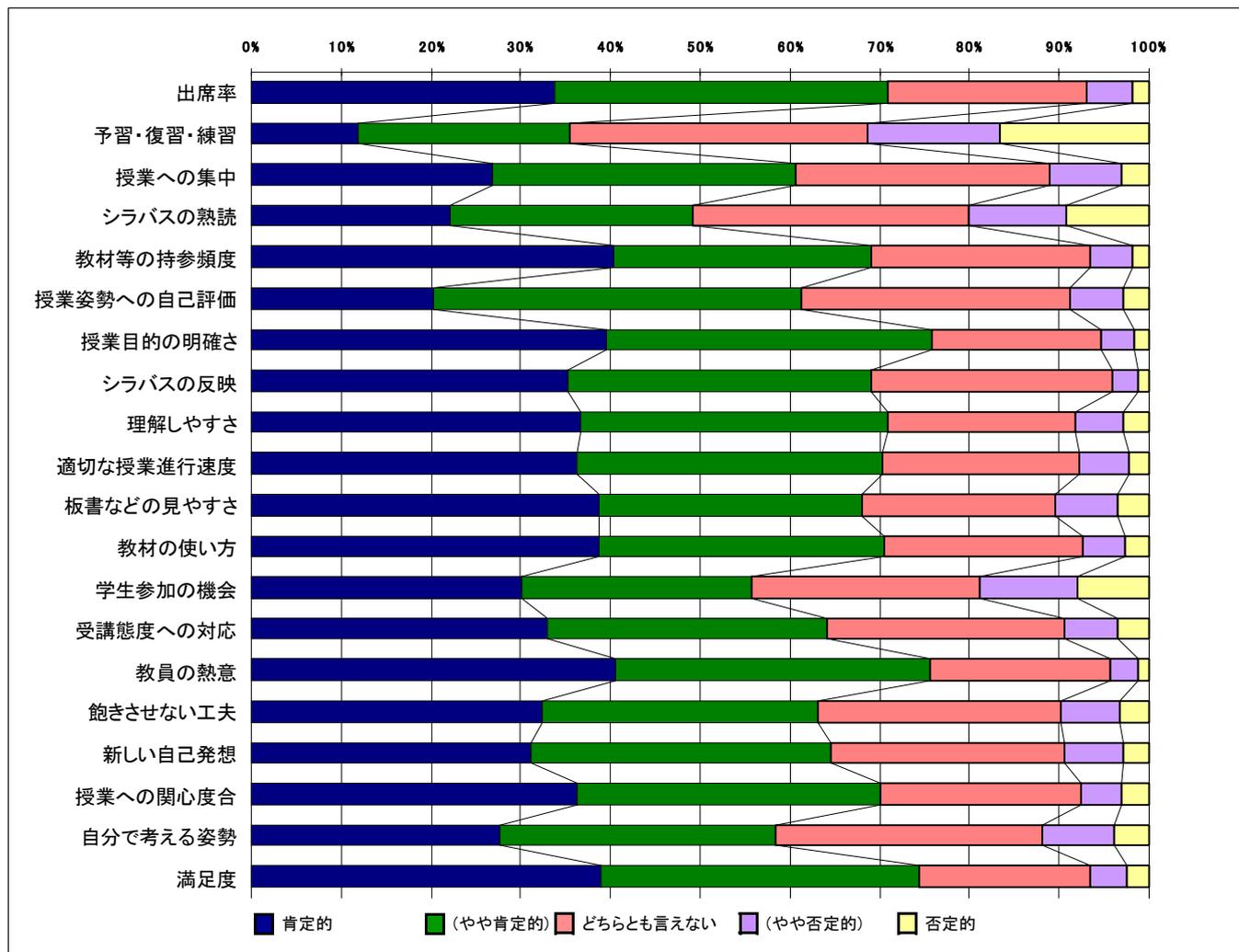
全学集計【項目別集計】

学年： 4年

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも 言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	I Q1 出席率	963 (33.8%)	1,058 (37.1%)	628 (22.0%)	146 (5.1%)	55 (1.9%)	4.0
	I Q2 予習・復習・練習	336 (11.8%)	676 (23.7%)	942 (33.1%)	420 (14.8%)	473 (16.6%)	3.0
	I Q3 授業への集中	767 (26.9%)	960 (33.7%)	803 (28.2%)	227 (8.0%)	90 (3.2%)	3.7
	I Q4 シラバスの熟読	627 (22.0%)	773 (27.2%)	873 (30.7%)	308 (10.8%)	264 (9.3%)	3.4
	I Q5 教材等の持参頻度	1,145 (40.3%)	821 (28.9%)	689 (24.2%)	133 (4.7%)	55 (1.9%)	4.0
	I Q6 授業姿勢への自己評価	577 (20.3%)	1,160 (40.9%)	850 (29.9%)	169 (6.0%)	83 (2.9%)	3.7
	II Q7 授業目的の明確さ	1,128 (39.6%)	1,031 (36.2%)	536 (18.8%)	106 (3.7%)	48 (1.7%)	4.1
	II Q8 シラバスの反映	1,001 (35.2%)	963 (33.8%)	766 (26.9%)	82 (2.9%)	33 (1.2%)	4.0
	II Q9 理解しやすさ	1,046 (36.7%)	977 (34.3%)	596 (20.9%)	153 (5.4%)	79 (2.8%)	4.0
	II Q10 適切な授業進行速度	1,031 (36.2%)	968 (34.0%)	627 (22.0%)	155 (5.4%)	66 (2.3%)	4.0
	II Q11 板書などの見やすさ	1,101 (38.7%)	833 (29.3%)	615 (21.6%)	194 (6.8%)	102 (3.6%)	3.9
	II Q12 教材の使い方	1,104 (38.8%)	904 (31.8%)	628 (22.1%)	134 (4.7%)	76 (2.7%)	4.0
	II Q13 学生参加の機会	860 (30.2%)	727 (25.5%)	726 (25.5%)	309 (10.8%)	226 (7.9%)	3.6
	II Q14 受講態度への対応	937 (32.9%)	888 (31.2%)	756 (26.5%)	166 (5.8%)	101 (3.5%)	3.8
	II Q15 教員の熱意	1,154 (40.5%)	1,000 (35.1%)	574 (20.2%)	84 (2.9%)	36 (1.3%)	4.1
	II Q16 飽きさせない工夫	923 (32.4%)	878 (30.8%)	766 (26.9%)	186 (6.5%)	96 (3.4%)	3.8
	II Q17 新しい自己発想	884 (31.1%)	950 (33.4%)	743 (26.1%)	184 (6.5%)	83 (2.9%)	3.8
	II Q18 授業への関心度合	1,031 (36.2%)	965 (33.9%)	636 (22.3%)	132 (4.6%)	85 (3.0%)	4.0
	II Q19 自分で考える姿勢	785 (27.6%)	876 (30.8%)	844 (29.7%)	225 (7.9%)	110 (3.9%)	3.7
	III Q20 満足度	1,040 (38.9%)	952 (35.6%)	506 (18.9%)	113 (4.2%)	65 (2.4%)	4.0

<評価帯グラフ>

2016年度





C.項目別集計  
(学部別集計)



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

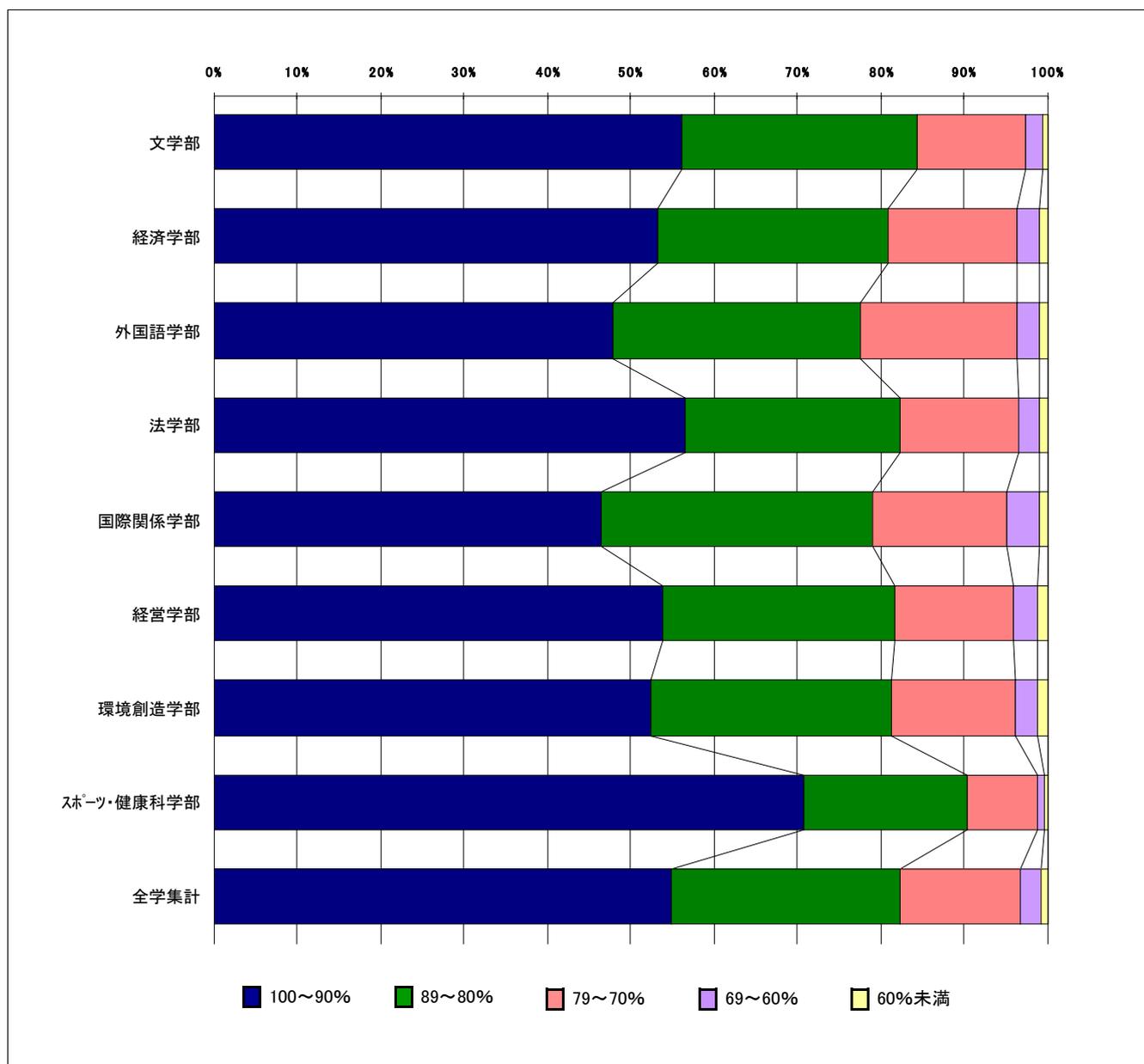
I Q1 この授業への出席率はどのくらいですか。

(人)

実施年度	項目	100～90%	89～80%	79～70%	69～60%	60%未満	平均
2016年度	文学部	5,665 (56.1%)	2,854 (28.3%)	1,315 (13.0%)	215 (2.1%)	53 (0.5%)	4.4
	経済学部	2,587 (53.3%)	1,336 (27.5%)	756 (15.6%)	122 (2.5%)	55 (1.1%)	4.3
	外国語学部	3,061 (47.9%)	1,896 (29.7%)	1,199 (18.8%)	176 (2.8%)	60 (0.9%)	4.2
	法学部	3,192 (56.5%)	1,458 (25.8%)	801 (14.2%)	142 (2.5%)	61 (1.1%)	4.3
	国際関係学部	1,231 (46.4%)	860 (32.4%)	429 (16.2%)	102 (3.8%)	29 (1.1%)	4.2
	経営学部	2,659 (53.7%)	1,379 (27.9%)	707 (14.3%)	139 (2.8%)	64 (1.3%)	4.3
	環境創造学部	1,251 (52.4%)	687 (28.8%)	355 (14.9%)	67 (2.8%)	28 (1.2%)	4.3
	スポーツ・健康科学部	2,939 (70.8%)	810 (19.5%)	347 (8.4%)	38 (0.9%)	16 (0.4%)	4.6
	全学集計	22,585 (54.9%)	11,280 (27.4%)	5,909 (14.4%)	1,001 (2.4%)	366 (0.9%)	4.3

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

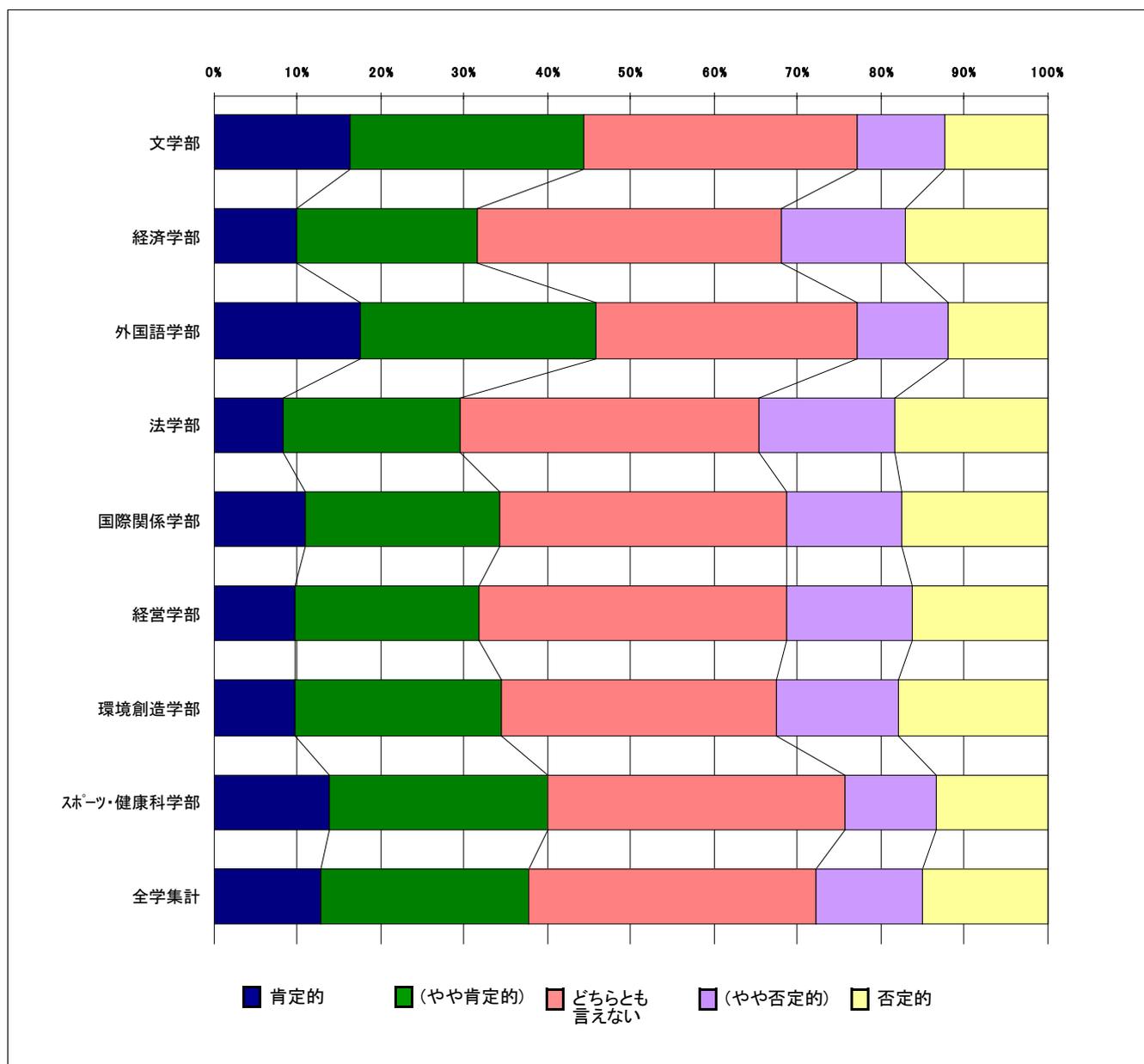
I Q2 この授業に関する予習・復習・練習などを行いましたか。

(人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	1,642 (16.3%)	2,838 (28.1%)	3,318 (32.8%)	1,045 (10.3%)	1,258 (12.5%)	3.3
	経済学部	484 (10.0%)	1,047 (21.6%)	1,777 (36.6%)	718 (14.8%)	831 (17.1%)	2.9
	外国語学部	1,118 (17.5%)	1,800 (28.2%)	2,011 (31.5%)	693 (10.9%)	765 (12.0%)	3.3
	法学部	471 (8.3%)	1,190 (21.1%)	2,029 (35.9%)	921 (16.3%)	1,042 (18.4%)	2.8
	国際関係学部	290 (11.0%)	613 (23.2%)	915 (34.6%)	363 (13.7%)	464 (17.5%)	3.0
	経営学部	481 (9.7%)	1,088 (22.0%)	1,825 (36.9%)	749 (15.1%)	806 (16.3%)	2.9
	環境創造学部	232 (9.7%)	590 (24.7%)	787 (32.9%)	353 (14.8%)	427 (17.9%)	2.9
	スポーツ・健康科学部	574 (13.8%)	1,084 (26.1%)	1,485 (35.8%)	451 (10.9%)	556 (13.4%)	3.2
	全学集計	5,292 (12.9%)	10,250 (24.9%)	14,147 (34.4%)	5,293 (12.9%)	6,149 (14.9%)	3.1

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

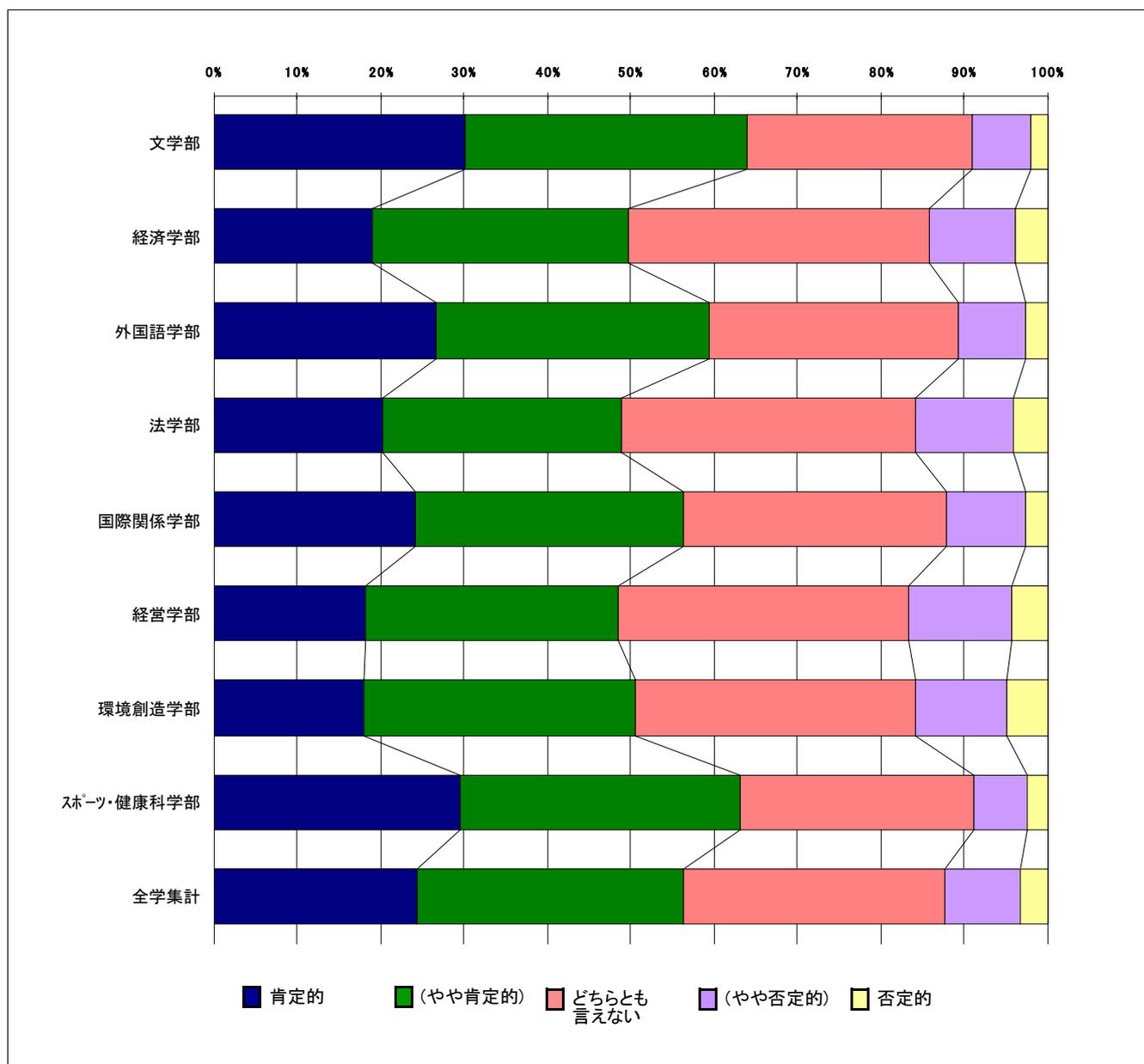
I Q3 あなたは授業に集中しましたか。

(人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	3,037 (30.1%)	3,428 (33.9%)	2,720 (26.9%)	708 (7.0%)	206 (2.0%)	3.8
	経済学部	923 (19.0%)	1,489 (30.7%)	1,756 (36.2%)	494 (10.2%)	193 (4.0%)	3.5
	外国語学部	1,696 (26.5%)	2,098 (32.8%)	1,905 (29.8%)	524 (8.2%)	167 (2.6%)	3.7
	法学部	1,139 (20.2%)	1,621 (28.7%)	1,991 (35.3%)	657 (11.6%)	238 (4.2%)	3.5
	国際関係学部	638 (24.1%)	852 (32.2%)	833 (31.5%)	252 (9.5%)	72 (2.7%)	3.7
	経営学部	893 (18.1%)	1,501 (30.3%)	1,730 (35.0%)	605 (12.2%)	217 (4.4%)	3.5
	環境創造学部	426 (17.8%)	779 (32.6%)	801 (33.6%)	263 (11.0%)	118 (4.9%)	3.5
	スポーツ・健康科学部	1,220 (29.4%)	1,401 (33.8%)	1,158 (27.9%)	267 (6.4%)	105 (2.5%)	3.8
	全学集計	9,972 (24.3%)	13,169 (32.0%)	12,894 (31.4%)	3,770 (9.2%)	1,316 (3.2%)	3.6

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

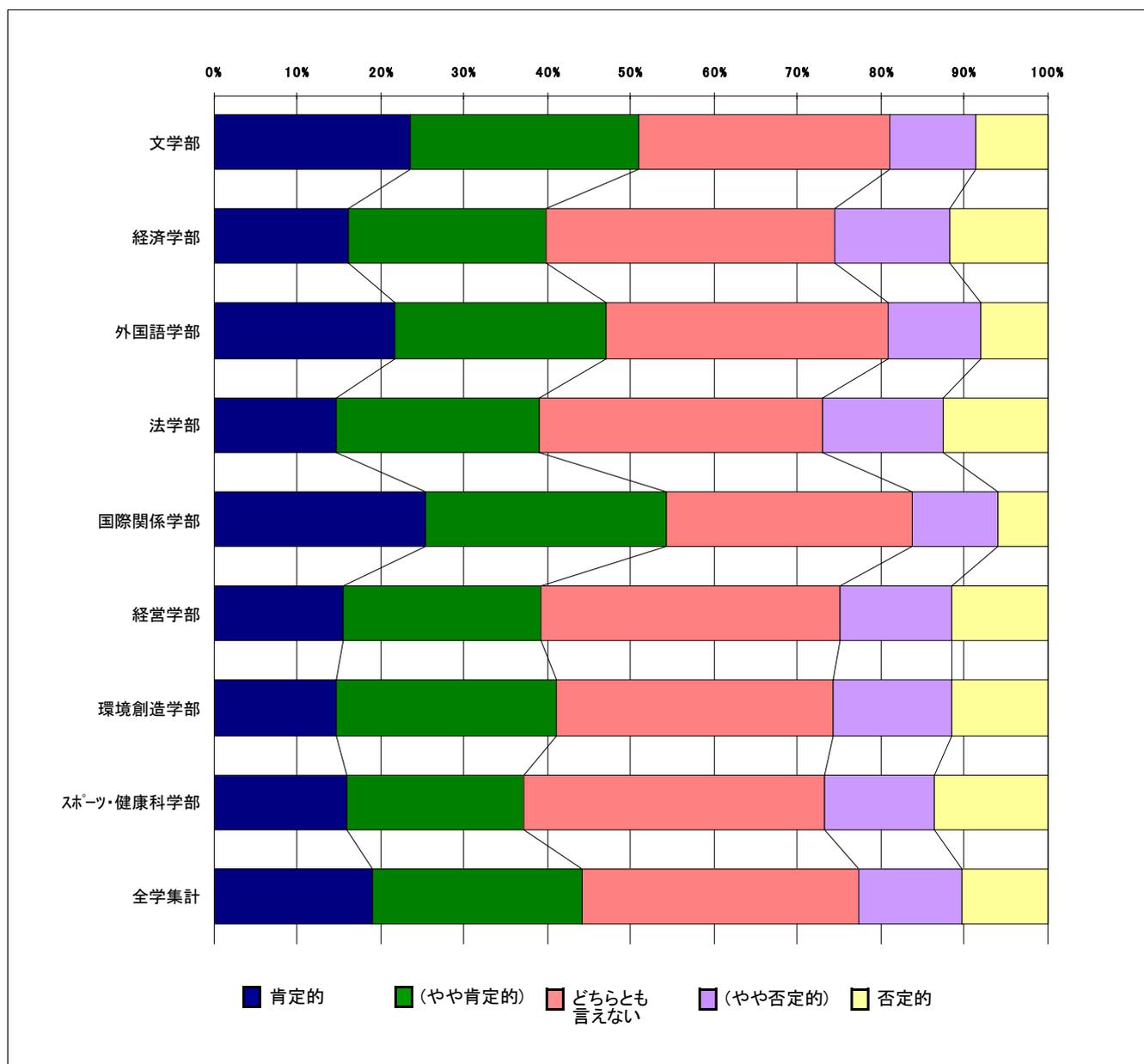
I Q4 この授業のシラバスをしっかりと読みましたか。

(人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	2,366 (23.4%)	2,780 (27.5%)	3,037 (30.1%)	1,035 (10.2%)	880 (8.7%)	3.5
	経済学部	783 (16.1%)	1,146 (23.6%)	1,686 (34.7%)	665 (13.7%)	572 (11.8%)	3.2
	外国語学部	1,381 (21.6%)	1,628 (25.5%)	2,150 (33.7%)	710 (11.1%)	519 (8.1%)	3.4
	法学部	822 (14.6%)	1,374 (24.3%)	1,918 (34.0%)	824 (14.6%)	706 (12.5%)	3.1
	国際関係学部	671 (25.4%)	761 (28.8%)	781 (29.5%)	271 (10.2%)	160 (6.1%)	3.6
	経営学部	762 (15.4%)	1,172 (23.7%)	1,772 (35.8%)	672 (13.6%)	566 (11.4%)	3.2
	環境創造学部	348 (14.6%)	633 (26.5%)	789 (33.1%)	340 (14.2%)	277 (11.6%)	3.2
	スポーツ・健康科学部	661 (15.9%)	879 (21.2%)	1,497 (36.1%)	548 (13.2%)	564 (13.6%)	3.1
	全学集計	7,794 (19.0%)	10,373 (25.2%)	13,630 (33.2%)	5,065 (12.3%)	4,244 (10.3%)	3.3

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

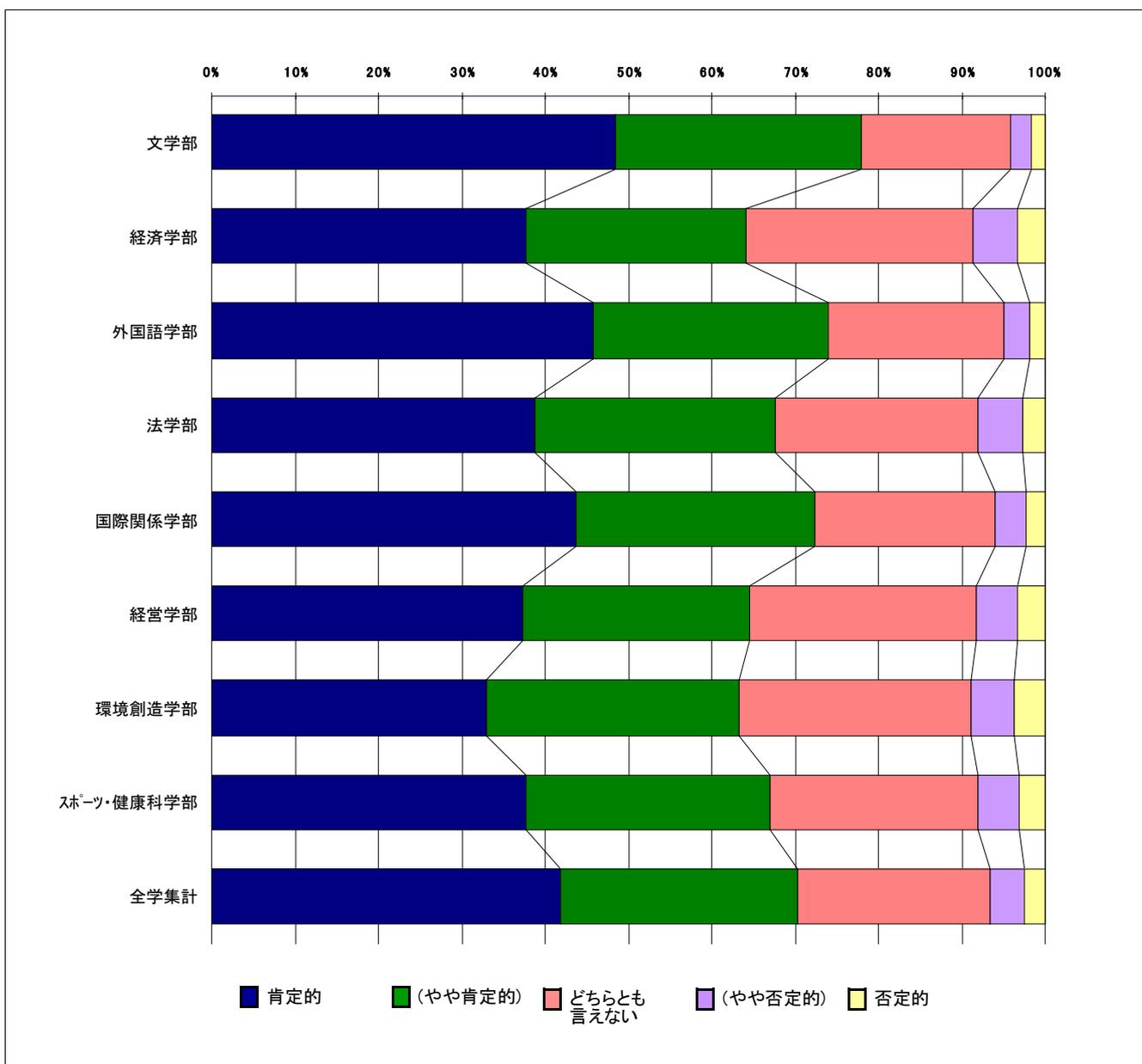
学年： 全学年

I Q5 シラバスにあらかじめ記載されている物、または授業中に持参するように指示された教材を、忘れずに持参することができましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,897 (48.5%)	2,955 (29.3%)	1,811 (18.0%)	268 (2.7%)	157 (1.6%)	4.2
	経済学部	1,828 (37.7%)	1,279 (26.4%)	1,318 (27.2%)	266 (5.5%)	157 (3.2%)	3.9
	外国語学部	2,927 (45.9%)	1,796 (28.1%)	1,348 (21.1%)	190 (3.0%)	122 (1.9%)	4.1
	法学部	2,183 (38.7%)	1,631 (28.9%)	1,378 (24.4%)	297 (5.3%)	152 (2.7%)	4.0
	国際関係学部	1,154 (43.7%)	757 (28.6%)	572 (21.6%)	100 (3.8%)	60 (2.3%)	4.1
	経営学部	1,848 (37.4%)	1,339 (27.1%)	1,350 (27.3%)	250 (5.1%)	159 (3.2%)	3.9
	環境創造学部	787 (33.0%)	723 (30.3%)	666 (27.9%)	122 (5.1%)	88 (3.7%)	3.8
	スポーツ・健康科学部	1,564 (37.7%)	1,211 (29.2%)	1,037 (25.0%)	205 (4.9%)	129 (3.1%)	3.9
	全学集計	17,188 (41.8%)	11,691 (28.5%)	9,480 (23.1%)	1,698 (4.1%)	1,024 (2.5%)	4.0

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

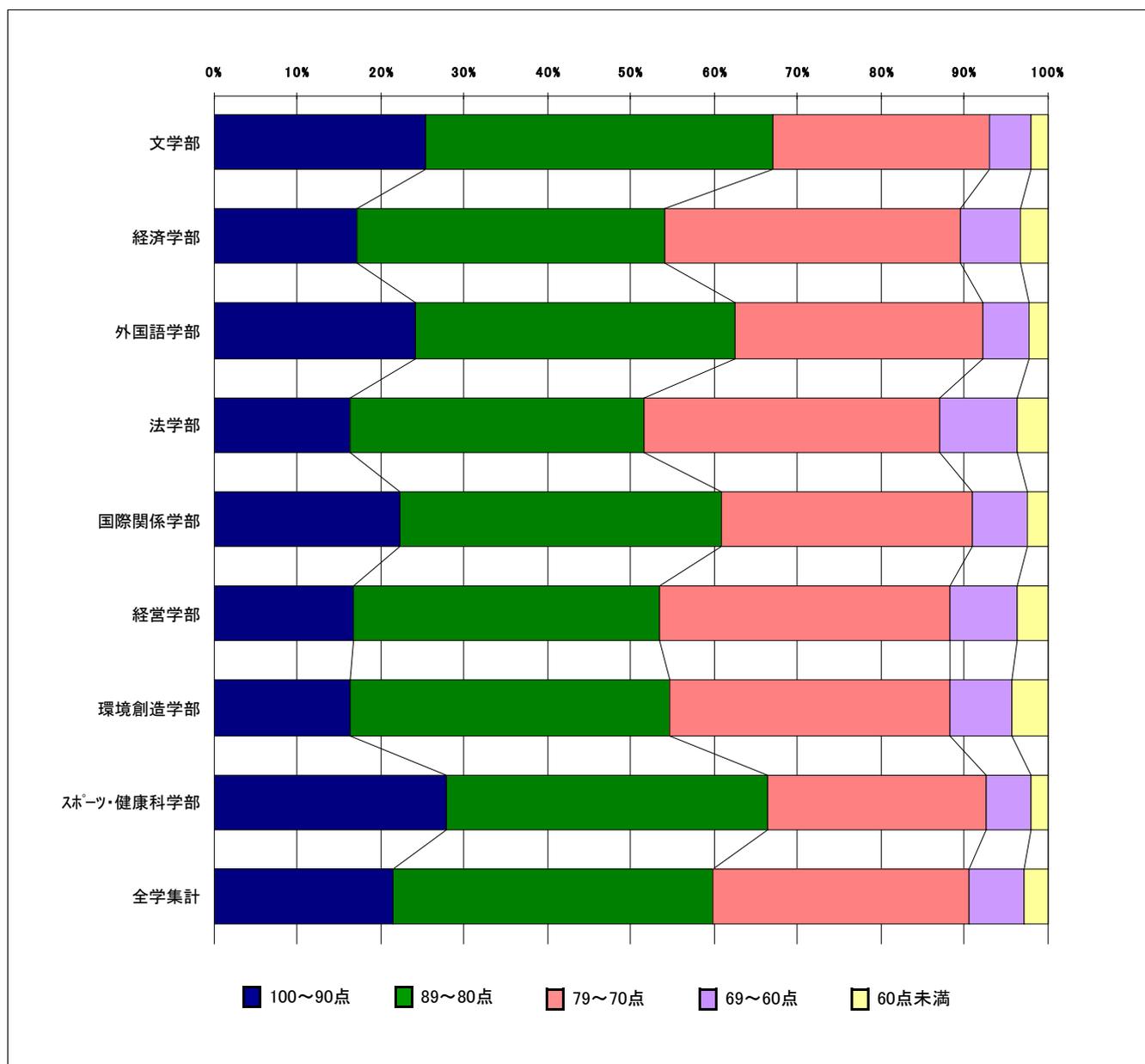
学年： 全学年

I Q6 あなた自身が授業へ真剣に臨む姿勢について、自己評価するなら何点ですか。 (人)

実施年度	項目	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	60点未満	平均
2016年度	文学部	2,555 (25.3%)	4,194 (41.6%)	2,615 (25.9%)	519 (5.1%)	198 (2.0%)	3.8
	経済学部	829 (17.1%)	1,792 (37.0%)	1,719 (35.5%)	350 (7.2%)	155 (3.2%)	3.6
	外国語学部	1,533 (24.1%)	2,449 (38.5%)	1,890 (29.7%)	345 (5.4%)	150 (2.4%)	3.8
	法学部	914 (16.2%)	1,988 (35.3%)	1,990 (35.4%)	520 (9.2%)	213 (3.8%)	3.5
	国際関係学部	589 (22.3%)	1,019 (38.6%)	795 (30.1%)	174 (6.6%)	66 (2.5%)	3.7
	経営学部	830 (16.8%)	1,810 (36.6%)	1,716 (34.7%)	399 (8.1%)	186 (3.8%)	3.5
	環境創造学部	387 (16.3%)	911 (38.3%)	804 (33.8%)	177 (7.4%)	101 (4.2%)	3.5
	スポーツ・健康科学部	1,150 (27.8%)	1,597 (38.6%)	1,079 (26.1%)	220 (5.3%)	89 (2.2%)	3.8
	全学集計	8,787 (21.4%)	15,760 (38.4%)	12,608 (30.7%)	2,704 (6.6%)	1,158 (2.8%)	3.7

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

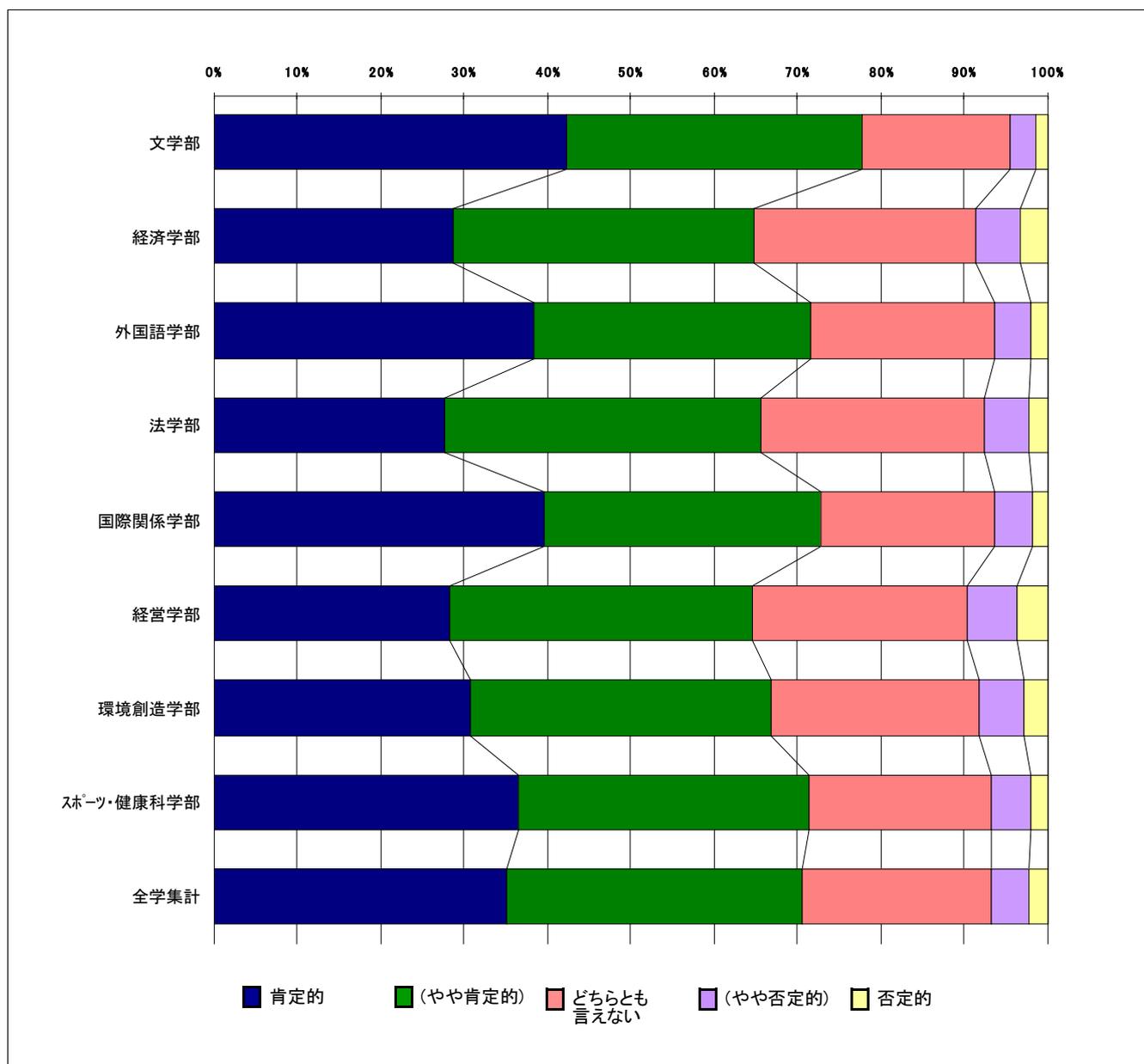
II Q7 この授業の目的やねらいは明確でしたか。

(人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,277 (42.3%)	3,585 (35.5%)	1,787 (17.7%)	312 (3.1%)	140 (1.4%)	4.1
	経済学部	1,391 (28.6%)	1,754 (36.1%)	1,289 (26.5%)	258 (5.3%)	164 (3.4%)	3.8
	外国語学部	2,457 (38.4%)	2,116 (33.1%)	1,411 (22.1%)	277 (4.3%)	133 (2.1%)	4.0
	法学部	1,566 (27.7%)	2,138 (37.9%)	1,508 (26.7%)	309 (5.5%)	127 (2.2%)	3.8
	国際関係学部	1,047 (39.5%)	885 (33.4%)	550 (20.7%)	118 (4.5%)	51 (1.9%)	4.0
	経営学部	1,399 (28.3%)	1,792 (36.2%)	1,279 (25.9%)	296 (6.0%)	180 (3.6%)	3.8
	環境創造学部	733 (30.7%)	860 (36.0%)	598 (25.1%)	128 (5.4%)	68 (2.8%)	3.9
	スポーツ・健康科学部	1,515 (36.5%)	1,451 (34.9%)	909 (21.9%)	192 (4.6%)	87 (2.1%)	4.0
	全学集計	14,385 (35.0%)	14,581 (35.4%)	9,331 (22.7%)	1,890 (4.6%)	950 (2.3%)	4.0

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

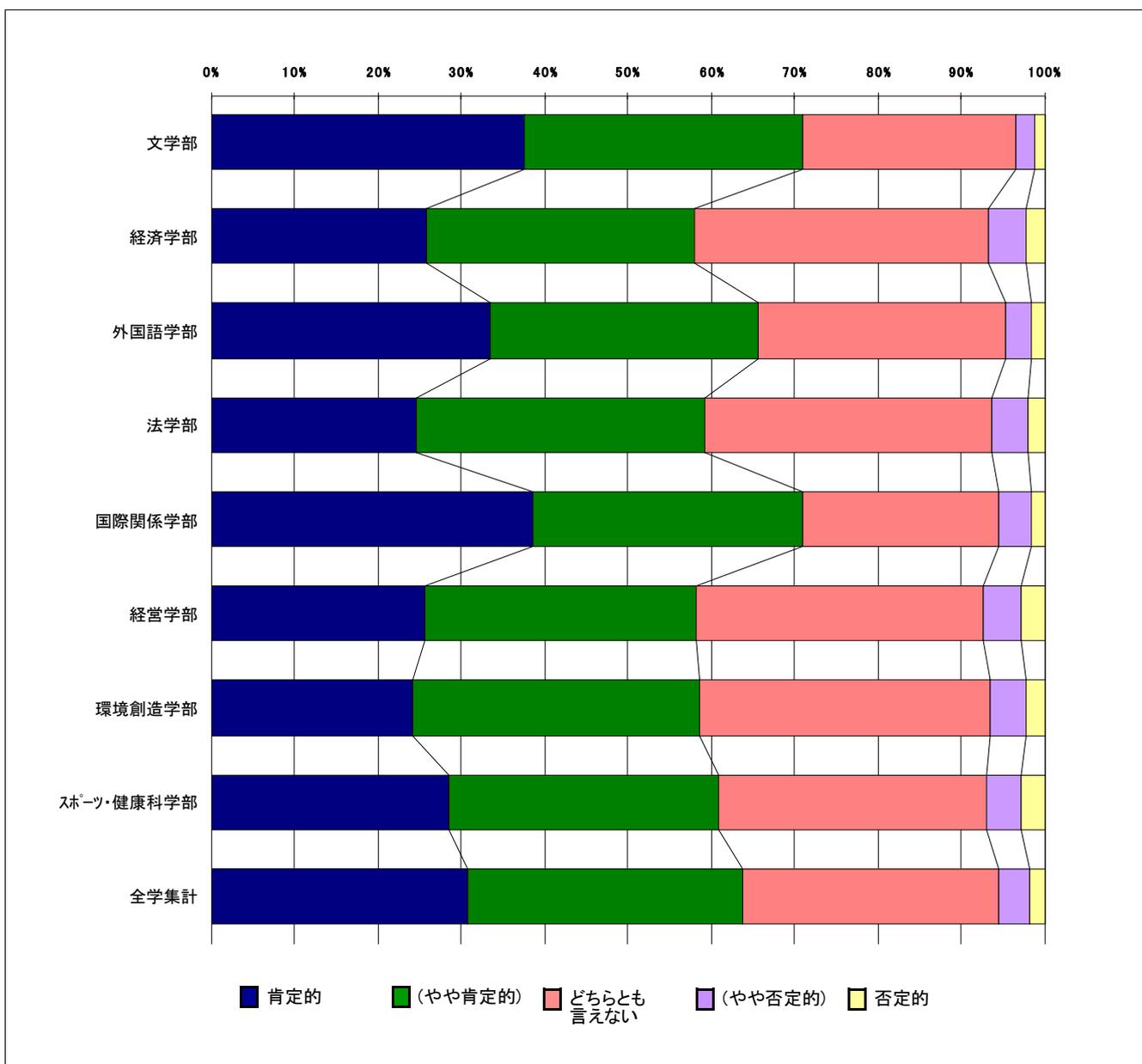
学年： 全学年

II Q8 教員はシラバスを授業に反映させていましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	3,799 (37.6%)	3,367 (33.3%)	2,580 (25.6%)	230 (2.3%)	121 (1.2%)	4.0
	経済学部	1,247 (25.7%)	1,569 (32.3%)	1,714 (35.3%)	219 (4.5%)	108 (2.2%)	3.7
	外国語学部	2,135 (33.4%)	2,056 (32.2%)	1,884 (29.5%)	208 (3.3%)	100 (1.6%)	3.9
	法学部	1,386 (24.6%)	1,954 (34.6%)	1,945 (34.5%)	243 (4.3%)	117 (2.1%)	3.8
	国際関係学部	1,019 (38.5%)	855 (32.3%)	625 (23.6%)	102 (3.9%)	43 (1.6%)	4.0
	経営学部	1,263 (25.5%)	1,612 (32.6%)	1,708 (34.5%)	228 (4.6%)	140 (2.8%)	3.7
	環境創造学部	575 (24.1%)	821 (34.4%)	834 (35.0%)	102 (4.3%)	54 (2.3%)	3.7
	スポーツ・健康科学部	1,178 (28.4%)	1,341 (32.3%)	1,341 (32.3%)	171 (4.1%)	116 (2.8%)	3.8
	全学集計	12,602 (30.7%)	13,575 (33.0%)	12,631 (30.7%)	1,503 (3.7%)	799 (1.9%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

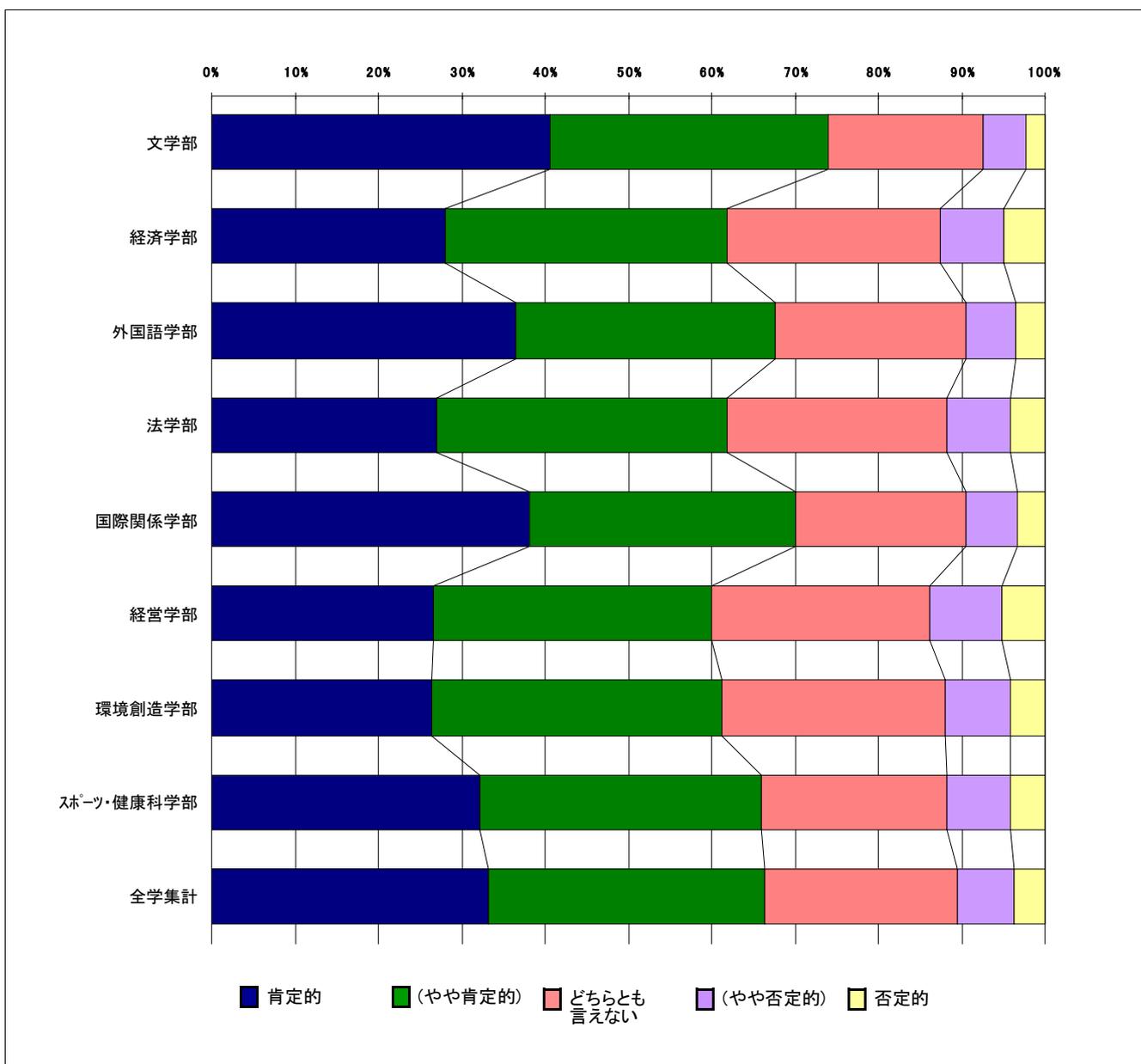
II Q9 授業内容は理解しやすかったですか。

(人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,103 (40.6%)	3,366 (33.3%)	1,875 (18.6%)	519 (5.1%)	238 (2.4%)	4.0
	経済学部	1,362 (28.1%)	1,640 (33.8%)	1,242 (25.6%)	363 (7.5%)	244 (5.0%)	3.7
	外国語学部	2,328 (36.4%)	1,998 (31.3%)	1,450 (22.7%)	387 (6.1%)	224 (3.5%)	3.9
	法学部	1,527 (27.0%)	1,967 (34.8%)	1,493 (26.4%)	429 (7.6%)	237 (4.2%)	3.7
	国際関係学部	1,010 (38.1%)	847 (32.0%)	544 (20.5%)	160 (6.0%)	90 (3.4%)	4.0
	経営学部	1,312 (26.5%)	1,659 (33.5%)	1,292 (26.1%)	423 (8.6%)	260 (5.3%)	3.7
	環境創造学部	630 (26.4%)	831 (34.8%)	641 (26.9%)	186 (7.8%)	97 (4.1%)	3.7
	スポーツ・健康科学部	1,338 (32.2%)	1,398 (33.7%)	926 (22.3%)	321 (7.7%)	169 (4.1%)	3.8
	全学集計	13,610 (33.1%)	13,706 (33.3%)	9,463 (23.0%)	2,788 (6.8%)	1,559 (3.8%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

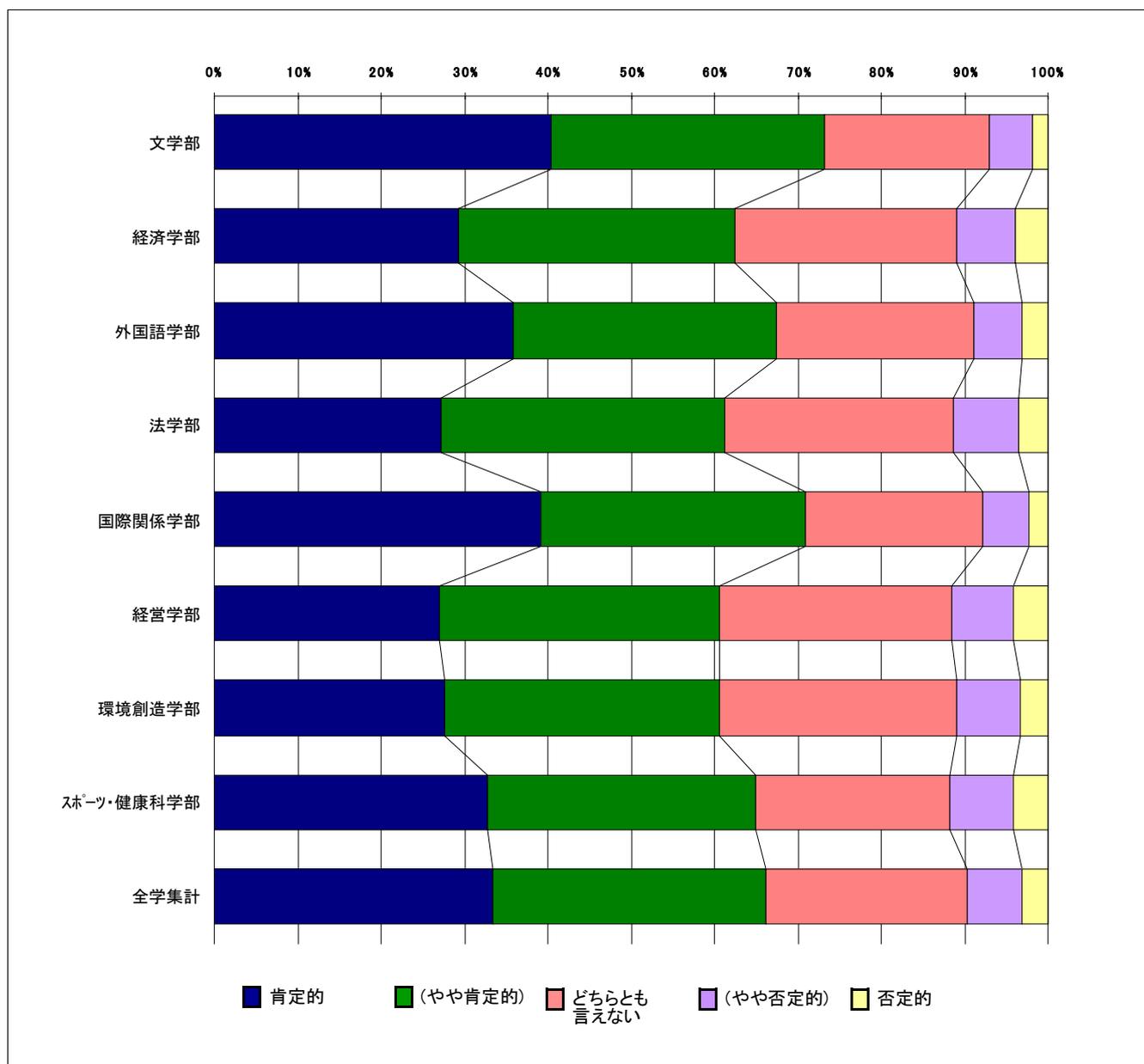
II Q10 授業進行の速度はちょうどよかったですか。

(人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,086 (40.5%)	3,306 (32.7%)	1,993 (19.7%)	513 (5.1%)	197 (2.0%)	4.0
	経済学部	1,424 (29.3%)	1,606 (33.1%)	1,293 (26.6%)	344 (7.1%)	190 (3.9%)	3.8
	外国語学部	2,290 (35.8%)	2,024 (31.7%)	1,518 (23.7%)	364 (5.7%)	198 (3.1%)	3.9
	法学部	1,540 (27.3%)	1,919 (34.0%)	1,547 (27.4%)	449 (7.9%)	195 (3.5%)	3.7
	国際関係学部	1,035 (39.1%)	841 (31.8%)	566 (21.4%)	146 (5.5%)	59 (2.2%)	4.0
	経営学部	1,336 (27.0%)	1,663 (33.6%)	1,376 (27.8%)	363 (7.3%)	207 (4.2%)	3.7
	環境創造学部	658 (27.6%)	785 (32.9%)	678 (28.5%)	181 (7.6%)	81 (3.4%)	3.7
	スポーツ・健康科学部	1,358 (32.8%)	1,334 (32.2%)	965 (23.3%)	322 (7.8%)	167 (4.0%)	3.8
	全学集計	13,727 (33.4%)	13,478 (32.8%)	9,936 (24.2%)	2,682 (6.5%)	1,294 (3.1%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

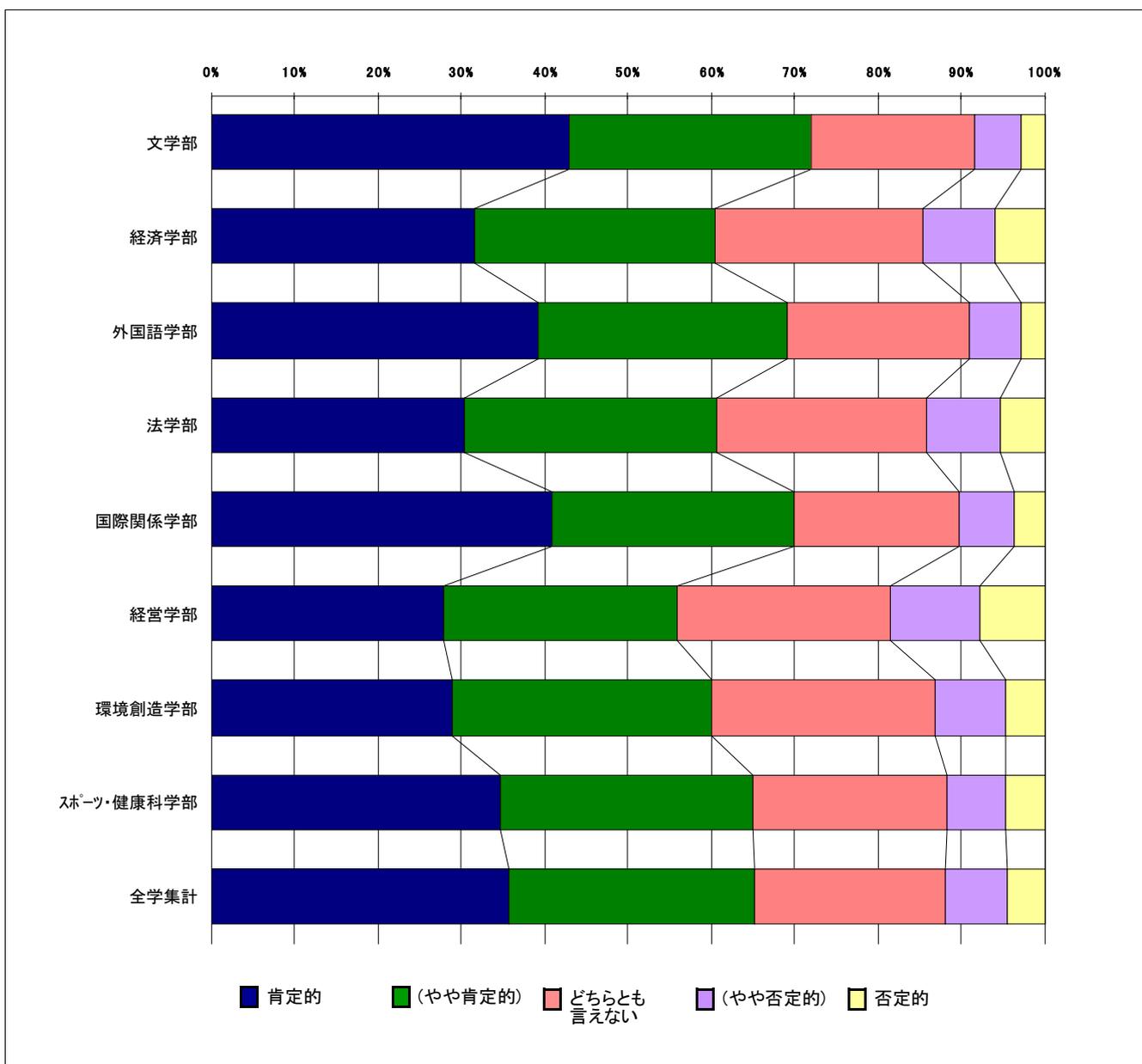
学年： 全学年

II Q11 板書の文字やスクリーンの画面は見やすかったですか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,321 (42.8%)	2,936 (29.1%)	1,977 (19.6%)	572 (5.7%)	290 (2.9%)	4.0
	経済学部	1,533 (31.6%)	1,404 (28.9%)	1,214 (25.0%)	417 (8.6%)	290 (6.0%)	3.7
	外国語学部	2,507 (39.2%)	1,902 (29.8%)	1,395 (21.8%)	405 (6.3%)	181 (2.8%)	4.0
	法学部	1,707 (30.2%)	1,712 (30.3%)	1,426 (25.3%)	499 (8.8%)	303 (5.4%)	3.7
	国際関係学部	1,081 (40.8%)	767 (29.0%)	527 (19.9%)	176 (6.6%)	96 (3.6%)	4.0
	経営学部	1,376 (27.8%)	1,386 (28.0%)	1,274 (25.7%)	528 (10.7%)	386 (7.8%)	3.6
	環境創造学部	687 (28.8%)	745 (31.3%)	636 (26.7%)	203 (8.5%)	112 (4.7%)	3.7
	スポーツ・健康科学部	1,438 (34.7%)	1,256 (30.3%)	961 (23.2%)	297 (7.2%)	194 (4.7%)	3.8
	全学集計	14,650 (35.6%)	12,108 (29.4%)	9,410 (22.9%)	3,097 (7.5%)	1,852 (4.5%)	3.8

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

学年： 全学年

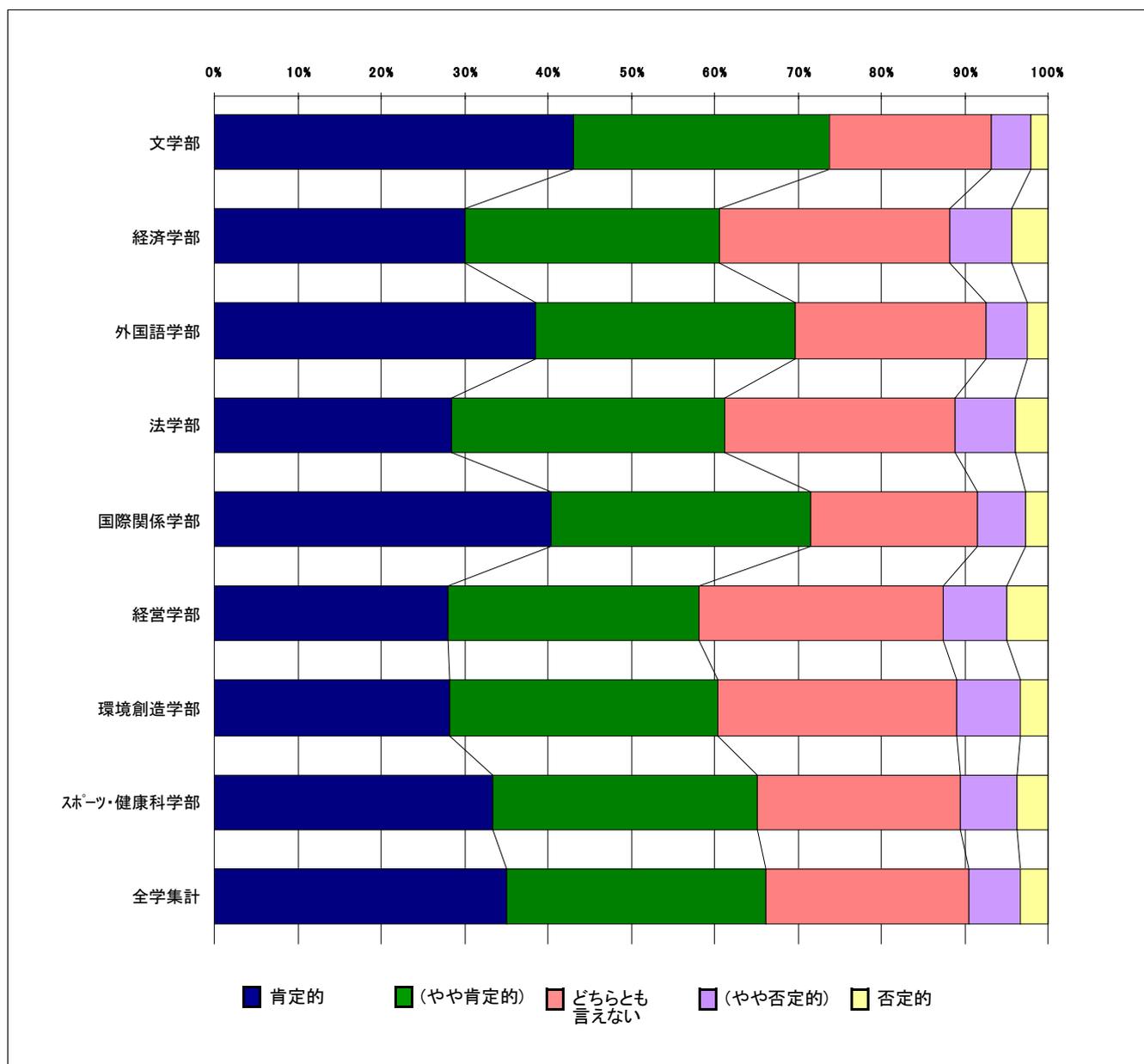
II Q12 教員の教材は分かりやすかったですか。

(人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,357 (43.1%)	3,091 (30.6%)	1,968 (19.5%)	471 (4.7%)	211 (2.1%)	4.1
	経済学部	1,460 (30.1%)	1,476 (30.5%)	1,339 (27.6%)	359 (7.4%)	211 (4.4%)	3.7
	外国語学部	2,467 (38.6%)	1,992 (31.2%)	1,457 (22.8%)	320 (5.0%)	155 (2.4%)	4.0
	法学部	1,604 (28.4%)	1,851 (32.8%)	1,570 (27.8%)	403 (7.1%)	223 (3.9%)	3.7
	国際関係学部	1,067 (40.3%)	829 (31.3%)	526 (19.9%)	153 (5.8%)	72 (2.7%)	4.0
	経営学部	1,387 (28.0%)	1,490 (30.1%)	1,446 (29.2%)	384 (7.8%)	242 (4.9%)	3.7
	環境創造学部	675 (28.3%)	763 (32.0%)	684 (28.7%)	181 (7.6%)	80 (3.4%)	3.7
	スポーツ・健康科学部	1,386 (33.4%)	1,313 (31.7%)	1,015 (24.5%)	278 (6.7%)	156 (3.8%)	3.8
	全学集計	14,403 (35.0%)	12,805 (31.1%)	10,005 (24.3%)	2,549 (6.2%)	1,350 (3.3%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

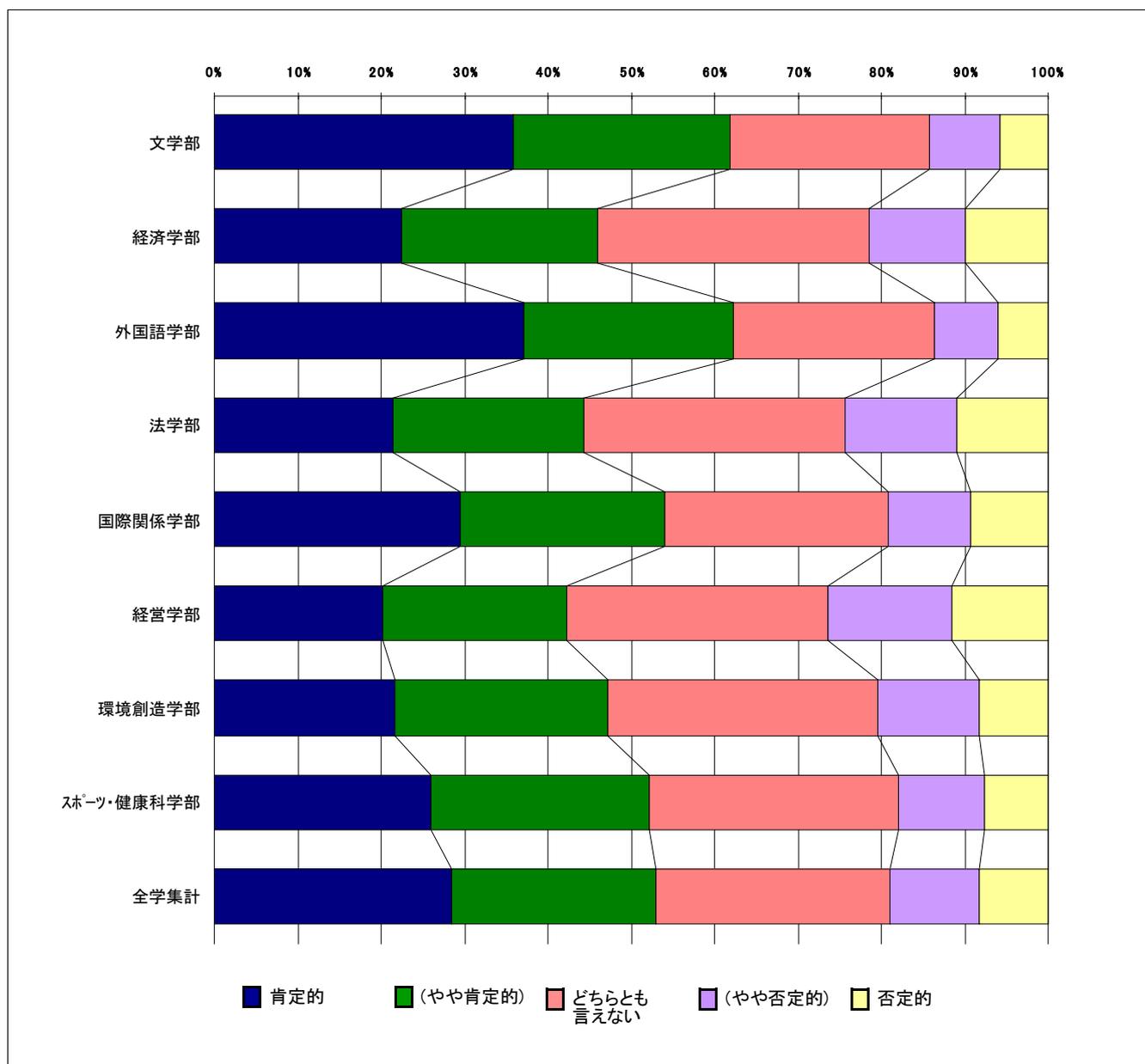
学年： 全学年

II Q13 質問、発言など、学生の積極的な参加の機会がありましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	3,622 (35.9%)	2,618 (25.9%)	2,411 (23.9%)	849 (8.4%)	591 (5.9%)	3.8
	経済学部	1,086 (22.4%)	1,144 (23.6%)	1,576 (32.5%)	566 (11.7%)	477 (9.8%)	3.4
	外国語学部	2,378 (37.2%)	1,599 (25.0%)	1,540 (24.1%)	492 (7.7%)	382 (6.0%)	3.8
	法学部	1,214 (21.5%)	1,296 (22.9%)	1,767 (31.3%)	760 (13.5%)	613 (10.8%)	3.3
	国際関係学部	779 (29.4%)	654 (24.7%)	705 (26.6%)	263 (9.9%)	247 (9.3%)	3.5
	経営学部	1,001 (20.2%)	1,095 (22.1%)	1,542 (31.2%)	741 (15.0%)	569 (11.5%)	3.2
	環境創造学部	517 (21.7%)	608 (25.5%)	771 (32.4%)	290 (12.2%)	195 (8.2%)	3.4
	スポーツ・健康科学部	1,079 (26.0%)	1,084 (26.1%)	1,241 (29.9%)	432 (10.4%)	314 (7.6%)	3.5
	全学集計	11,676 (28.4%)	10,098 (24.6%)	11,553 (28.1%)	4,393 (10.7%)	3,388 (8.2%)	3.5

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

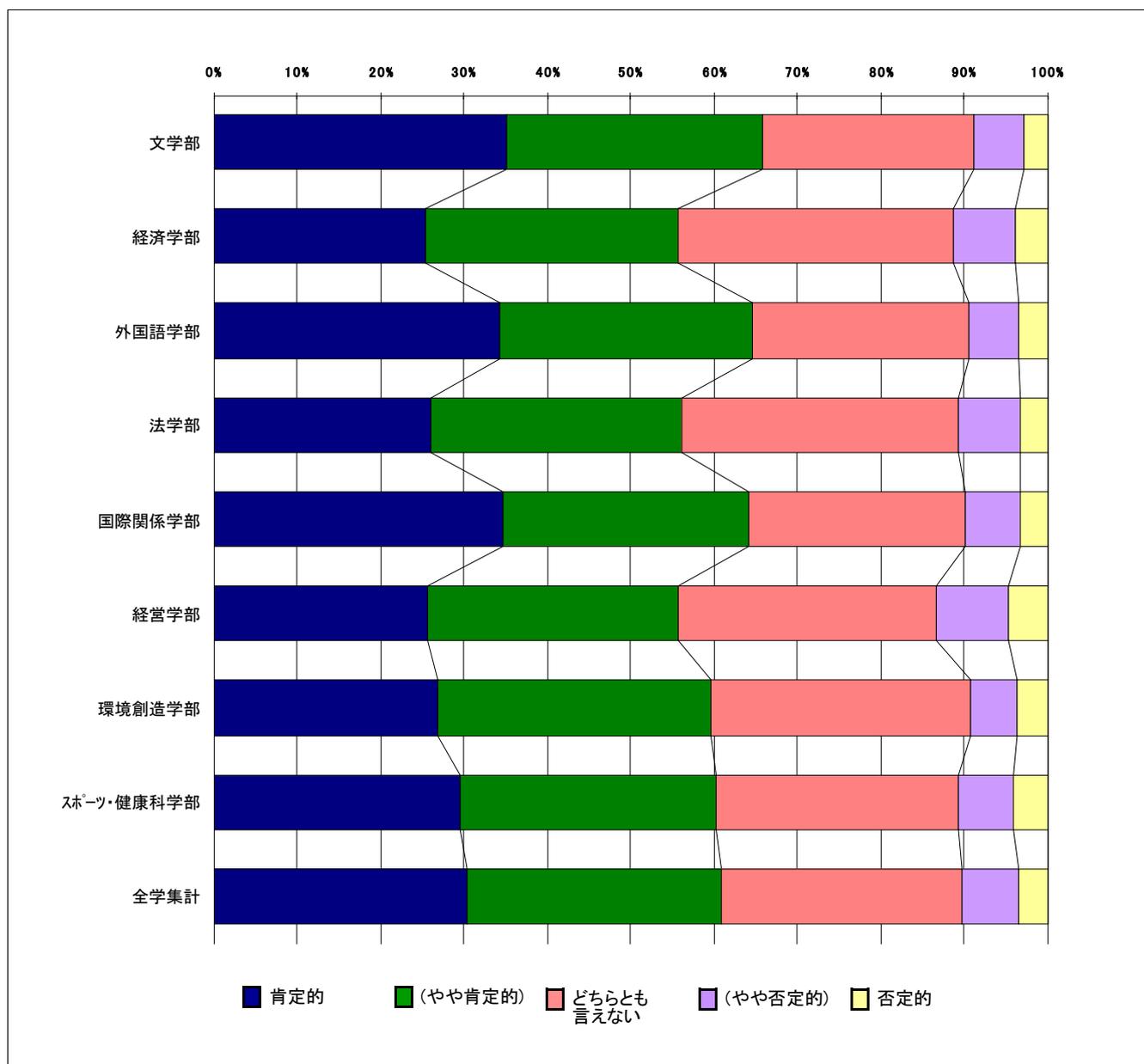
学年： 全学年

II Q14 学生の私語や悪い受講態度をなくす工夫を、教員はしていましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	3,548 (35.1%)	3,090 (30.6%)	2,563 (25.4%)	601 (6.0%)	294 (2.9%)	3.9
	経済学部	1,234 (25.4%)	1,472 (30.3%)	1,600 (33.0%)	359 (7.4%)	188 (3.9%)	3.7
	外国語学部	2,188 (34.3%)	1,934 (30.3%)	1,657 (26.0%)	385 (6.0%)	221 (3.5%)	3.9
	法学部	1,465 (25.9%)	1,706 (30.2%)	1,875 (33.2%)	416 (7.4%)	189 (3.3%)	3.7
	国際関係学部	913 (34.6%)	781 (29.6%)	688 (26.0%)	172 (6.5%)	88 (3.3%)	3.9
	経営学部	1,268 (25.6%)	1,482 (30.0%)	1,532 (31.0%)	429 (8.7%)	235 (4.8%)	3.6
	環境創造学部	639 (26.8%)	781 (32.8%)	737 (31.0%)	133 (5.6%)	90 (3.8%)	3.7
	スポーツ・健康科学部	1,226 (29.5%)	1,273 (30.7%)	1,204 (29.0%)	277 (6.7%)	171 (4.1%)	3.7
	全学集計	12,481 (30.4%)	12,519 (30.5%)	11,856 (28.8%)	2,772 (6.7%)	1,476 (3.6%)	3.8

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

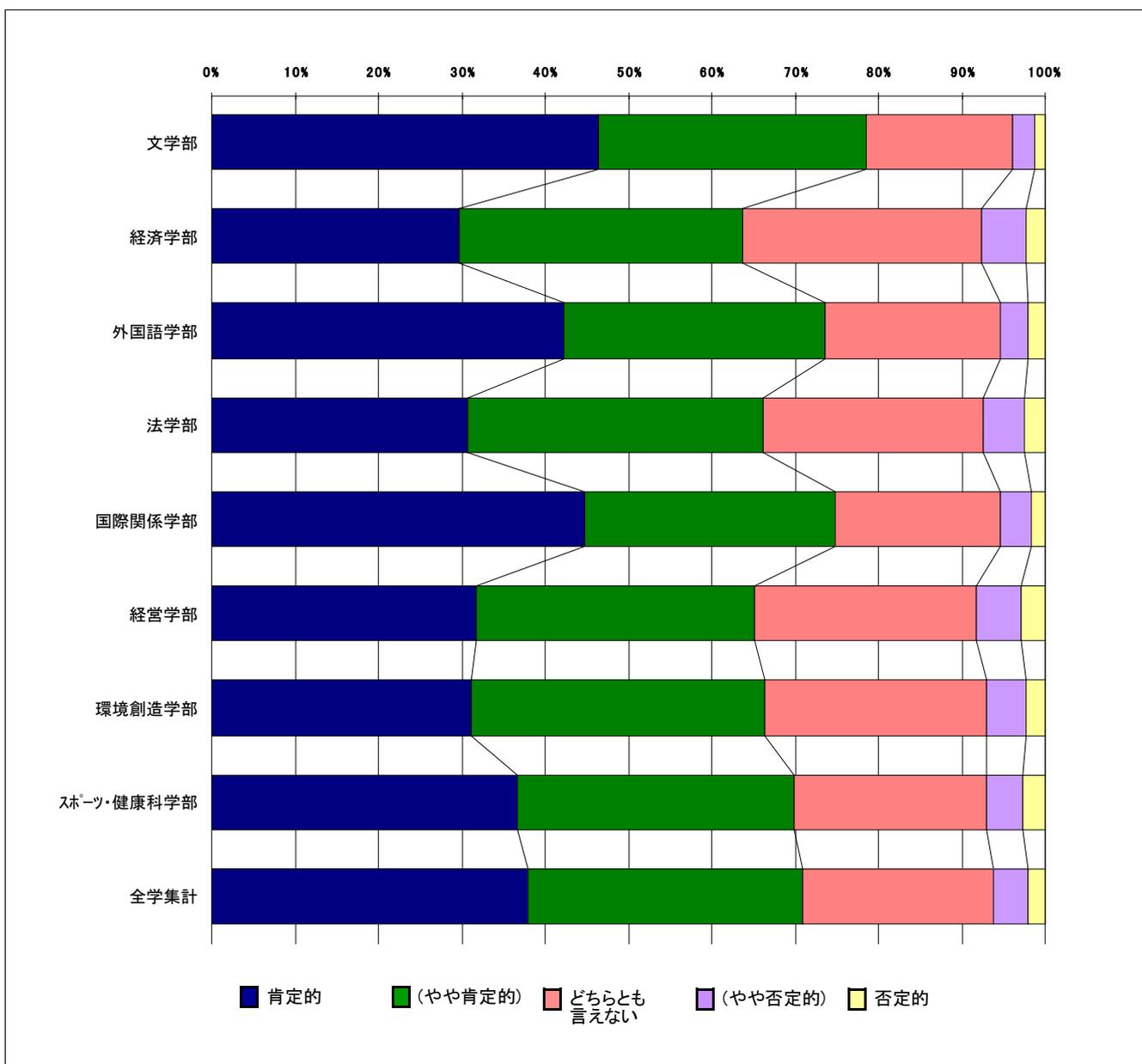
学年： 全学年

II Q15 教員の授業に対する熱意を感じましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,681 (46.3%)	3,255 (32.2%)	1,767 (17.5%)	269 (2.7%)	129 (1.3%)	4.2
	経済学部	1,442 (29.8%)	1,645 (33.9%)	1,395 (28.8%)	251 (5.2%)	114 (2.4%)	3.8
	外国語学部	2,705 (42.4%)	1,994 (31.2%)	1,339 (21.0%)	212 (3.3%)	135 (2.1%)	4.1
	法学部	1,730 (30.6%)	2,010 (35.6%)	1,493 (26.4%)	274 (4.9%)	142 (2.5%)	3.9
	国際関係学部	1,186 (44.8%)	798 (30.1%)	522 (19.7%)	97 (3.7%)	45 (1.7%)	4.1
	経営学部	1,569 (31.7%)	1,659 (33.5%)	1,311 (26.5%)	262 (5.3%)	146 (3.0%)	3.9
	環境創造学部	743 (31.2%)	839 (35.2%)	634 (26.6%)	112 (4.7%)	55 (2.3%)	3.9
	スポーツ・健康科学部	1,520 (36.6%)	1,383 (33.3%)	961 (23.2%)	176 (4.2%)	111 (2.7%)	4.0
	全学集計	15,576 (37.9%)	13,583 (33.0%)	9,422 (22.9%)	1,653 (4.0%)	877 (2.1%)	4.0

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

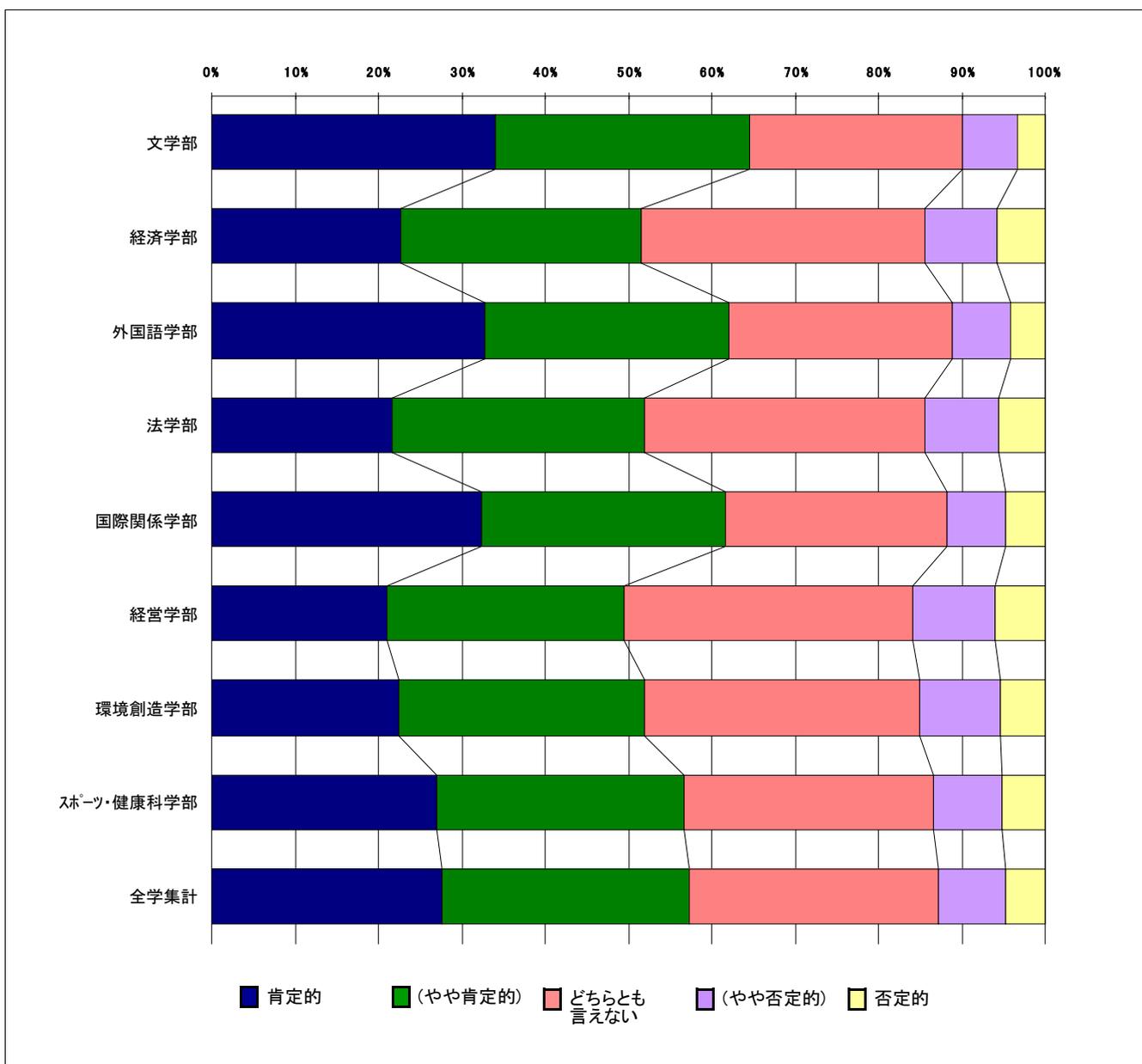
学年： 全学年

II Q16 授業を飽きさせない工夫が感じられましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	3,425 (33.9%)	3,083 (30.5%)	2,588 (25.6%)	658 (6.5%)	343 (3.4%)	3.9
	経済学部	1,099 (22.7%)	1,400 (28.9%)	1,651 (34.0%)	419 (8.6%)	282 (5.8%)	3.5
	外国語学部	2,094 (32.8%)	1,866 (29.2%)	1,715 (26.8%)	447 (7.0%)	266 (4.2%)	3.8
	法学部	1,224 (21.6%)	1,719 (30.4%)	1,899 (33.6%)	499 (8.8%)	313 (5.5%)	3.5
	国際関係学部	856 (32.3%)	777 (29.4%)	701 (26.5%)	186 (7.0%)	127 (4.8%)	3.8
	経営学部	1,045 (21.1%)	1,403 (28.4%)	1,709 (34.5%)	495 (10.0%)	295 (6.0%)	3.5
	環境創造学部	537 (22.5%)	702 (29.5%)	784 (32.9%)	232 (9.7%)	128 (5.4%)	3.5
	スポーツ・健康科学部	1,118 (26.9%)	1,238 (29.8%)	1,236 (29.8%)	340 (8.2%)	218 (5.3%)	3.7
	全学集計	11,398 (27.7%)	12,188 (29.6%)	12,283 (29.9%)	3,276 (8.0%)	1,972 (4.8%)	3.7

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

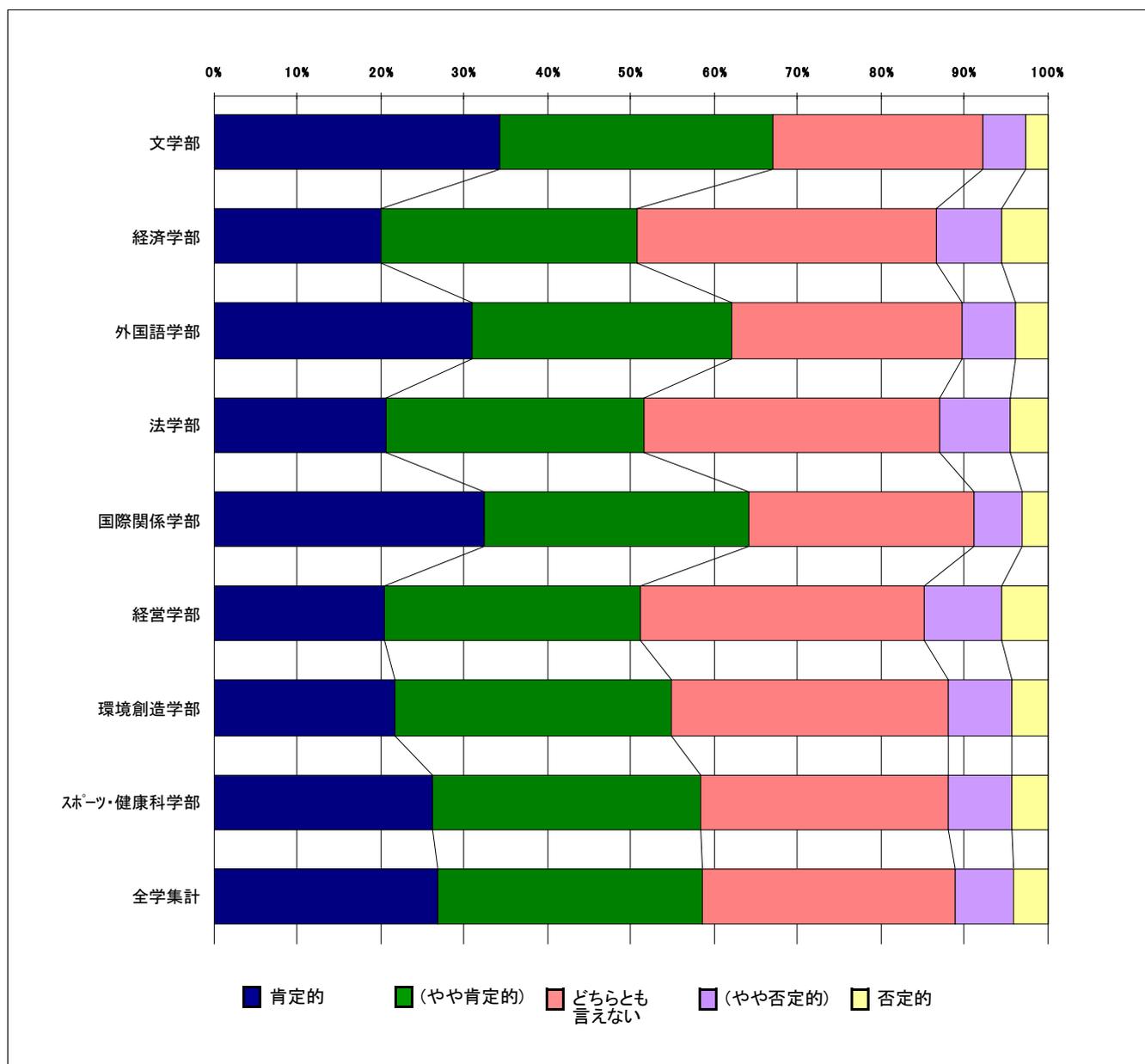
学年： 全学年

II Q17 この授業をとおして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	3,462 (34.3%)	3,311 (32.8%)	2,529 (25.0%)	524 (5.2%)	272 (2.7%)	3.9
	経済学部	975 (20.1%)	1,490 (30.7%)	1,736 (35.8%)	380 (7.8%)	271 (5.6%)	3.5
	外国語学部	1,980 (31.0%)	1,982 (31.0%)	1,768 (27.7%)	403 (6.3%)	253 (4.0%)	3.8
	法学部	1,165 (20.6%)	1,746 (30.9%)	2,009 (35.5%)	480 (8.5%)	253 (4.5%)	3.5
	国際関係学部	857 (32.4%)	840 (31.7%)	717 (27.1%)	150 (5.7%)	83 (3.1%)	3.8
	経営学部	1,012 (20.5%)	1,516 (30.6%)	1,681 (34.0%)	462 (9.3%)	276 (5.6%)	3.5
	環境創造学部	517 (21.7%)	789 (33.1%)	792 (33.2%)	182 (7.6%)	104 (4.4%)	3.6
	スポーツ・健康科学部	1,086 (26.1%)	1,334 (32.1%)	1,237 (29.8%)	320 (7.7%)	177 (4.3%)	3.7
	全学集計	11,054 (26.9%)	13,008 (31.6%)	12,469 (30.3%)	2,901 (7.1%)	1,689 (4.1%)	3.7

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

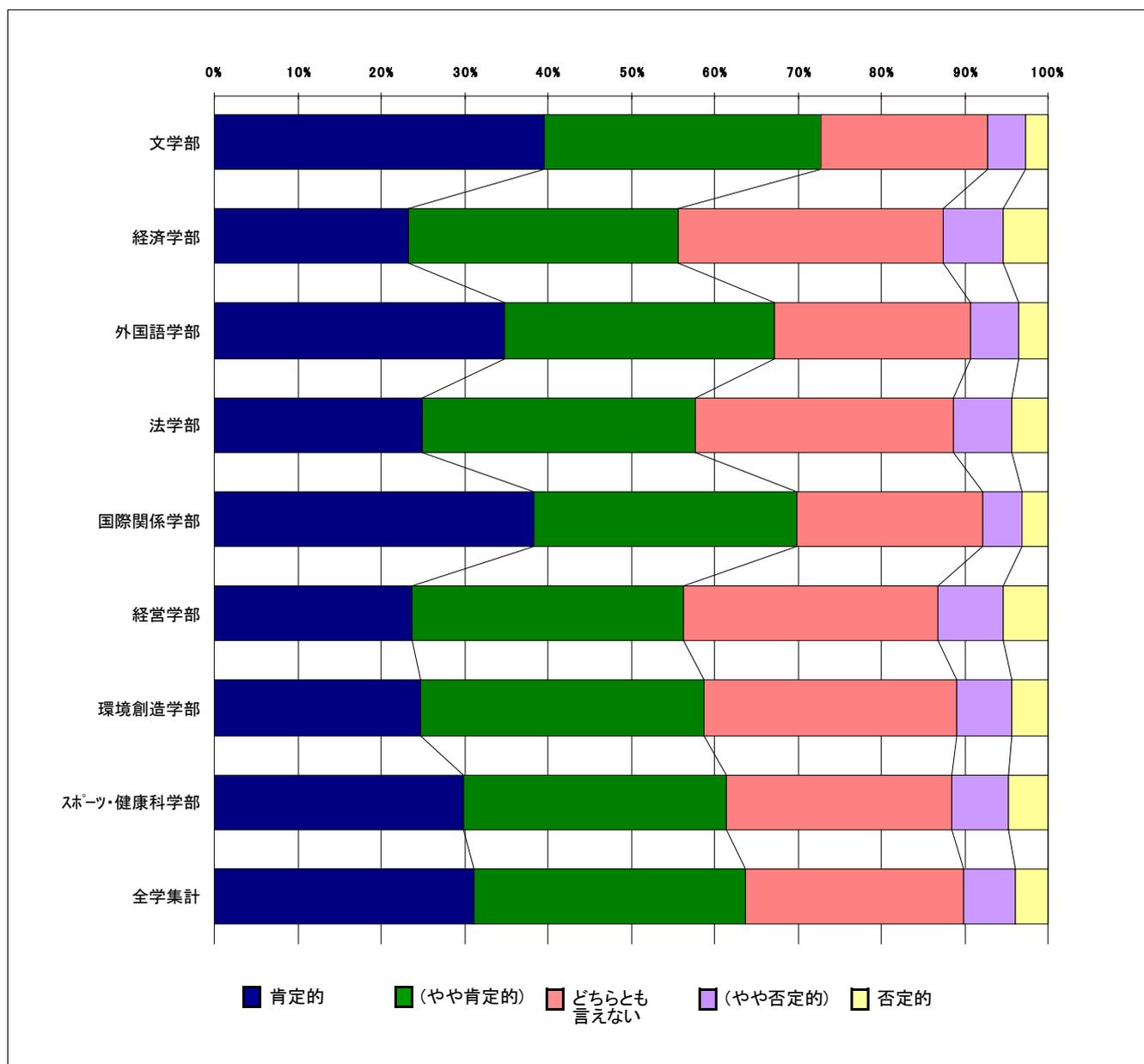
学年： 全学年

II Q18 この授業で教わったことの中で面白い、興味深いや感じたことはありましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,004 (39.7%)	3,341 (33.1%)	2,033 (20.1%)	452 (4.5%)	268 (2.7%)	4.0
	経済学部	1,129 (23.3%)	1,568 (32.3%)	1,550 (31.9%)	349 (7.2%)	257 (5.3%)	3.6
	外国語学部	2,231 (34.9%)	2,064 (32.3%)	1,510 (23.6%)	363 (5.7%)	225 (3.5%)	3.9
	法学部	1,409 (24.9%)	1,855 (32.8%)	1,745 (30.9%)	396 (7.0%)	248 (4.4%)	3.7
	国際関係学部	1,017 (38.4%)	834 (31.5%)	586 (22.1%)	129 (4.9%)	81 (3.1%)	4.0
	経営学部	1,170 (23.6%)	1,611 (32.6%)	1,511 (30.5%)	396 (8.0%)	261 (5.3%)	3.6
	環境創造学部	590 (24.7%)	809 (33.9%)	725 (30.4%)	157 (6.6%)	103 (4.3%)	3.7
	スポーツ・健康科学部	1,244 (29.9%)	1,312 (31.6%)	1,117 (26.9%)	287 (6.9%)	194 (4.7%)	3.8
	全学集計	12,794 (31.1%)	13,394 (32.6%)	10,777 (26.2%)	2,529 (6.1%)	1,637 (4.0%)	3.8

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

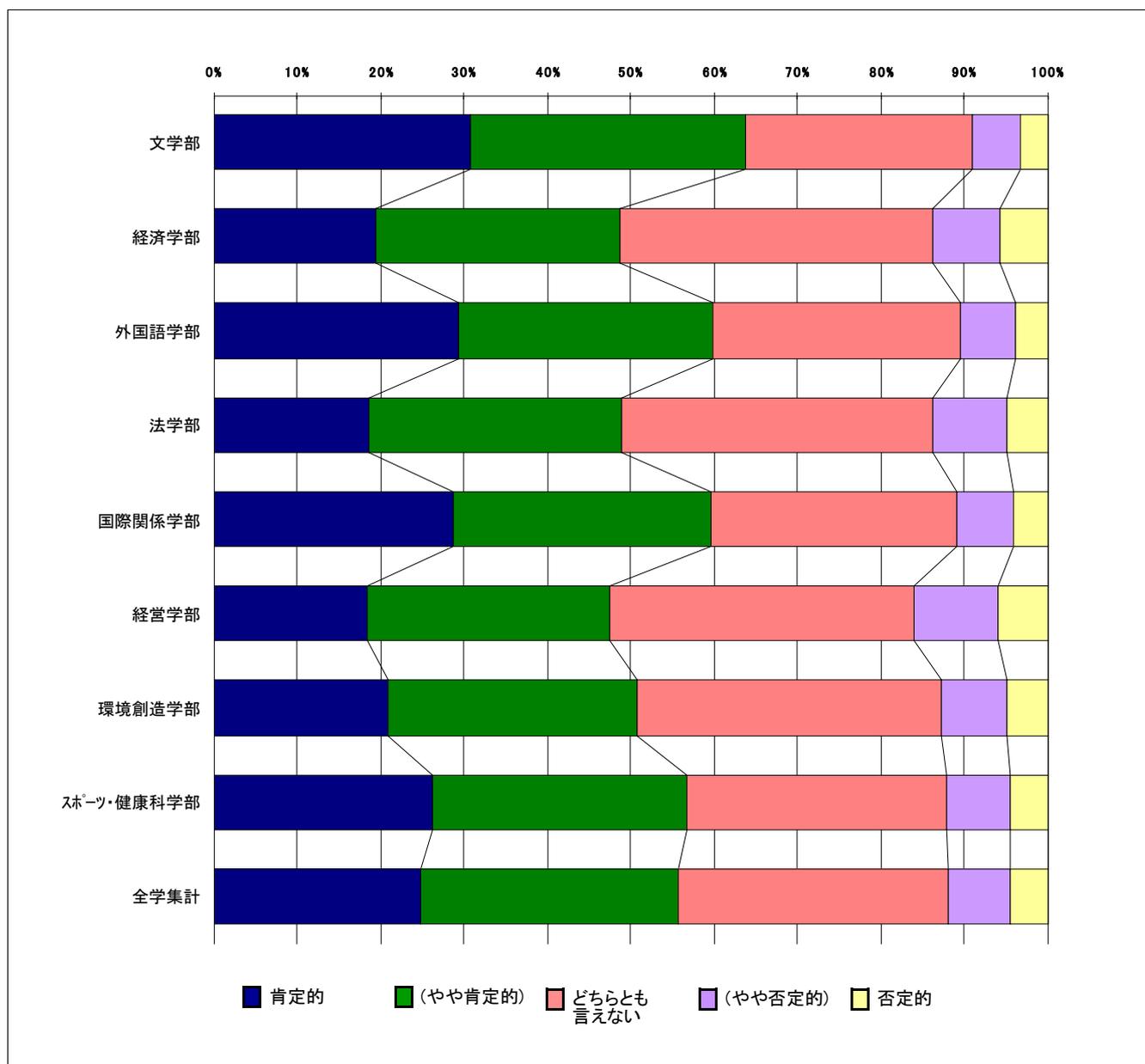
学年： 全学年

II Q19 この授業をとおして、自分で調べ、考える姿勢が身につきましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	3,103 (30.8%)	3,331 (33.0%)	2,743 (27.2%)	582 (5.8%)	327 (3.2%)	3.8
	経済学部	937 (19.4%)	1,419 (29.3%)	1,816 (37.5%)	384 (7.9%)	284 (5.9%)	3.5
	外国語学部	1,862 (29.2%)	1,949 (30.6%)	1,893 (29.7%)	420 (6.6%)	252 (4.0%)	3.7
	法学部	1,048 (18.6%)	1,703 (30.2%)	2,114 (37.5%)	492 (8.7%)	282 (5.0%)	3.5
	国際関係学部	755 (28.6%)	819 (31.0%)	778 (29.5%)	181 (6.9%)	108 (4.1%)	3.7
	経営学部	908 (18.4%)	1,430 (29.0%)	1,805 (36.6%)	502 (10.2%)	292 (5.9%)	3.4
	環境創造学部	497 (20.9%)	709 (29.8%)	868 (36.5%)	188 (7.9%)	117 (4.9%)	3.5
	スポーツ・健康科学部	1,086 (26.2%)	1,265 (30.5%)	1,288 (31.1%)	315 (7.6%)	191 (4.6%)	3.7
	全学集計	10,196 (24.8%)	12,625 (30.8%)	13,305 (32.4%)	3,064 (7.5%)	1,853 (4.5%)	3.6

<評価帯グラフ>

2016年度



学部別【項目別集計】

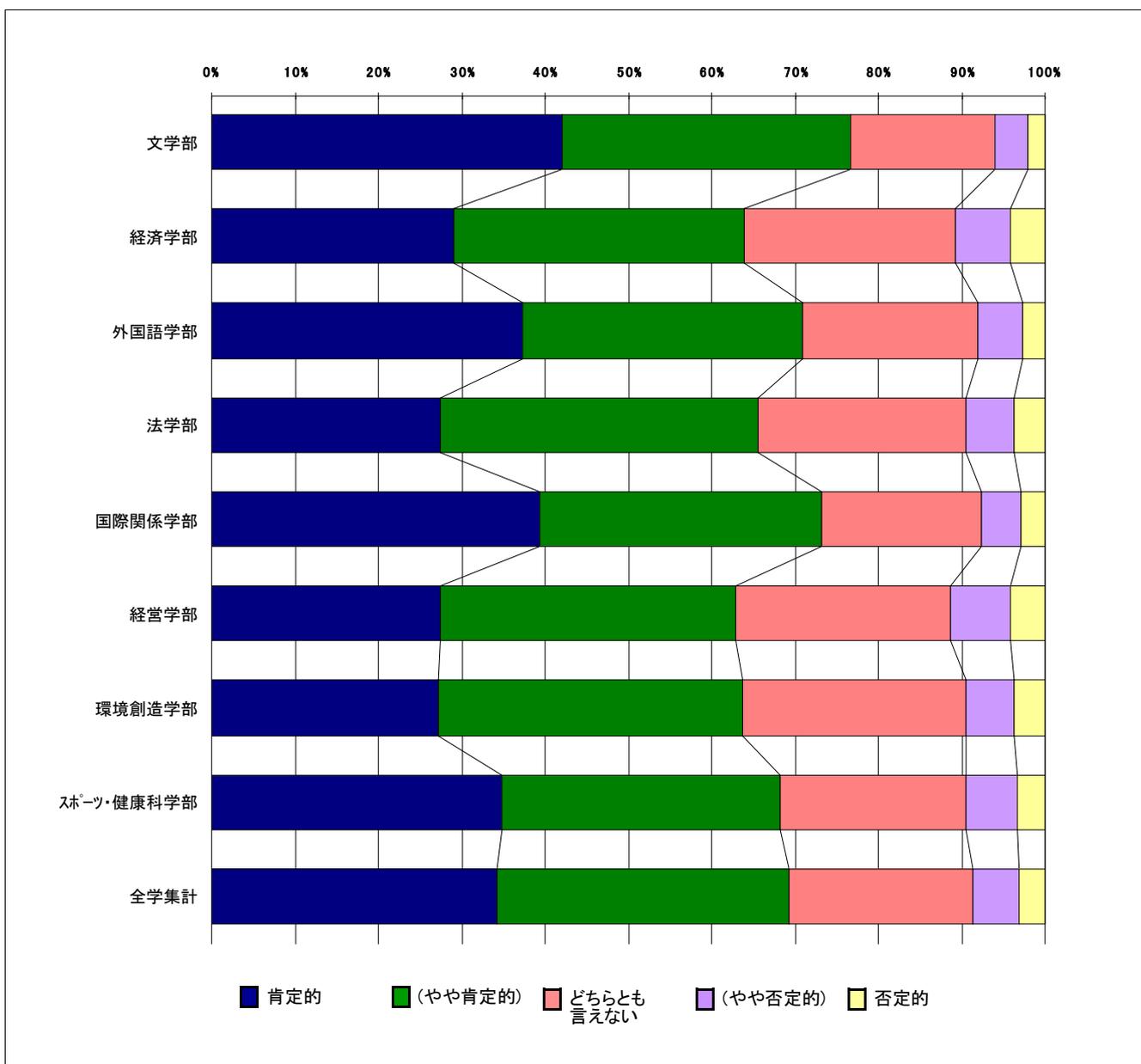
学年： 全学年

ⅢQ20 この授業を総合的にみて、満足できましたか。 (人)

実施年度	項目	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	文学部	4,034 (42.1%)	3,325 (34.7%)	1,650 (17.2%)	386 (4.0%)	191 (2.0%)	4.1
	経済学部	1,336 (29.1%)	1,603 (34.9%)	1,159 (25.2%)	304 (6.6%)	193 (4.2%)	3.8
	外国語学部	2,252 (37.3%)	2,041 (33.8%)	1,272 (21.0%)	315 (5.2%)	165 (2.7%)	4.0
	法学部	1,452 (27.4%)	2,020 (38.1%)	1,318 (24.9%)	314 (5.9%)	192 (3.6%)	3.8
	国際関係学部	993 (39.3%)	857 (33.9%)	482 (19.1%)	123 (4.9%)	71 (2.8%)	4.0
	経営学部	1,296 (27.4%)	1,683 (35.6%)	1,214 (25.6%)	343 (7.2%)	197 (4.2%)	3.7
	環境創造学部	610 (27.3%)	816 (36.5%)	598 (26.7%)	127 (5.7%)	85 (3.8%)	3.8
	スポーツ・健康科学部	1,372 (34.9%)	1,312 (33.4%)	877 (22.3%)	239 (6.1%)	133 (3.4%)	3.9
	全学集計	13,345 (34.3%)	13,657 (35.1%)	8,570 (22.0%)	2,151 (5.5%)	1,227 (3.2%)	3.9

<評価帯グラフ>

2016年度



D.学年別集計  
(学部・学科別集計)



学部学科別【学年別集計】

学部 文学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

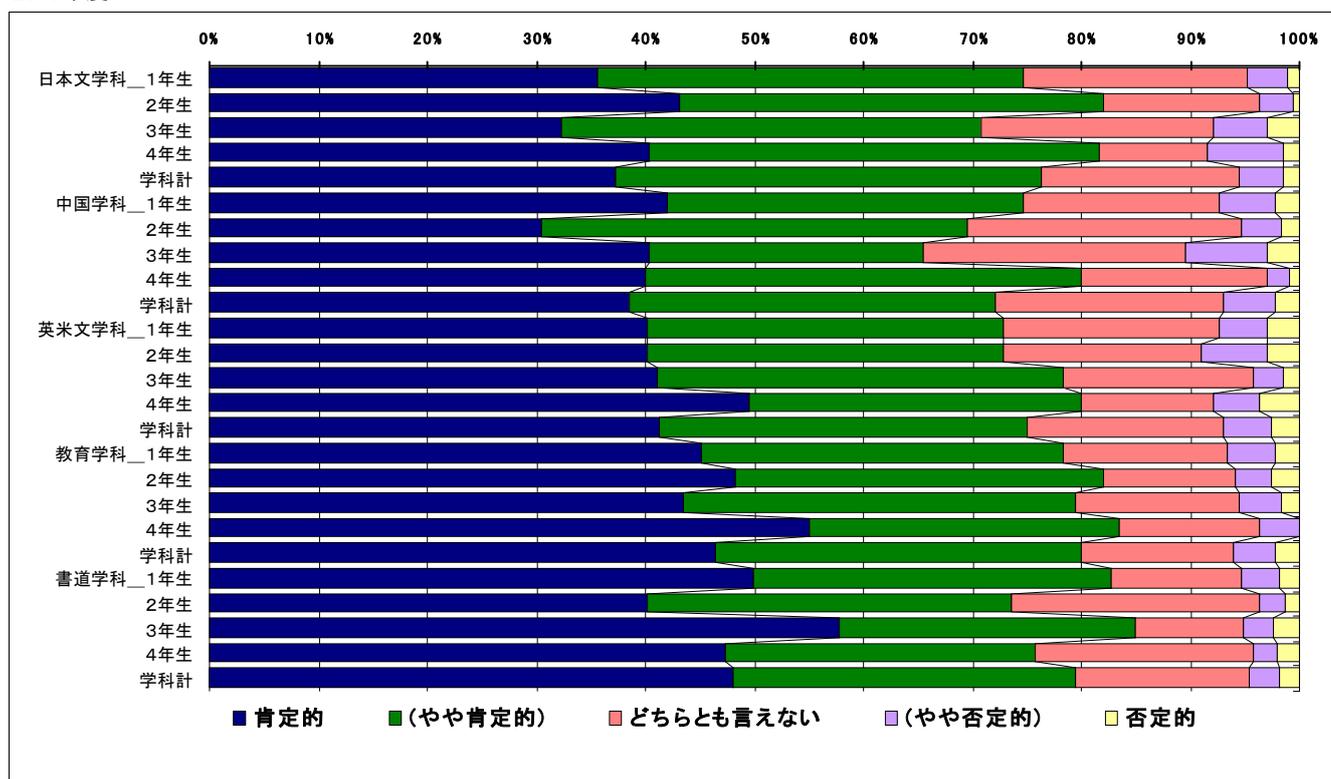
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	日本文学科	1年生	350 (35.6%)	383 (39.0%)	202 (20.6%)	37 (3.8%)	10 (1.0%)	4.0
		2年生	337 (43.1%)	305 (39.0%)	111 (14.2%)	24 (3.1%)	5 (0.6%)	4.2
		3年生	211 (32.4%)	251 (38.5%)	139 (21.3%)	32 (4.9%)	19 (2.9%)	3.9
		4年生	53 (40.5%)	54 (41.2%)	13 (9.9%)	9 (6.9%)	2 (1.5%)	4.1
		学科計	951 (37.3%)	993 (39.0%)	465 (18.3%)	102 (4.0%)	36 (1.4%)	4.1
	中国学科	1年生	265 (42.1%)	206 (32.7%)	113 (17.9%)	32 (5.1%)	14 (2.2%)	4.1
		2年生	108 (30.4%)	139 (39.2%)	89 (25.1%)	13 (3.7%)	6 (1.7%)	3.9
		3年生	97 (40.4%)	60 (25.0%)	58 (24.2%)	18 (7.5%)	7 (2.9%)	3.9
		4年生	40 (40.0%)	40 (40.0%)	17 (17.0%)	2 (2.0%)	1 (1.0%)	4.2
		学科計	510 (38.5%)	445 (33.6%)	277 (20.9%)	65 (4.9%)	28 (2.1%)	4.0
	英米文学科	1年生	266 (40.2%)	215 (32.5%)	131 (19.8%)	29 (4.4%)	20 (3.0%)	4.0
		2年生	258 (40.2%)	210 (32.7%)	116 (18.1%)	39 (6.1%)	19 (3.0%)	4.0
		3年生	237 (41.1%)	214 (37.2%)	101 (17.5%)	16 (2.8%)	8 (1.4%)	4.1
		4年生	94 (49.5%)	58 (30.5%)	23 (12.1%)	8 (4.2%)	7 (3.7%)	4.2
		学科計	855 (41.3%)	697 (33.7%)	371 (17.9%)	92 (4.4%)	54 (2.6%)	4.1
	教育学科	1年生	452 (45.1%)	333 (33.2%)	152 (15.2%)	43 (4.3%)	23 (2.3%)	4.1
		2年生	333 (48.3%)	233 (33.8%)	83 (12.0%)	23 (3.3%)	18 (2.6%)	4.2
		3年生	125 (43.6%)	103 (35.9%)	43 (15.0%)	11 (3.8%)	5 (1.7%)	4.2
		4年生	60 (55.0%)	31 (28.4%)	14 (12.8%)	4 (3.7%)	0 (0%)	4.3
		学科計	970 (46.4%)	700 (33.5%)	292 (14.0%)	81 (3.9%)	46 (2.2%)	4.2
	書道学科	1年生	286 (49.9%)	188 (32.8%)	68 (11.9%)	21 (3.7%)	10 (1.7%)	4.3
		2年生	219 (40.3%)	181 (33.3%)	124 (22.8%)	13 (2.4%)	7 (1.3%)	4.1
		3年生	189 (57.8%)	89 (27.2%)	32 (9.8%)	9 (2.8%)	8 (2.4%)	4.4
		4年生	45 (47.4%)	27 (28.4%)	19 (20.0%)	2 (2.1%)	2 (2.1%)	4.2
		学科計	739 (48.0%)	485 (31.5%)	243 (15.8%)	45 (2.9%)	27 (1.8%)	4.2
	全学科	1年生	1,619 (42.1%)	1,325 (34.4%)	666 (17.3%)	162 (4.2%)	77 (2.0%)	4.1
		2年生	1,255 (41.7%)	1,068 (35.4%)	523 (17.4%)	112 (3.7%)	55 (1.8%)	4.1
		3年生	859 (41.3%)	717 (34.4%)	373 (17.9%)	86 (4.1%)	47 (2.3%)	4.1
4年生		292 (46.7%)	210 (33.6%)	86 (13.8%)	25 (4.0%)	12 (1.9%)	4.2	
学部計		4,025 (42.1%)	3,320 (34.7%)	1,648 (17.2%)	385 (4.0%)	191 (2.0%)	4.1	

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



学部学科別【学年別集計】

学部 経済学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

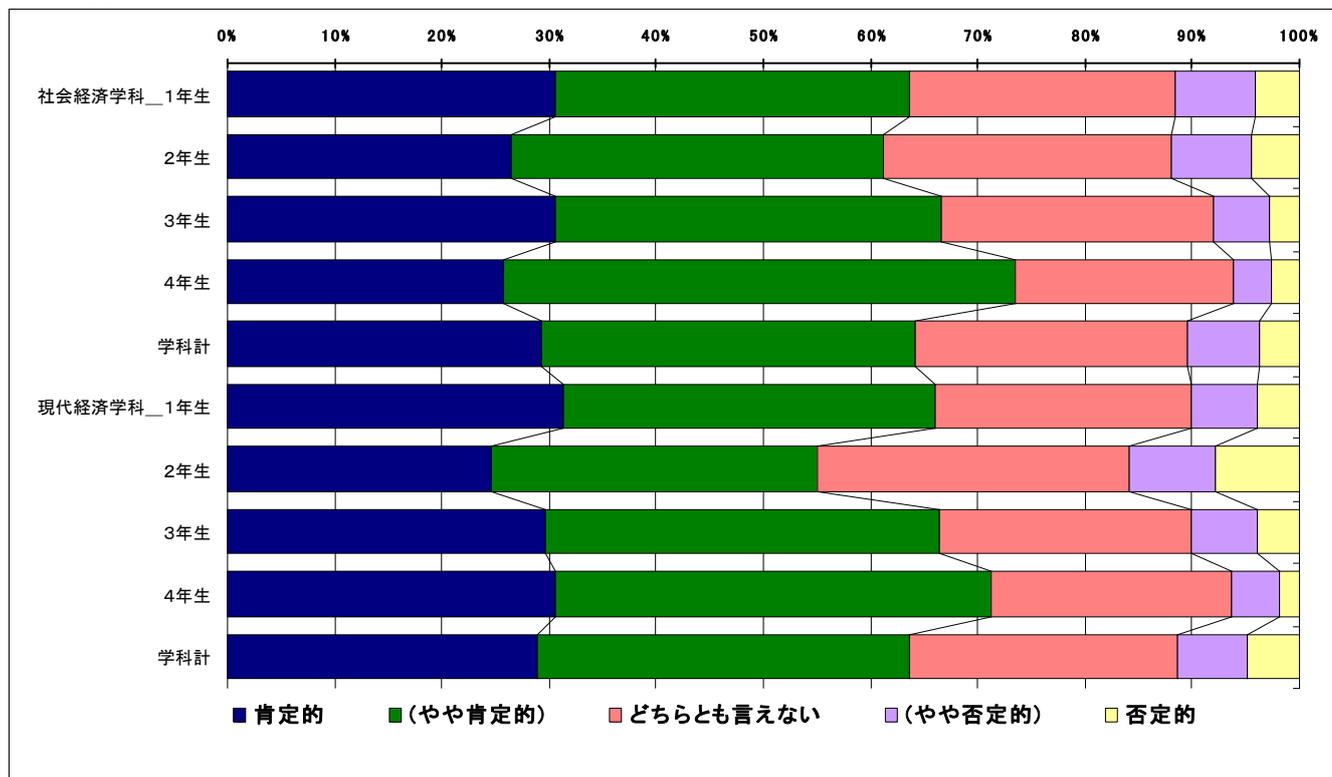
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	社会経済学科	1年生	315 (30.5%)	342 (33.1%)	256 (24.8%)	77 (7.5%)	42 (4.1%)	3.8
		2年生	198 (26.6%)	258 (34.6%)	200 (26.8%)	55 (7.4%)	34 (4.6%)	3.7
		3年生	235 (30.6%)	277 (36.1%)	194 (25.3%)	41 (5.3%)	21 (2.7%)	3.9
		4年生	29 (25.7%)	54 (47.8%)	23 (20.4%)	4 (3.5%)	3 (2.7%)	3.9
		学科計	777 (29.2%)	931 (35.0%)	673 (25.3%)	177 (6.7%)	100 (3.8%)	3.8
	現代経済学科	1年生	188 (31.3%)	208 (34.7%)	144 (24.0%)	37 (6.2%)	23 (3.8%)	3.8
		2年生	131 (24.6%)	162 (30.4%)	155 (29.1%)	43 (8.1%)	42 (7.9%)	3.6
		3年生	192 (29.7%)	237 (36.7%)	152 (23.5%)	40 (6.2%)	25 (3.9%)	3.8
		4年生	48 (30.6%)	64 (40.8%)	35 (22.3%)	7 (4.5%)	3 (1.9%)	3.9
	学科計	559 (28.9%)	671 (34.7%)	486 (25.1%)	127 (6.6%)	93 (4.8%)	3.8	
	全学科	1年生	503 (30.8%)	550 (33.7%)	400 (24.5%)	114 (7.0%)	65 (4.0%)	3.8
		2年生	329 (25.7%)	420 (32.9%)	355 (27.8%)	98 (7.7%)	76 (5.9%)	3.6
		3年生	427 (30.2%)	514 (36.4%)	346 (24.5%)	81 (5.7%)	46 (3.3%)	3.8
		4年生	77 (28.5%)	118 (43.7%)	58 (21.5%)	11 (4.1%)	6 (2.2%)	3.9
		学部計	1,336 (29.1%)	1,602 (34.9%)	1,159 (25.2%)	304 (6.6%)	193 (4.2%)	3.8

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



学部学科別【学年別集計】

学部 外国語学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

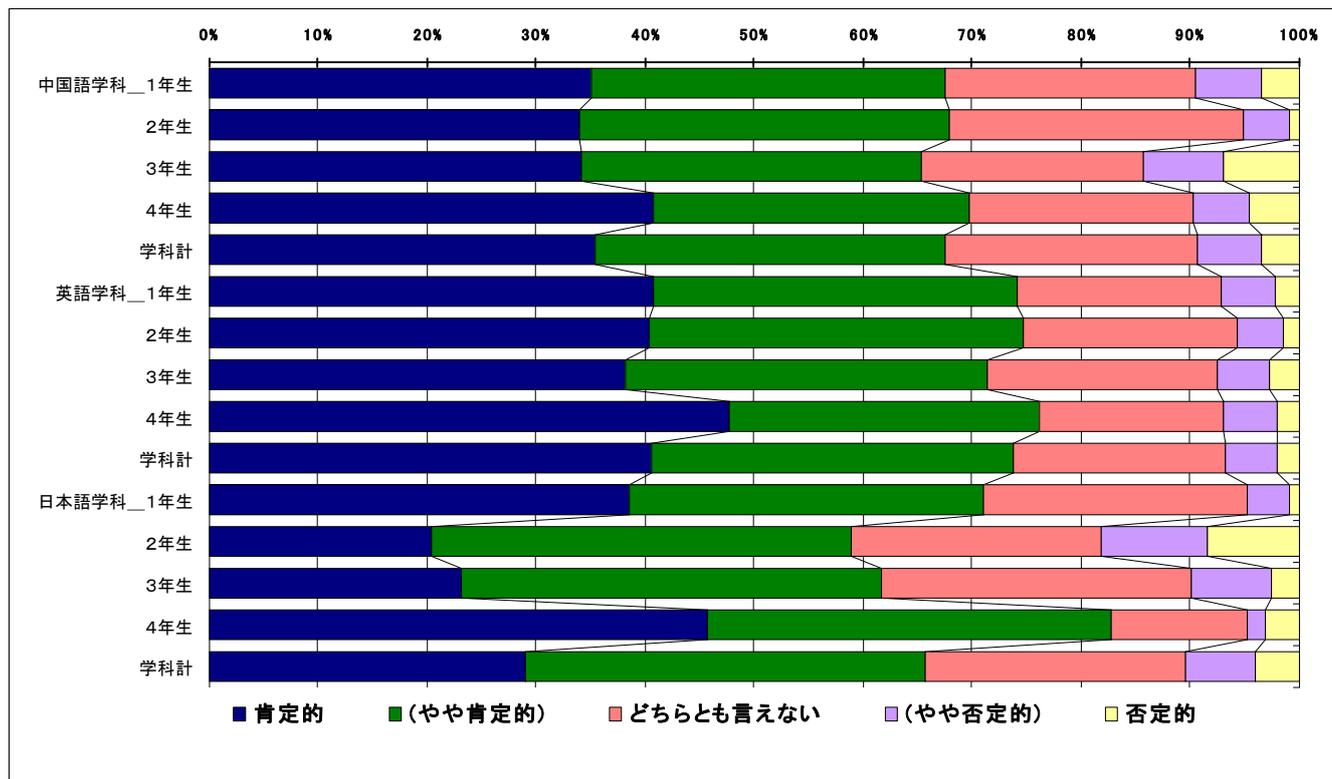
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも 言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	中国語学科	1年生	184 (35.1%)	170 (32.4%)	120 (22.9%)	32 (6.1%)	18 (3.4%)	3.9
		2年生	112 (33.9%)	112 (33.9%)	89 (27.0%)	14 (4.2%)	3 (0.9%)	4.0
		3年生	79 (34.2%)	72 (31.2%)	47 (20.3%)	17 (7.4%)	16 (6.9%)	3.8
		4年生	63 (40.6%)	45 (29.0%)	32 (20.6%)	8 (5.2%)	7 (4.5%)	4.0
		学科計	438 (35.3%)	399 (32.2%)	288 (23.2%)	71 (5.7%)	44 (3.5%)	3.9
	英語学科	1年生	517 (40.7%)	425 (33.4%)	238 (18.7%)	64 (5.0%)	27 (2.1%)	4.1
		2年生	500 (40.3%)	426 (34.4%)	243 (19.6%)	53 (4.3%)	18 (1.5%)	4.1
		3年生	322 (38.2%)	281 (33.3%)	178 (21.1%)	39 (4.6%)	24 (2.8%)	4.0
		4年生	138 (47.8%)	82 (28.4%)	49 (17.0%)	14 (4.8%)	6 (2.1%)	4.1
		学科計	1,477 (40.5%)	1,214 (33.3%)	708 (19.4%)	170 (4.7%)	75 (2.1%)	4.1
	日本語学科	1年生	122 (38.5%)	103 (32.5%)	77 (24.3%)	12 (3.8%)	3 (0.9%)	4.0
		2年生	73 (20.4%)	137 (38.4%)	82 (23.0%)	35 (9.8%)	30 (8.4%)	3.5
		3年生	80 (23.1%)	133 (38.4%)	99 (28.6%)	25 (7.2%)	9 (2.6%)	3.7
		4年生	58 (45.7%)	47 (37.0%)	16 (12.6%)	2 (1.6%)	4 (3.1%)	4.2
		学科計	333 (29.0%)	420 (36.6%)	274 (23.9%)	74 (6.5%)	46 (4.0%)	3.8
	全学科	1年生	823 (39.0%)	698 (33.0%)	435 (20.6%)	108 (5.1%)	48 (2.3%)	4.0
		2年生	685 (35.5%)	675 (35.0%)	414 (21.5%)	102 (5.3%)	51 (2.6%)	4.0
		3年生	481 (33.8%)	486 (34.2%)	324 (22.8%)	81 (5.7%)	49 (3.4%)	3.9
		4年生	259 (45.4%)	174 (30.5%)	97 (17.0%)	24 (4.2%)	17 (3.0%)	4.1
		学部計	2,248 (37.3%)	2,033 (33.7%)	1,270 (21.1%)	315 (5.2%)	165 (2.7%)	4.0

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



学部学科別【学年別集計】

学部 法学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

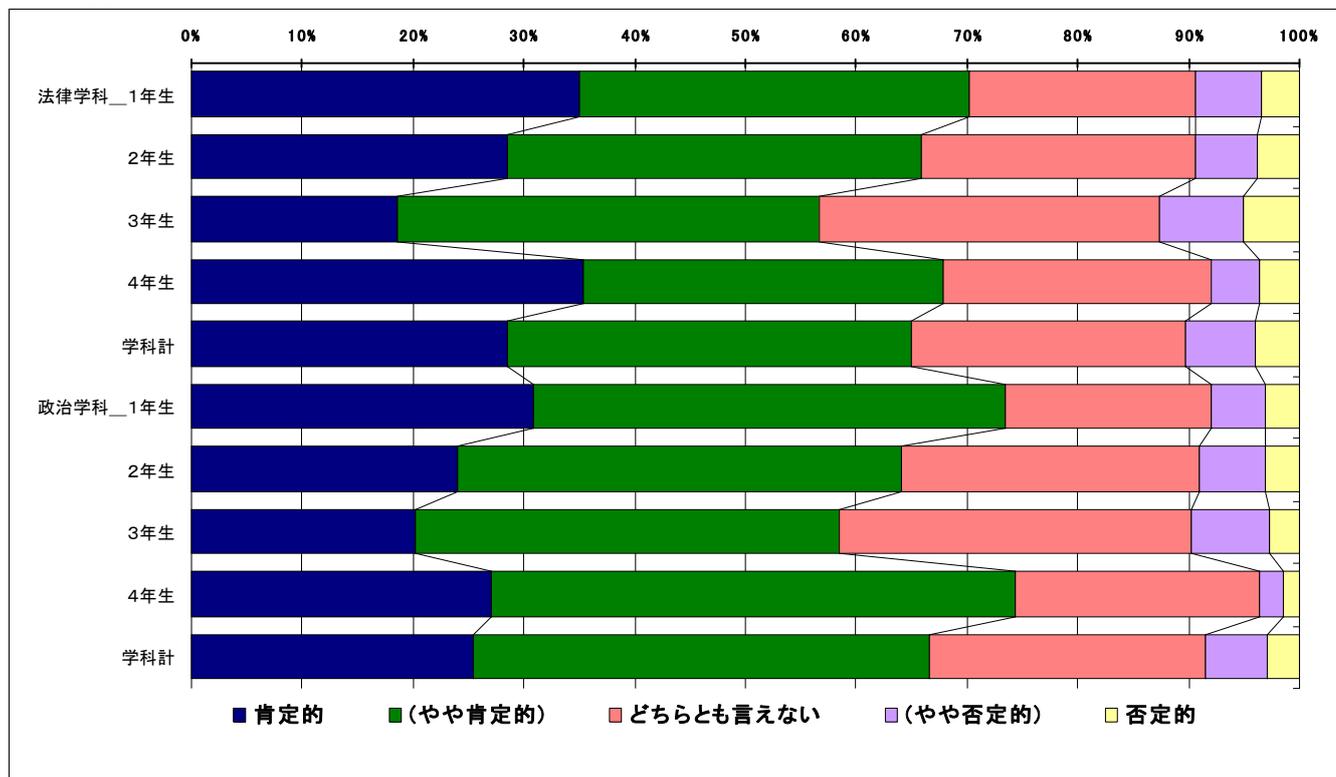
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	法律学科	1年生	430 (34.9%)	434 (35.3%)	252 (20.5%)	73 (5.9%)	42 (3.4%)	3.9
		2年生	258 (28.4%)	340 (37.5%)	224 (24.7%)	50 (5.5%)	35 (3.9%)	3.8
		3年生	175 (18.5%)	360 (38.1%)	290 (30.7%)	72 (7.6%)	48 (5.1%)	3.6
		4年生	88 (35.3%)	81 (32.5%)	60 (24.1%)	11 (4.4%)	9 (3.6%)	3.9
		学科計	951 (28.5%)	1,215 (36.5%)	826 (24.8%)	206 (6.2%)	134 (4.0%)	3.8
	政治学科	1年生	196 (30.8%)	271 (42.6%)	119 (18.7%)	30 (4.7%)	20 (3.1%)	3.9
		2年生	173 (24.0%)	290 (40.2%)	194 (26.9%)	43 (6.0%)	22 (3.0%)	3.8
		3年生	94 (20.2%)	178 (38.3%)	148 (31.8%)	32 (6.9%)	13 (2.8%)	3.7
		4年生	38 (27.1%)	66 (47.1%)	31 (22.1%)	3 (2.1%)	2 (1.4%)	4.0
		学科計	501 (25.5%)	805 (41.0%)	492 (25.1%)	108 (5.5%)	57 (2.9%)	3.8
	全学科	1年生	626 (33.5%)	705 (37.8%)	371 (19.9%)	103 (5.5%)	62 (3.3%)	3.9
		2年生	431 (26.5%)	630 (38.7%)	418 (25.7%)	93 (5.7%)	57 (3.5%)	3.8
		3年生	269 (19.1%)	538 (38.2%)	438 (31.1%)	104 (7.4%)	61 (4.3%)	3.6
		4年生	126 (32.4%)	147 (37.8%)	91 (23.4%)	14 (3.6%)	11 (2.8%)	3.9
		学部計	1,452 (27.4%)	2,020 (38.1%)	1,318 (24.9%)	314 (5.9%)	191 (3.6%)	3.8

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



学部学科別【学年別集計】

学部 国際関係学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

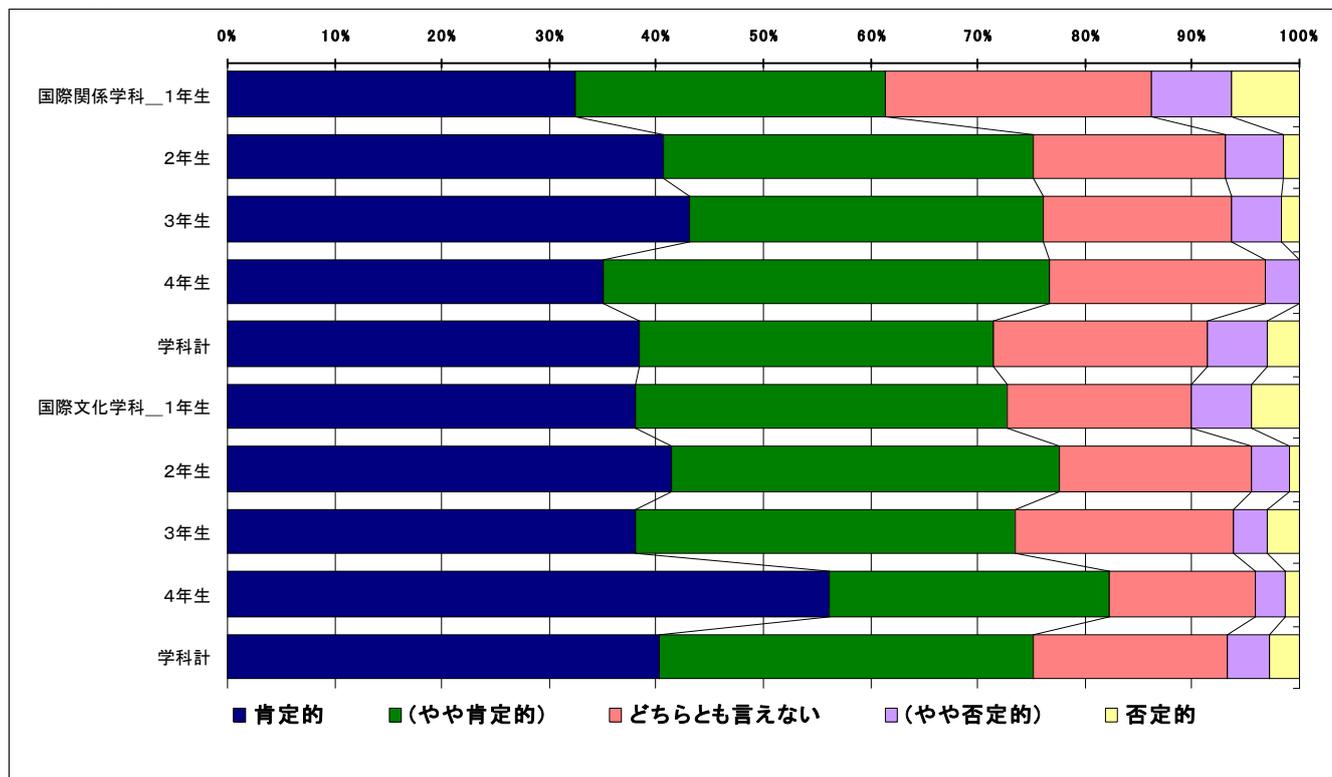
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	国際関係学科	1年生	127 (32.5%)	113 (28.9%)	97 (24.8%)	29 (7.4%)	25 (6.4%)	3.7
		2年生	205 (40.6%)	175 (34.7%)	90 (17.8%)	27 (5.3%)	8 (1.6%)	4.1
		3年生	136 (43.2%)	104 (33.0%)	55 (17.5%)	15 (4.8%)	5 (1.6%)	4.1
		4年生	33 (35.1%)	39 (41.5%)	19 (20.2%)	3 (3.2%)	0 (0%)	4.1
		学科計	501 (38.4%)	431 (33.0%)	261 (20.0%)	74 (5.7%)	38 (2.9%)	4.0
	国際文化学科	1年生	155 (38.0%)	142 (34.8%)	70 (17.2%)	23 (5.6%)	18 (4.4%)	4.0
		2年生	169 (41.4%)	148 (36.3%)	73 (17.9%)	14 (3.4%)	4 (1.0%)	4.1
		3年生	125 (38.0%)	117 (35.6%)	67 (20.4%)	10 (3.0%)	10 (3.0%)	4.0
		4年生	41 (56.2%)	19 (26.0%)	10 (13.7%)	2 (2.7%)	1 (1.4%)	4.3
	学科計	490 (40.2%)	426 (35.0%)	220 (18.1%)	49 (4.0%)	33 (2.7%)	4.1	
	全学科	1年生	282 (35.3%)	255 (31.9%)	167 (20.9%)	52 (6.5%)	43 (5.4%)	3.9
		2年生	374 (41.0%)	323 (35.4%)	163 (17.9%)	41 (4.5%)	12 (1.3%)	4.1
		3年生	261 (40.5%)	221 (34.3%)	122 (18.9%)	25 (3.9%)	15 (2.3%)	4.1
		4年生	74 (44.3%)	58 (34.7%)	29 (17.4%)	5 (3.0%)	1 (0.6%)	4.2
学部計		991 (39.3%)	857 (34.0%)	481 (19.1%)	123 (4.9%)	71 (2.8%)	4.0	

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



学部学科別【学年別集計】

学部 経営学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

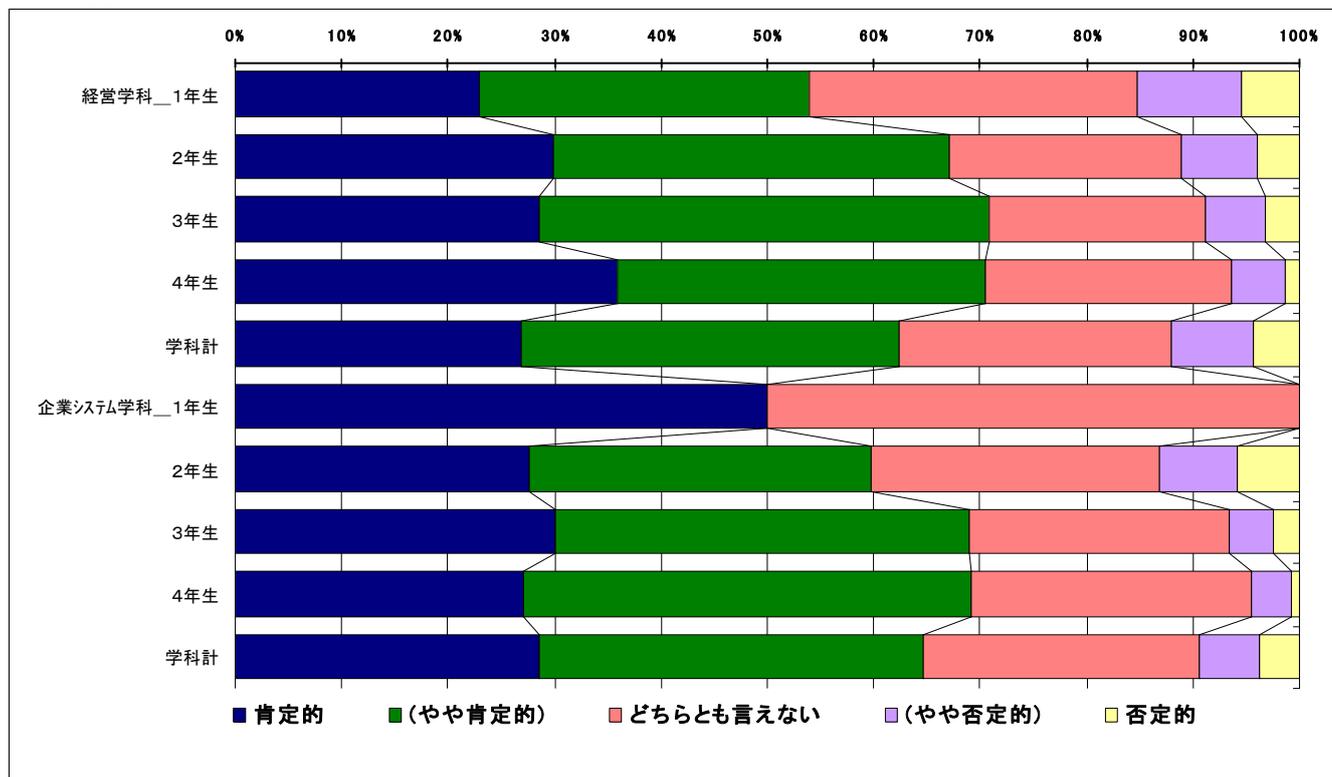
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	経営学科	1年生	364 (23.0%)	490 (30.9%)	490 (30.9%)	154 (9.7%)	86 (5.4%)	3.6
		2年生	283 (30.0%)	351 (37.2%)	206 (21.8%)	66 (7.0%)	38 (4.0%)	3.8
		3年生	232 (28.6%)	344 (42.4%)	164 (20.2%)	46 (5.7%)	26 (3.2%)	3.9
		4年生	84 (35.9%)	81 (34.6%)	54 (23.1%)	12 (5.1%)	3 (1.3%)	4.0
		学科計	963 (26.9%)	1,266 (35.4%)	914 (25.6%)	278 (7.8%)	153 (4.3%)	3.7
	企業システム学科	1年生	2 (50.0%)	0 (0%)	2 (50.0%)	0 (0%)	0 (0%)	4.0
		2年生	149 (27.6%)	174 (32.2%)	146 (27.0%)	40 (7.4%)	31 (5.7%)	3.7
		3年生	144 (30.0%)	187 (39.0%)	117 (24.4%)	20 (4.2%)	12 (2.5%)	3.9
		4年生	36 (27.1%)	56 (42.1%)	35 (26.3%)	5 (3.8%)	1 (0.8%)	3.9
		学科計	331 (28.6%)	417 (36.0%)	300 (25.9%)	65 (5.6%)	44 (3.8%)	3.8
	全学科	1年生	366 (23.0%)	490 (30.9%)	492 (31.0%)	154 (9.7%)	86 (5.4%)	3.6
		2年生	432 (29.1%)	525 (35.4%)	352 (23.7%)	106 (7.1%)	69 (4.6%)	3.8
		3年生	376 (29.1%)	531 (41.1%)	281 (21.7%)	66 (5.1%)	38 (2.9%)	3.9
		4年生	120 (32.7%)	137 (37.3%)	89 (24.3%)	17 (4.6%)	4 (1.1%)	4.0
学部計		1,294 (27.4%)	1,683 (35.6%)	1,214 (25.7%)	343 (7.3%)	197 (4.2%)	3.7	

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



学部学科別【学年別集計】

学部 環境創造学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

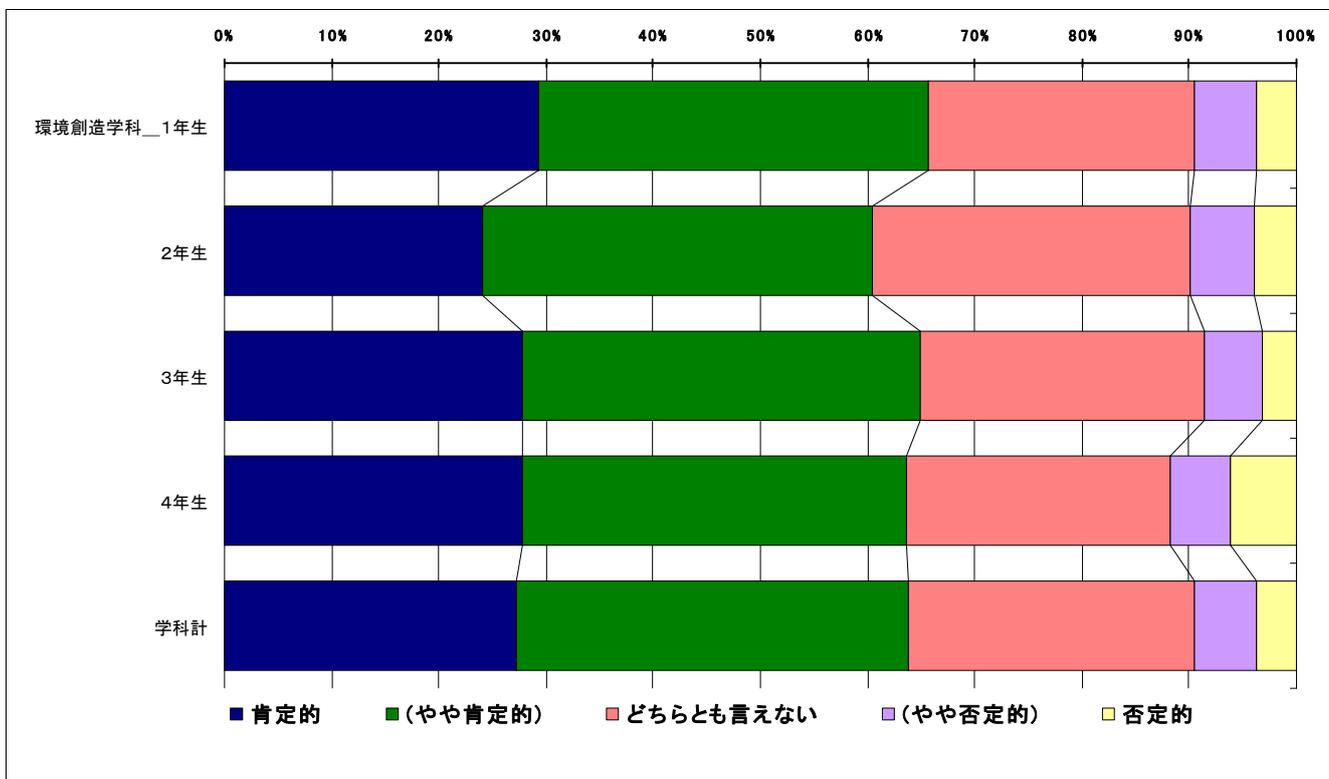
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	環境創造学科	1年生	218 (29.4%)	269 (36.3%)	185 (24.9%)	42 (5.7%)	28 (3.8%)	3.8
		2年生	154 (24.1%)	232 (36.3%)	190 (29.7%)	38 (5.9%)	25 (3.9%)	3.7
		3年生	193 (27.8%)	257 (37.1%)	183 (26.4%)	38 (5.5%)	22 (3.2%)	3.8
		4年生	45 (27.8%)	58 (35.8%)	40 (24.7%)	9 (5.6%)	10 (6.2%)	3.7
		学科計	610 (27.3%)	816 (36.5%)	598 (26.7%)	127 (5.7%)	85 (3.8%)	3.8
	全学科	1年生	218 (29.4%)	269 (36.3%)	185 (24.9%)	42 (5.7%)	28 (3.8%)	3.8
		2年生	154 (24.1%)	232 (36.3%)	190 (29.7%)	38 (5.9%)	25 (3.9%)	3.7
		3年生	193 (27.8%)	257 (37.1%)	183 (26.4%)	38 (5.5%)	22 (3.2%)	3.8
		4年生	45 (27.8%)	58 (35.8%)	40 (24.7%)	9 (5.6%)	10 (6.2%)	3.7
		学部計	610 (27.3%)	816 (36.5%)	598 (26.7%)	127 (5.7%)	85 (3.8%)	3.8

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



学部学科別【学年別集計】

学部 スポーツ・健康科学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

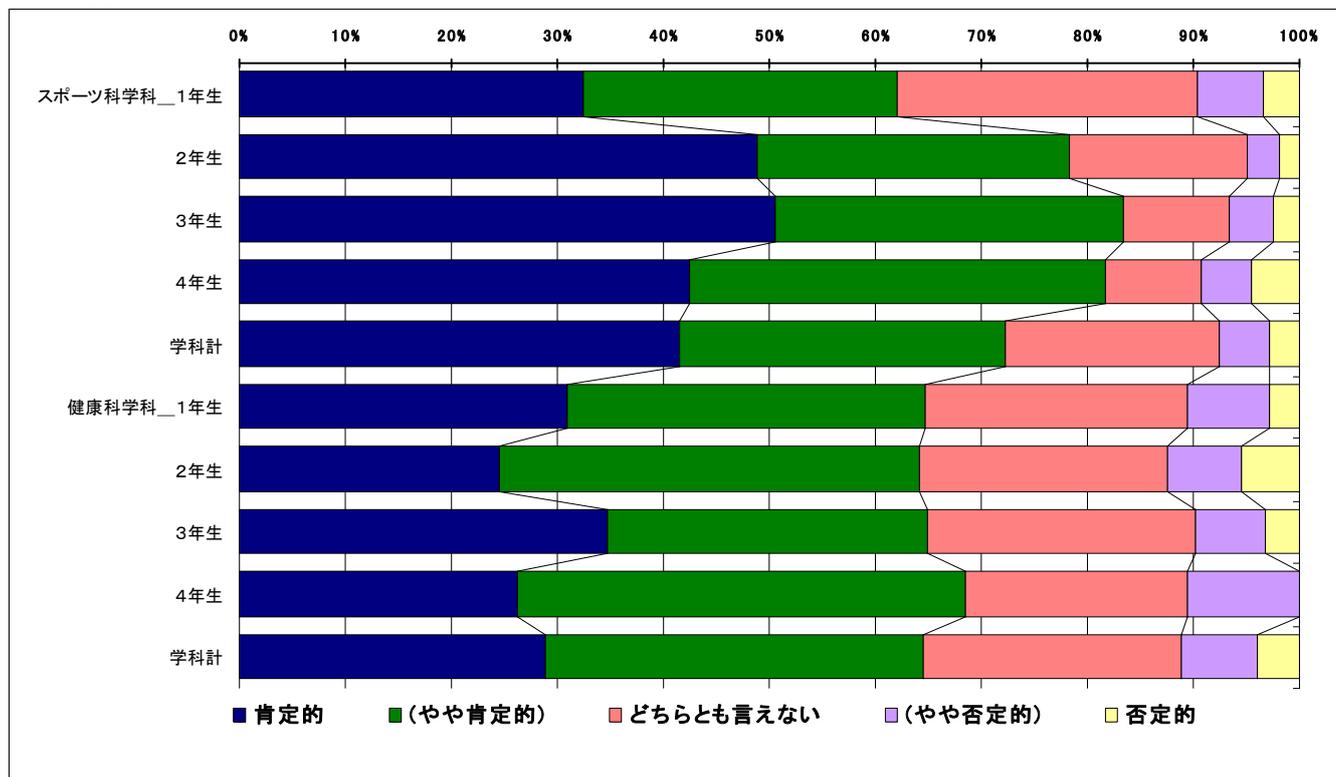
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2016年度	スポーツ科学	1年生	273 (32.4%)	251 (29.8%)	238 (28.2%)	53 (6.3%)	28 (3.3%)	3.8
		2年生	271 (48.8%)	164 (29.5%)	93 (16.8%)	17 (3.1%)	10 (1.8%)	4.2
		3年生	191 (50.5%)	124 (32.8%)	38 (10.1%)	16 (4.2%)	9 (2.4%)	4.2
		4年生	37 (42.5%)	34 (39.1%)	8 (9.2%)	4 (4.6%)	4 (4.6%)	4.1
		学科計	772 (41.4%)	573 (30.8%)	377 (20.2%)	90 (4.8%)	51 (2.7%)	4.0
	健康科学科	1年生	247 (31.0%)	268 (33.7%)	197 (24.7%)	61 (7.7%)	23 (2.9%)	3.8
		2年生	213 (24.5%)	345 (39.6%)	205 (23.5%)	60 (6.9%)	48 (5.5%)	3.7
		3年生	121 (34.8%)	105 (30.2%)	88 (25.3%)	23 (6.6%)	11 (3.2%)	3.9
		4年生	10 (26.3%)	16 (42.1%)	8 (21.1%)	4 (10.5%)	0 (0%)	3.8
		学科計	591 (28.8%)	734 (35.8%)	498 (24.3%)	148 (7.2%)	82 (4.0%)	3.8
	全学科	1年生	520 (31.7%)	519 (31.7%)	435 (26.5%)	114 (7.0%)	51 (3.1%)	3.8
		2年生	484 (33.9%)	509 (35.7%)	298 (20.9%)	77 (5.4%)	58 (4.1%)	3.9
		3年生	312 (43.0%)	229 (31.5%)	126 (17.4%)	39 (5.4%)	20 (2.8%)	4.1
		4年生	47 (37.6%)	50 (40.0%)	16 (12.8%)	8 (6.4%)	4 (3.2%)	4.0
学部計		1,363 (34.8%)	1,307 (33.4%)	875 (22.3%)	238 (6.1%)	133 (3.4%)	3.9	

<評価帯グラフ>

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2016年度



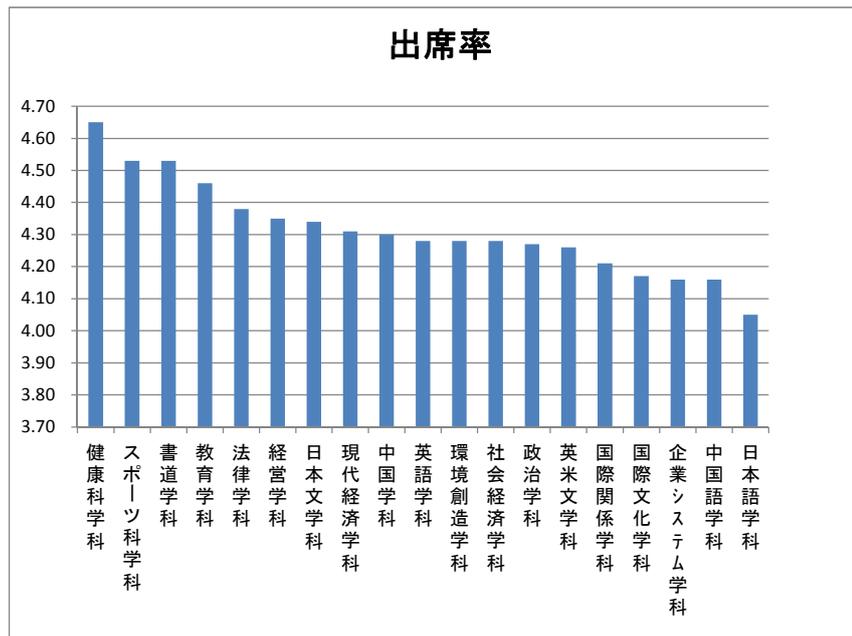
## E. 学科別集計



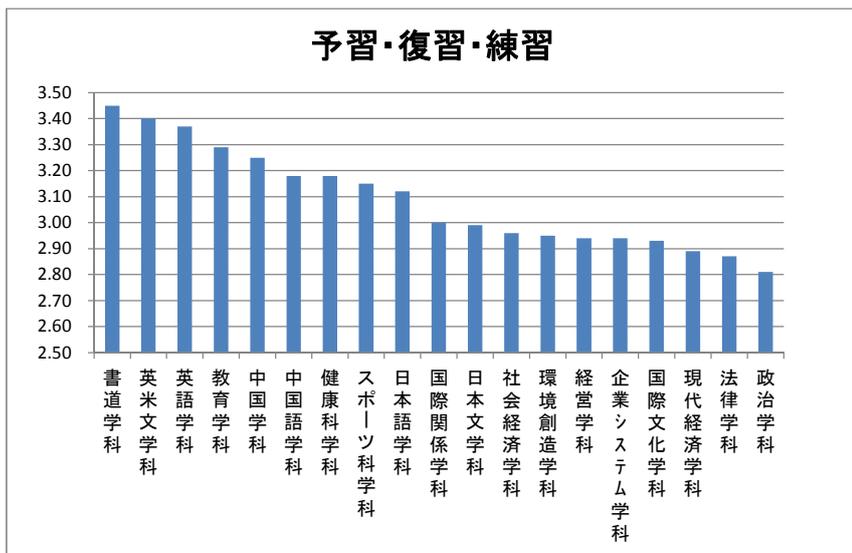
学科の平均値

	出席率	予習・復習・練習	授業への集中	シラバスの熟読	教材等の持参頻度	授業姿勢への自己評価	授業目的の明確さ	シラバスの反映	理解しやすさ	適切な授業進行速度	板書などの見やすさ	教材の使い方	学生参加の機会	受講態度への対応	教員の熱意	飽きさせない工夫	新しい自己発想	授業への関心度合	自分で考える姿勢	満足度
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20
日本文学科	4.34	2.99	3.69	3.59	4.23	3.67	4.11	4.03	4.01	4.03	3.98	4.05	3.57	3.77	4.16	3.77	3.86	4.05	3.68	4.07
中国学科	4.30	3.25	3.76	3.42	4.17	3.83	4.09	4.01	3.99	3.99	4.01	3.98	3.69	3.91	4.07	3.76	3.77	3.87	3.75	4.01
英米文学科	4.26	3.40	3.88	3.47	4.24	3.80	4.09	4.01	3.97	3.96	3.99	4.03	3.87	3.94	4.17	3.85	3.85	3.95	3.80	4.06
教育学科	4.46	3.29	3.92	3.36	4.13	3.94	4.19	4.04	4.11	4.09	4.05	4.13	3.89	3.93	4.25	3.91	4.03	4.12	3.94	4.18
書道学科	4.53	3.45	3.94	3.44	4.24	4.00	4.25	4.12	4.16	4.18	4.17	4.22	3.90	3.96	4.31	3.98	4.03	4.11	3.99	4.21
社会経済学科	4.28	2.96	3.54	3.21	3.91	3.61	3.83	3.76	3.74	3.79	3.77	3.77	3.46	3.70	3.86	3.58	3.55	3.64	3.52	3.79
現代経済学科	4.31	2.89	3.46	3.16	3.88	3.53	3.78	3.73	3.70	3.75	3.64	3.71	3.26	3.61	3.80	3.48	3.49	3.58	3.44	3.76
中国語学科	4.16	3.18	3.64	3.40	4.03	3.70	3.89	3.85	3.80	3.78	3.81	3.85	3.76	3.84	3.96	3.73	3.71	3.75	3.68	3.90
英語学科	4.28	3.37	3.81	3.44	4.20	3.84	4.10	4.01	4.00	4.01	4.05	4.08	3.85	3.96	4.16	3.88	3.86	3.97	3.81	4.06
日本語学科	4.05	3.12	3.57	3.36	4.00	3.61	3.89	3.75	3.75	3.75	3.84	3.83	3.67	3.58	3.96	3.61	3.64	3.80	3.61	3.81
法律学科	4.38	2.87	3.55	3.05	3.97	3.54	3.85	3.74	3.76	3.76	3.77	3.77	3.35	3.68	3.85	3.54	3.54	3.66	3.49	3.79
政治学科	4.27	2.81	3.38	3.28	3.93	3.45	3.80	3.77	3.67	3.69	3.62	3.70	3.24	3.68	3.90	3.53	3.56	3.68	3.49	3.80
国際関係学科	4.21	3.00	3.64	3.58	4.08	3.72	4.00	4.00	3.91	3.98	3.95	3.98	3.53	3.82	4.10	3.74	3.81	3.94	3.74	3.98
国際文化学科	4.17	2.93	3.67	3.56	4.07	3.71	4.08	4.05	4.00	4.02	3.98	4.04	3.57	3.90	4.15	3.81	3.89	4.01	3.72	4.06
経営学科	4.35	2.94	3.45	3.16	3.91	3.54	3.80	3.73	3.70	3.73	3.57	3.69	3.22	3.62	3.85	3.48	3.52	3.62	3.44	3.73
企業システム学科	4.16	2.94	3.48	3.24	3.87	3.58	3.80	3.73	3.61	3.67	3.60	3.67	3.33	3.65	3.88	3.51	3.51	3.59	3.45	3.80
環境創造学科	4.28	2.95	3.48	3.19	3.84	3.55	3.86	3.74	3.72	3.74	3.71	3.75	3.40	3.74	3.88	3.54	3.60	3.68	3.54	3.78
スポーツ科学科	4.53	3.15	3.88	3.06	3.89	3.95	4.05	3.79	3.92	3.90	3.84	3.90	3.66	3.86	4.07	3.78	3.80	3.91	3.76	4.04
健康科学科	4.65	3.18	3.74	3.19	3.97	3.75	3.93	3.79	3.73	3.74	3.82	3.78	3.41	3.64	3.88	3.54	3.57	3.61	3.57	3.78

出席率	
健康科学科	4.65
スポーツ科学科	4.53
書道学科	4.53
教育学科	4.46
法律学科	4.38
経営学科	4.35
日本文学科	4.34
現代経済学科	4.31
中国学科	4.30
英語学科	4.28
環境創造学科	4.28
社会経済学科	4.28
政治学科	4.27
英米文学科	4.26
国際関係学科	4.21
国際文化学科	4.17
企業システム学科	4.16
中国語学科	4.16
日本語学科	4.05

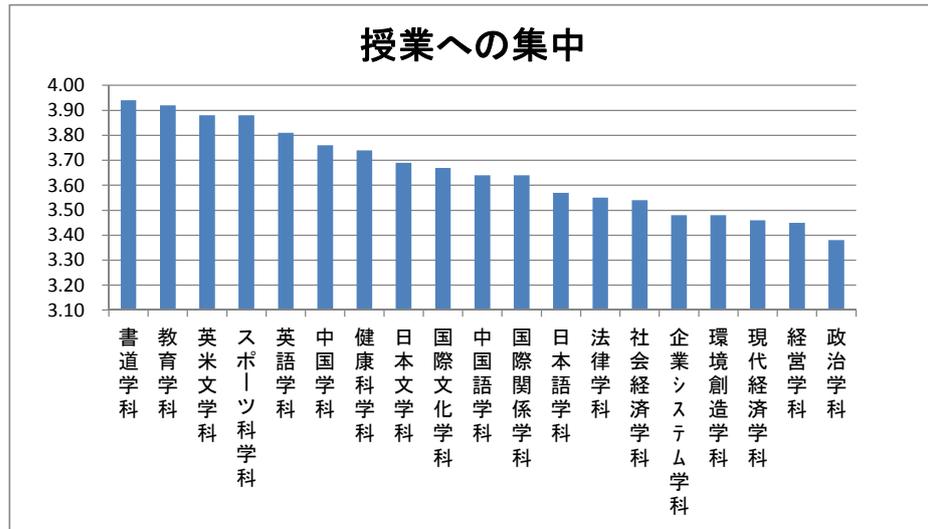


予習・復習・練習	
書道学科	3.45
英米文学科	3.40
英語学科	3.37
教育学科	3.29
中国学科	3.25
中国語学科	3.18
健康科学科	3.18
スポーツ科学科	3.15
日本語学科	3.12
国際関係学科	3.00
日本文学科	2.99
社会経済学科	2.96
環境創造学科	2.95
経営学科	2.94
企業システム学科	2.94
国際文化学科	2.93
現代経済学科	2.89
法律学科	2.87
政治学科	2.81



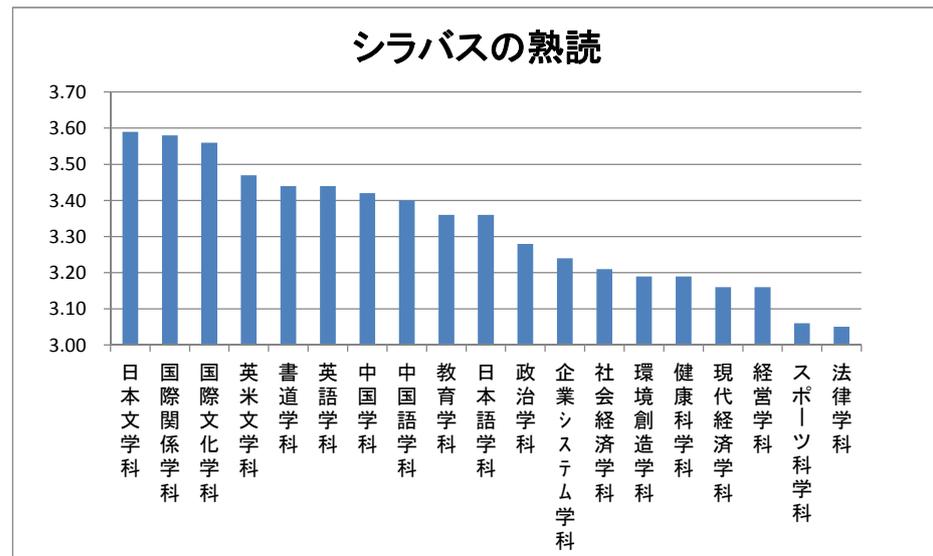
授業への集中

書道学科	3.94
教育学科	3.92
英米文学科	3.88
スポーツ科学科	3.88
英語学科	3.81
中国学科	3.76
健康科学科	3.74
日本文学科	3.69
国際文化学科	3.67
中国語学科	3.64
国際関係学科	3.64
日本語学科	3.57
法律学科	3.55
社会経済学科	3.54
企業システム学科	3.48
環境創造学科	3.48
現代経済学科	3.46
経営学科	3.45
政治学科	3.38



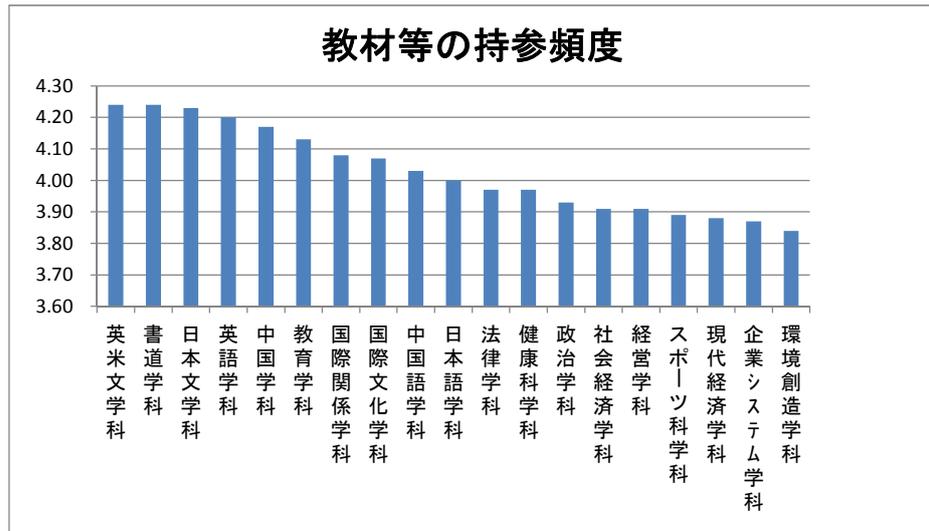
シラバスの熟読

日本文学科	3.59
国際関係学科	3.58
国際文化学科	3.56
英米文学科	3.47
書道学科	3.44
英語学科	3.44
中国学科	3.42
中国語学科	3.40
教育学科	3.36
日本語学科	3.36
政治学科	3.28
企業システム学科	3.24
社会経済学科	3.21
環境創造学科	3.19
健康科学科	3.19
現代経済学科	3.16
経営学科	3.16
スポーツ科学科	3.06
法律学科	3.05



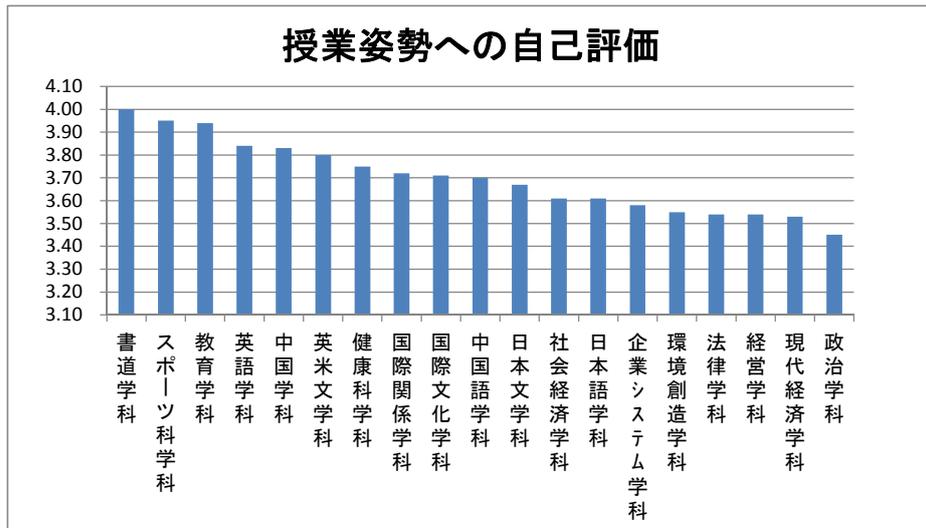
教材等の持参頻度

英米文学科	4.24
書道学科	4.24
日本文学科	4.23
英語学科	4.20
中国学科	4.17
教育学科	4.13
国際関係学科	4.08
国際文化学科	4.07
中国語学科	4.03
日本語学科	4.00
法律学科	3.97
健康科学科	3.97
政治学科	3.93
社会経済学科	3.91
経営学科	3.91
スポーツ科学科	3.89
現代経済学科	3.88
企業システム学科	3.87
環境創造学科	3.84



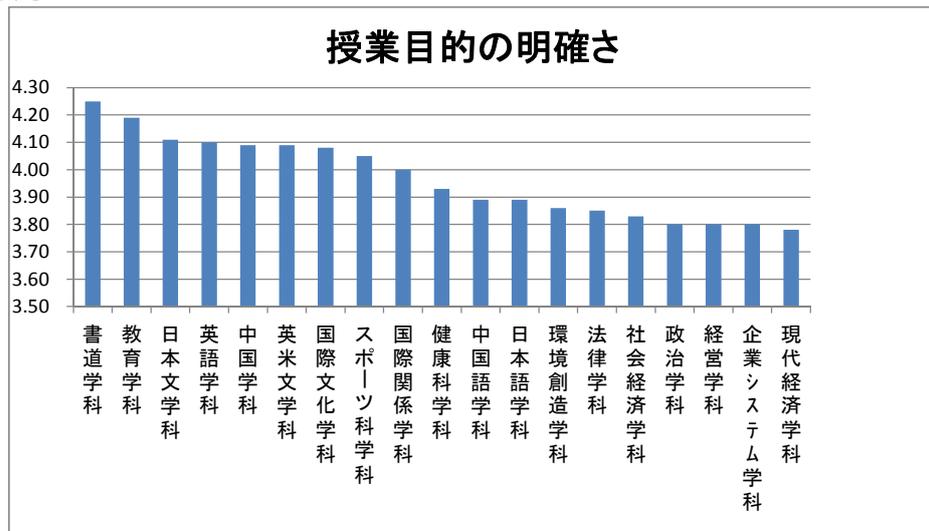
授業姿勢への自己評価

書道学科	4.00
スポーツ科学科	3.95
教育学科	3.94
英語学科	3.84
中国学科	3.83
英米文学科	3.80
健康科学科	3.75
国際関係学科	3.72
国際文化学科	3.71
中国語学科	3.70
日本文学科	3.67
社会経済学科	3.61
日本語学科	3.61
企業システム学科	3.58
環境創造学科	3.55
法律学科	3.54
経営学科	3.54
現代経済学科	3.53
政治学科	3.45



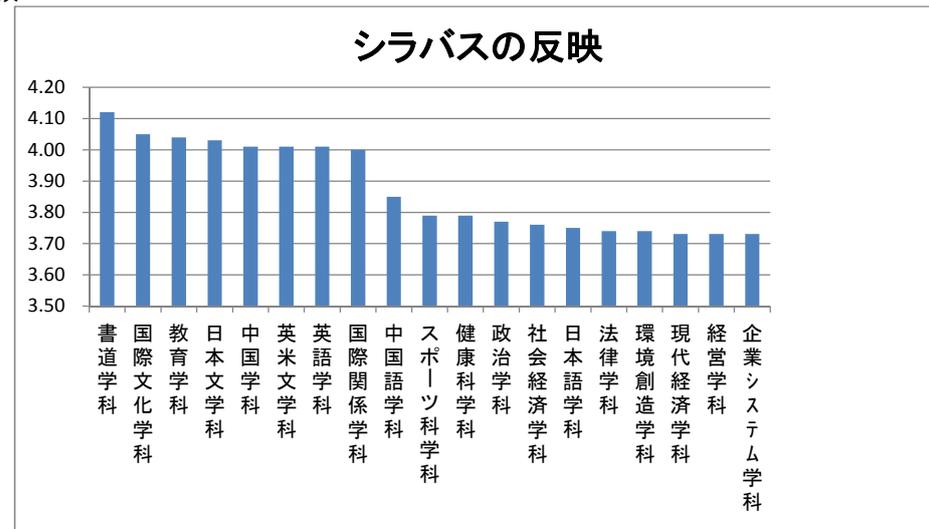
授業目的の明確さ

書道学科	4.25
教育学科	4.19
日本文学科	4.11
英語学科	4.10
中国学科	4.09
英米文学科	4.09
国際文化学科	4.08
スポーツ科学科	4.05
国際関係学科	4.00
健康科学科	3.93
中国語学科	3.89
日本語学科	3.89
環境創造学科	3.86
法律学科	3.85
社会経済学科	3.83
政治学科	3.80
経営学科	3.80
企業システム学科	3.80
現代経済学科	3.78



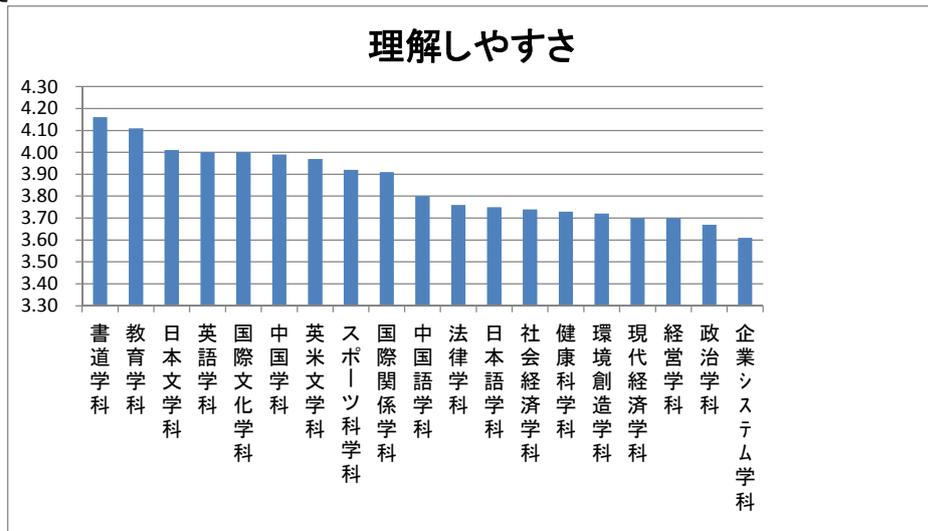
シラバスの反映

書道学科	4.12
国際文化学科	4.05
教育学科	4.04
日本文学科	4.03
中国学科	4.01
英米文学科	4.01
英語学科	4.01
国際関係学科	4.00
中国語学科	3.85
スポーツ科学科	3.79
健康科学科	3.79
政治学科	3.77
社会経済学科	3.76
日本語学科	3.75
法律学科	3.74
環境創造学科	3.74
現代経済学科	3.73
経営学科	3.73
企業システム学科	3.73



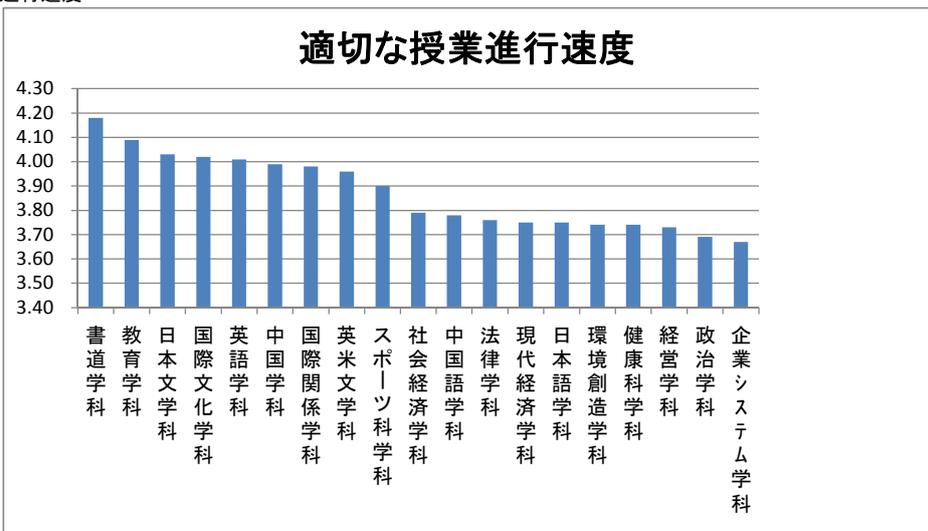
理解しやすさ

書道学科	4.16
教育学科	4.11
日本文学科	4.01
英語学科	4.00
国際文化学科	4.00
中国学科	3.99
英米文学科	3.97
スポーツ科学科	3.92
国際関係学科	3.91
中国語学科	3.80
法律学科	3.76
日本語学科	3.75
社会経済学科	3.74
健康科学科	3.73
環境創造学科	3.72
現代経済学科	3.70
経営学科	3.70
政治学科	3.67
企業システム学科	3.61



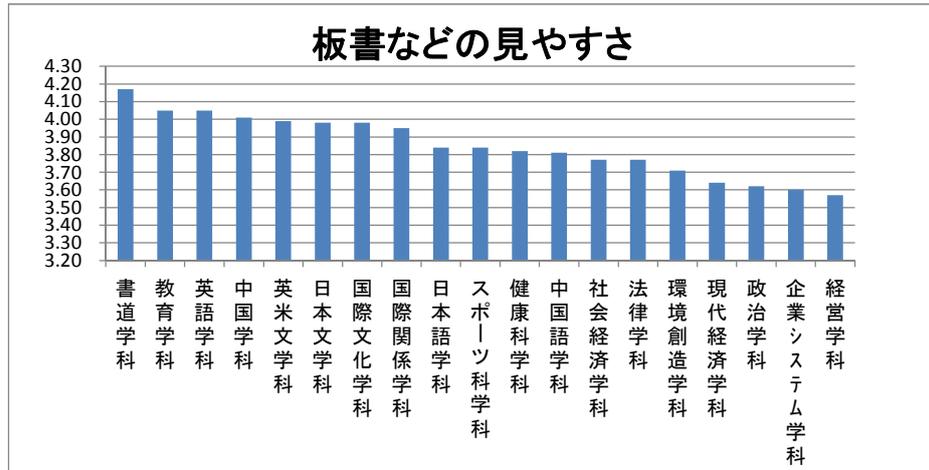
適切な授業進行速度

書道学科	4.18
教育学科	4.09
日本文学科	4.03
国際文化学科	4.02
英語学科	4.01
中国学科	3.99
国際関係学科	3.98
英米文学科	3.96
スポーツ科学科	3.90
社会経済学科	3.79
中国語学科	3.78
法律学科	3.76
現代経済学科	3.75
日本語学科	3.75
環境創造学科	3.74
健康科学科	3.74
経営学科	3.73
政治学科	3.69
企業システム学科	3.67



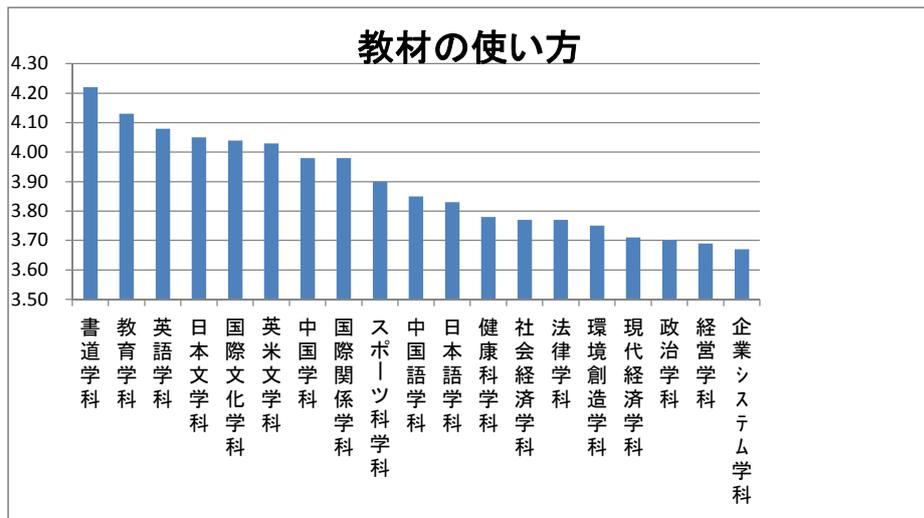
板書などの見やすさ

書道学科	4.17
教育学科	4.05
英語学科	4.05
中国学科	4.01
英米文学科	3.99
日本文学科	3.98
国際文化学科	3.98
国際関係学科	3.95
日本語学科	3.84
スポーツ科学科	3.84
健康科学科	3.82
中国語学科	3.81
社会経済学科	3.77
法律学科	3.77
環境創造学科	3.71
現代経済学科	3.64
政治学科	3.62
企業システム学科	3.60
経営学科	3.57



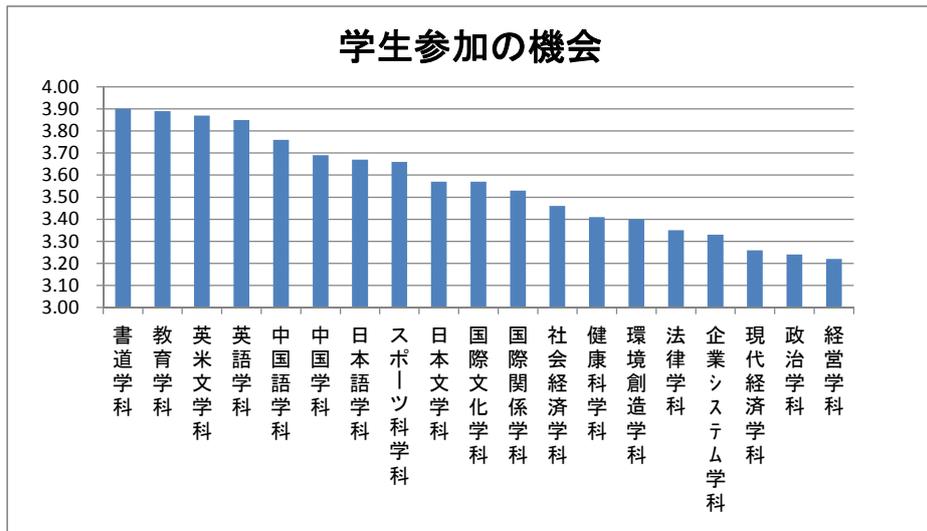
教材の使い方

書道学科	4.22
教育学科	4.13
英語学科	4.08
日本文学科	4.05
国際文化学科	4.04
英米文学科	4.03
中国学科	3.98
国際関係学科	3.98
スポーツ科学科	3.90
中国語学科	3.85
日本語学科	3.83
健康科学科	3.78
社会経済学科	3.77
法律学科	3.77
環境創造学科	3.75
現代経済学科	3.71
政治学科	3.70
経営学科	3.69
企業システム学科	3.67



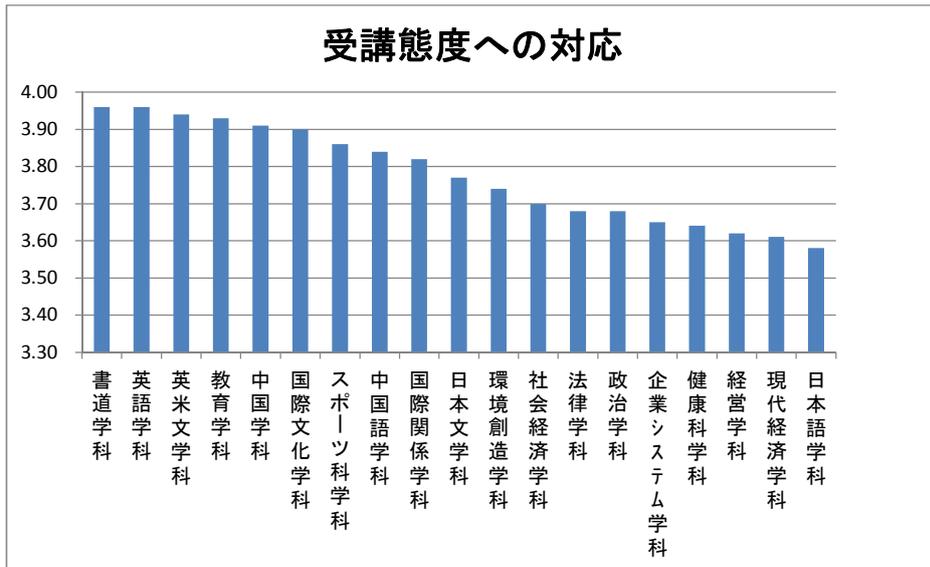
学生参加の機会

書道学科	3.90
教育学科	3.89
英米文学科	3.87
英語学科	3.85
中国語学科	3.76
中国学科	3.69
日本語学科	3.67
スポーツ科学科	3.66
日本文学科	3.57
国際文化学科	3.57
国際関係学科	3.53
社会経済学科	3.46
健康科学科	3.41
環境創造学科	3.40
法律学科	3.35
企業システム学科	3.33
現代経済学科	3.26
政治学科	3.24
経営学科	3.22



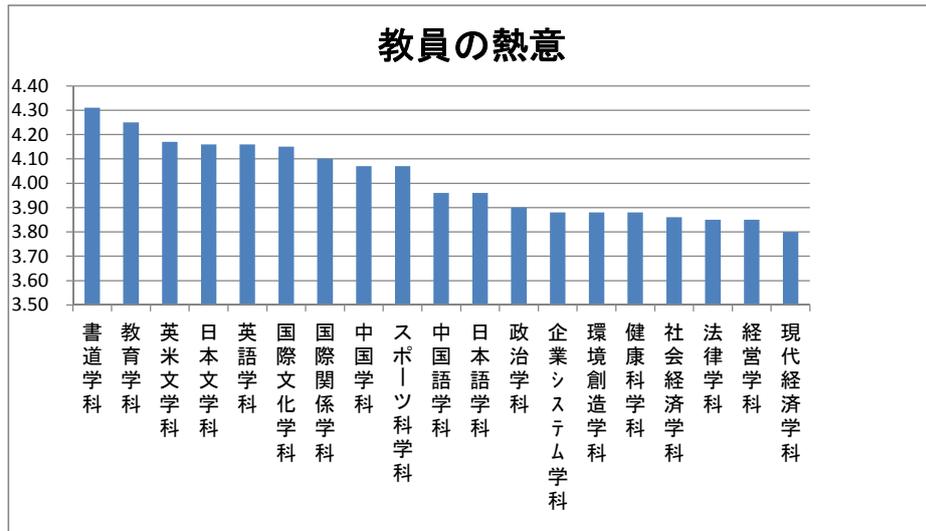
受講態度への対応

書道学科	3.96
英語学科	3.96
英米文学科	3.94
教育学科	3.93
中国学科	3.91
国際文化学科	3.90
スポーツ科学科	3.86
中国語学科	3.84
国際関係学科	3.82
日本文学科	3.77
環境創造学科	3.74
社会経済学科	3.70
法律学科	3.68
政治学科	3.68
企業システム学科	3.65
健康科学科	3.64
経営学科	3.62
現代経済学科	3.61
日本語学科	3.58



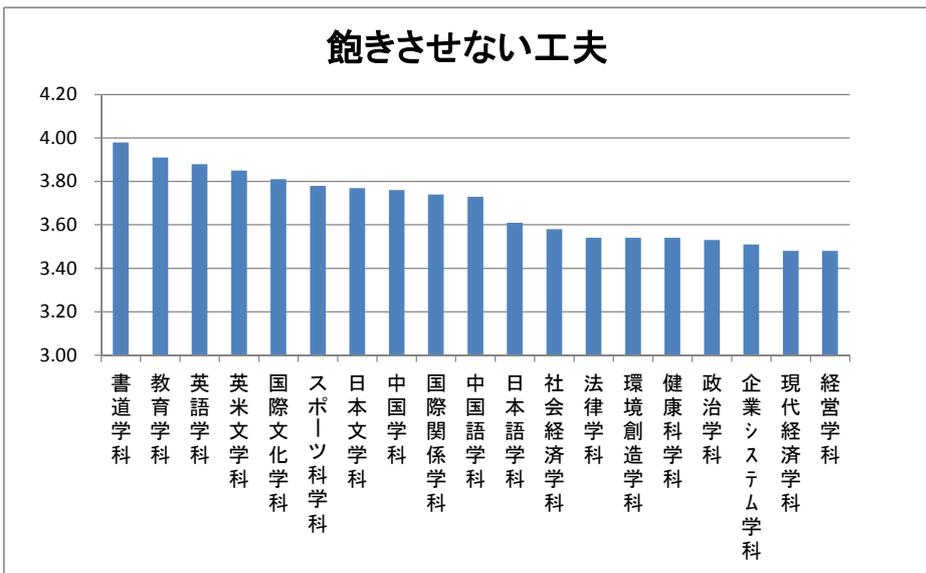
教員の熱意

書道学科	4.31
教育学科	4.25
英米文学科	4.17
日本文学科	4.16
英語学科	4.16
国際文化学科	4.15
国際関係学科	4.10
中国学科	4.07
スポーツ科学科	4.07
中国語学科	3.96
日本語学科	3.96
政治学科	3.90
企業システム学科	3.88
環境創造学科	3.88
健康科学科	3.88
社会経済学科	3.86
法律学科	3.85
経営学科	3.85
現代経済学科	3.80



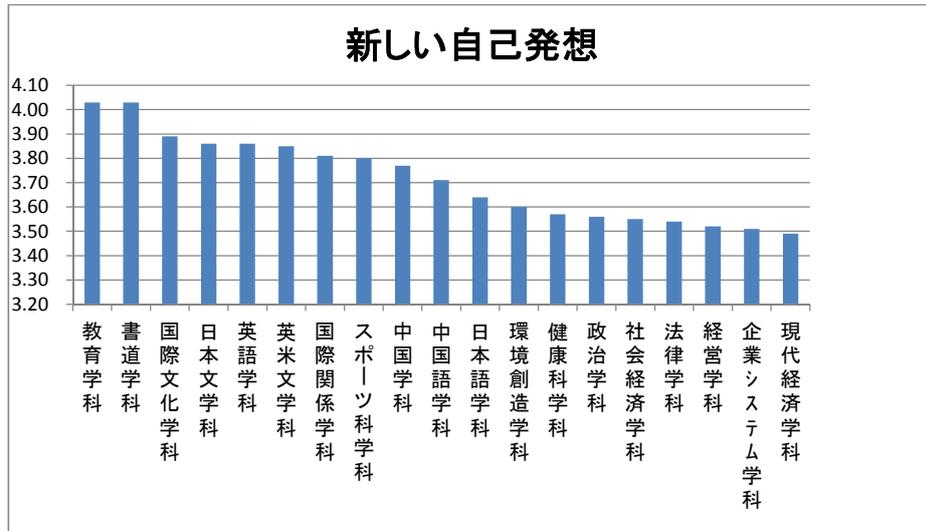
飽きさせない工夫

書道学科	3.98
教育学科	3.91
英語学科	3.88
英米文学科	3.85
国際文化学科	3.81
スポーツ科学科	3.78
日本文学科	3.77
中国学科	3.76
国際関係学科	3.74
中国語学科	3.73
日本語学科	3.61
社会経済学科	3.58
法律学科	3.54
環境創造学科	3.54
健康科学科	3.54
政治学科	3.53
企業システム学科	3.51
現代経済学科	3.48
経営学科	3.48



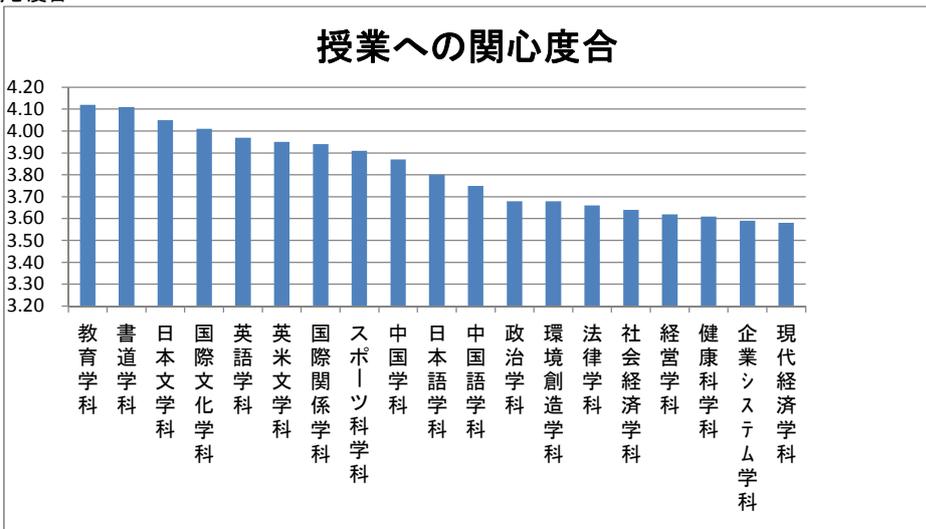
新しい自己発想

- 教育学科 4.03
- 書道学科 4.03
- 国際文化学科 3.89
- 日本文学科 3.86
- 英語学科 3.86
- 英米文学科 3.85
- 国際関係学科 3.81
- スポーツ科学科 3.80
- 中国学科 3.77
- 中国語学科 3.71
- 日本語学科 3.64
- 環境創造学科 3.60
- 健康科学科 3.57
- 政治学科 3.56
- 社会経済学科 3.55
- 法律学科 3.54
- 経営学科 3.52
- 企業システム学科 3.51
- 現代経済学科 3.49



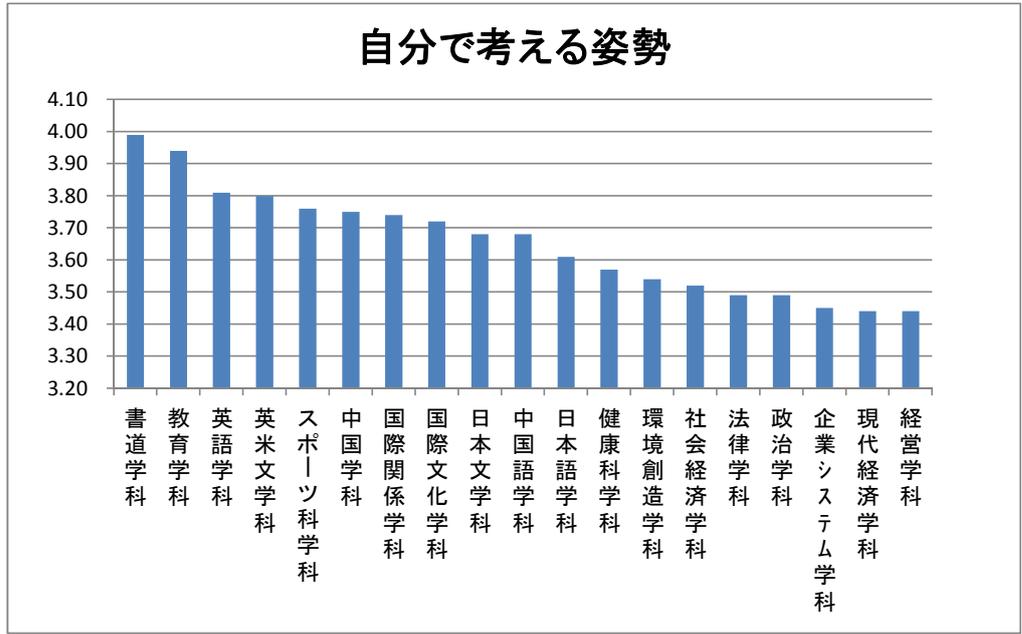
授業への関心度合

- 教育学科 4.12
- 書道学科 4.11
- 日本文学科 4.05
- 国際文化学科 4.01
- 英語学科 3.97
- 英米文学科 3.95
- 国際関係学科 3.94
- スポーツ科学科 3.91
- 中国学科 3.87
- 日本語学科 3.80
- 中国語学科 3.75
- 政治学科 3.68
- 環境創造学科 3.68
- 法律学科 3.66
- 社会経済学科 3.64
- 経営学科 3.62
- 健康科学科 3.61
- 企業システム学科 3.59
- 現代経済学科 3.58



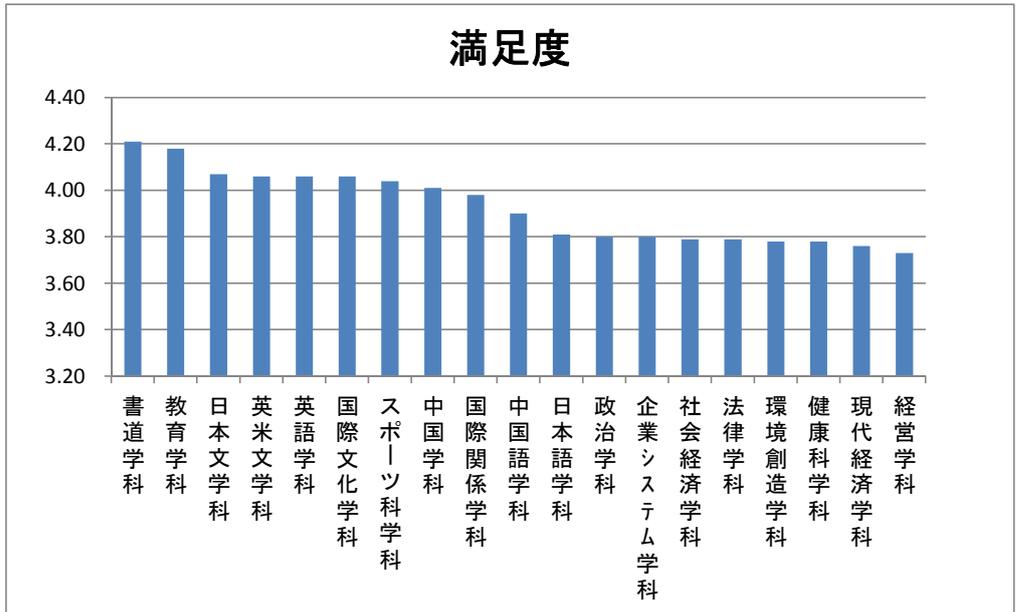
自分で考える姿勢

書道学科	3.99
教育学科	3.94
英語学科	3.81
英米文学科	3.80
スポーツ科学科	3.76
中国学科	3.75
国際関係学科	3.74
国際文化学科	3.72
日本文学科	3.68
中国語学科	3.68
日本語学科	3.61
健康科学科	3.57
環境創造学科	3.54
社会経済学科	3.52
法律学科	3.49
政治学科	3.49
企業システム学科	3.45
現代経済学科	3.44
経営学科	3.44



満足度

書道学科	4.21
教育学科	4.18
日本文学科	4.07
英米文学科	4.06
英語学科	4.06
国際文化学科	4.06
スポーツ科学科	4.04
中国学科	4.01
国際関係学科	3.98
中国語学科	3.90
日本語学科	3.81
政治学科	3.80
企業システム学科	3.80
社会経済学科	3.79
法律学科	3.79
環境創造学科	3.78
健康科学科	3.78
現代経済学科	3.76
経営学科	3.73



[ファカルティ・ディベロップメント委員会]

委員長	小松 義明 (副学長)
副委員長	田辺 清 (国際関係学部／アジア地域研究科)
副委員長	水谷 正大 (経営学研究科)
委員	石渕 聡 (文学部)
	葛目 知秀 (経済学部)
	田口 悦男 (外国語学部／外国語学研究科)
	山本 紘之 (法学部)
	白井 康之 (経営学部)
	飯塚 裕介 (環境創造学部)
	日野 るみ (スポーツ・健康科学部)
	網代 敦 (文学研究科)
	石井寿美世 (経済学研究科)
	藤井 康博 (法学研究科)
	大橋 二郎 (スポーツ・健康科学研究科)
	山口みどり (学長指名)

学生による授業評価と大学教育

大東文化大学授業評価報告書 I (全学データ)

---

発行	2017年3月31日発行 大東文化大学 〈板橋校舎〉 〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1 TEL 03-5399-7333 FAX 03-5399-7334 〈東松山校舎〉 〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560 <a href="http://www.daito.ac.jp/">http://www.daito.ac.jp/</a>
編集	大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会
印刷	株式会社日立システムズ

---